

2022年度

# 授業科目要綱（シラバス）

## 作業療法学専攻

学校法人高知学園  
高知リハビリテーション専門職大学



## 目 次(作業療法学専攻)

ページ	授業科目名	科目区分	
1	心理学	基礎科目	人間の探求
2	教育学		
3	生命倫理		
4	コミュニケーション論		社会の探求
5	社会学		
6	リーダーシップ論		
7	国際関係論		
8	地域課題研究Ⅰ		探求の地域
9	地域課題研究Ⅱ		
10	生物学		自然の探求
11	数学		
12	物理学		
13	統計学		
14	情報処理演習Ⅰ		
15	情報処理演習Ⅱ		
16	健康科学		探求の健康
17	健康とスポーツ		
18	英語Ⅰ		外国語の探求
19	英語Ⅱ		
20	英会話		
21	中国語		
22	医学英語		
23	解剖学Ⅰ(総論・神経系)	職業専門科目	専門支持科目
24	解剖学Ⅱ(内臓・脈管系)		
25	解剖学Ⅲ(骨格系)		
26	解剖学Ⅳ(筋系)		
27	生理学Ⅰ(動物性機能)		
28	生理学Ⅱ(植物性機能)		
29	運動生理学		
30	運動生理学実習		
31	基礎運動学		
32	運動機能学実習		
33	理学療法運動学演習		
34	作業療法運動学演習		
35	人間発達学		
36	医学概論		
37	病理学		

ページ	授業科目名	科目区分		
38	内科学	職業専門科目	専門支持科目	基礎医学
39	整形外科			
40	臨床神経学			
41	精神医学			
42	小児科学			
43	リハビリテーション医学			
44	臨床心理学			
45	耳鼻咽喉科学			
46	形成外科学			
47	臨床歯科医学			
48	画像診断学			
49	臨床栄養学			
50	臨床薬理学			
51	救急管理実習			
52	リハビリテーション概論		保健医療 福祉の 理念	
53	社会福祉概論			
54	地域包括ケア論		基礎作業療法学	
55	チーム連携論			
56	作業療法概論			
57	生活活動と障害			
58	基礎作業学実習			
59	応用作業学実習			
60	作業療法セミナー			
61	作業療法管理学			学療法業
62	基礎作業療法評価学			作業療法 評価学
63	作業療法評価実習Ⅰ(身体系)			
64	作業療法評価実習Ⅱ(精神・認知系)	作業療法治療学		
65	作業療法評価実習Ⅲ(発達系)			
66	作業分析学			
67	作業分析演習			
68	基礎作業療法治療学Ⅰ(身体系)			
69	基礎作業療法治療学Ⅱ(精神・認知系)			
70	作業療法日常生活活動学			
71	日常生活支援作業療法実習			
72	義肢・装具作業療法実習			
73	身体障害作業療法実習Ⅰ(中枢神経系)			
74	身体障害作業療法実習Ⅱ(脊髄・運動器系)			
75	身体障害作業療法実習Ⅲ(内部系)			
76	精神障害作業療法実習Ⅰ			

ページ	授業科目名	科目区分		
77	精神障害作業療法実習Ⅱ	職業専門科目	専門基幹科目（作業療法学専攻）	作業療法治療学
78	老年期障害作業療法実習Ⅰ			
79	老年期障害作業療法実習Ⅱ			
80	発達障害作業療法実習			
81	高次脳機能障害作業療法実習			
82	臨床作業療法技法実習Ⅰ（PBL）			
83	臨床作業療法技法実習Ⅱ（PBL）			
84	地域作業療法学			地域作業療法学
85	地域作業療法学演習			
86	生活環境支援作業療法実習			
87	機能代償支援作業療法実習			
88	就労支援作業療法演習			
89	生活活動マネジメント			
90	地域支援Ⅰ（余暇活動）			
91	地域支援Ⅱ（認知症）			臨床作業療法実習
92	作業療法臨床実習Ⅰ			
93	作業療法臨床実習Ⅱ			
94	作業療法臨床実習Ⅲ	展開科目	作業療法展開科目群	
95	土佐地域資源論			
96	社会的企業論			
97	ロボット技術活用論			
98	地域生活とサービス			
99	精神障害者の援助とネットワーク			
100	障害者の社会環境と制度			
101	地域防災論			
102	更生保護制度論			
103	特別支援教育論			
104	対人援助技術論	総合科目	応用作業療法学	
105	作業療法地域支援実習			
106	応用作業療法学演習			
107	作業療法総合演習Ⅰ			
108	作業療法総合演習Ⅱ			
109	作業療法総合演習Ⅲ			



授 業 科 目 名	心理学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	1年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	中野 良哉 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	心理学は、主としてヒトの意識とその表れとしての行動を考察する学問である。ここでは、概論として、動機づけ、認知、学習、性格、対人関係、発達などを広く扱う。それを通して、人間心理の理解を深める。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学とは何かということイメージすることができる</li> <li>2. 心理学の基礎的事項について説明することができる。</li> <li>3. 日常生活の行動を心理学的な視点から検討することができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	心理学とは 心理学の歴史と研究方法	
	2	感覚	
	3	知覚	
	4	記憶(1)記憶の仕組み	
	5	記憶(2)短期記憶、長期記憶、潜在記憶	
	6	学習(1)レスポナント条件づけ	
	7	学習(2)オペラント条件づけ	
	8	動機づけ	
	9	言語・思考・知能(1)知能	
	10	言語・思考・知能(2)問題解決	
	11	パーソナリティ(1)パーソナリティ理論	
	12	パーソナリティ(2)特性論・状況論	
	13	社会心理(1)社会的認知	
	14	社会心理(2)集団行動	
15	心理的発達		
教 科 書	必要に応じて資料を配付する		
事前事後の予習復習	配布資料を事前に読んでくること。 授業の内容を復習し理解を深めること。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	適宜紹介する		
成 績 評 価 方 法	筆記試験(100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	教育学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15 回
履 修 年 次	1 年前期・後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	谷岡 博志 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	よりよく生きることのできる人間を育成することが教育と定義される。リハビリテーションにおいて、対象者がよりよく生きることは最大の目標であり、専門職としてその基本的知識は重要となる。ストレス対処やコミュニケーションについて、教育学的知見から学修する。具体的には、専門職としての生涯教育、自己教育、対象者へ伝える、対象者を動かすなど、臨床の場で活用できる基本的知識を学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 現代社会における教育の意義や果たす役割について考察するとともに、保健医療の専門職としての目的意識やコミュニケーション力等の基礎的能力を身に付ける。 2. 各授業回のテーマに沿った「調べる・まとめる・表現する」等の学習活動をとおして、生涯にわたり主体的に学び続ける資質や態度を身に付ける。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	教育学へのアプローチ：教育をどうとらえるか	
	2	教育とは何か①：人間の発達と教育	
	3	教育とは何か②：教育の歴史と思想	
	4	教育とは何か③：学校と社会との関係	
	5	大学生の教育環境：学校接続を考える	
	6	教育の内容と方法①：教育評価と学力問題	
	7	教育の内容と方法②：人権と教育	
	8	教育の内容と方法③：教育相談とカウンセリングマインド	
	9	教育の内容と方法④：進路指導とキャリア教育	
	10	教師の仕事と教職論：専門職化を考える	
	11	教育の現代的課題①：いじめと児童虐待	
	12	教育の現代的課題②：障害児教育とインクルーシブ教育	
	13	教育の現代的課題③：性の多様性とジェンダー	
	14	教育の現代的課題④：多文化教育とシティズンシップ	
15	まとめと振り返り：これからの教育と教育学		
教 科 書	木村 元・小玉重夫・船橋一男 著『教育学をつかむ 改訂版』(有斐閣) 上記のテキストに加えて、各授業回の学習課題に関するワークシートを配付する。		
事前事後の予習復習	予習は、テキストや配付資料により授業内容を確認し、専門用語等を調べておくこと。復習は、授業ノートやワークシート等を参照して要点をまとめておくこと。		
履 修 の 条 件	リハビリテーションの各領域で専門職として求められる主体性や協調性を身に付けるため、学習活動にペアワーク、グループ発表などアクティブ・ラーニングの形態を取り入れる。そのため、授業への積極的な参加を期待する。		
参 考 文 献	岡田昭人 編著『教育学入門 30 のテーマで学ぶ』(ミネルヴァ書房) 植上一希・寺崎里水 編著『わかる・役立つ教育学入門』(大月書店) 他		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (60%)、課題レポート (20%)、小テスト・ワークシート (10%)、授業への参加及び授業中の活動状況 (10%)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	生命倫理	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	竹崎 久美子（兼任）・渡邊 聡子（兼任）		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	現代には人間の生命をめぐる多くの倫理的課題が生じている。これまで人の誕生と死は、自然の営みの一環として普遍的なものと考えられてきた。しかし、科学技術と医療技術の進歩とともにその様相は変化しており、医療や福祉に関わる専門職は、生と死を巡るイメージや倫理について改めて考え直す必要性に直面している。人間を対象とする研究や実務において、対象とする人間の尊厳を守り医療に携わる者としての基本的責務等を理解して、倫理観を身に着けることを目的とする。		
授 業 の 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 倫理的課題について考える拠り所を見つけることができる。</li> <li>・ 倫理的課題について当事者の立場にたって、思い、考え、感じることができる。</li> <li>・ 専門職者としての倫理観を持つことができる。</li> </ul>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	倫理とは 基礎理論および概念（渡邊）	
	2	倫理の原則 医療倫理 臨床倫理 職業倫理（渡邊）	
	3	医療現場の倫理的課題：生殖に関する倫理的課題（渡邊）	
	4	医療現場の倫理的課題：子どもを取り巻く倫理的課題（渡邊）	
	5	医療現場の倫理的課題：臓器移植 終末期医療（竹崎）	
	6	医療現場の倫理的課題：様々な個性を持つ人の尊厳（竹崎）	
	7	医療現場の倫理的課題：専門職としてのジレンマ（竹崎）	
	8	倫理的課題の解決方法：意思決定モデル（渡邊）	
	9	倫理的課題の解決方法：事例演習（渡邊）	
	10	倫理的課題の解決方法：事例演習（渡邊）	
	11	専門職の責務と倫理：人材育成（竹崎）	
	12	専門職の責務と倫理：連携・協働（竹崎）	
	13	専門職の責務と倫理：専門性の探求（竹崎）	
	14	専門職の責務と倫理：研究協力者の権利擁護（竹崎）	
15	組織と制度と倫理（竹崎）		
教 科 書	配付資料		
事前事後の予習復習	授業後に配布資料を読み、復習する。		
履 修 の 条 件	授業中に発言を求めたり、学生間での議論を行ったりするので、積極的な参加が求められる。		
参 考 文 献			
成 績 評 価 方 法	レポート課題、授業の参加度、リアクションペーパーを総合的に評価する		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時（要予約）		

授 業 科 目 名	コミュニケーション論	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	1年前期・後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	石川 裕治		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	家庭、学校、医療や福祉施設等の現場を含む地域社会において、日常的・非日常的に接触する人々と気持ちよく言語的・非言語的なコミュニケーションを通して、お互いに分かり合ったり思いやりをかけ合ったりして生活することが重要である。そのためには、自分の考えや意見を素直に表現してより良い人間関係を結ぶことのできる社会的なスキルであるコミュニケーション能力を習得する必要がある。対象とする人々を一人の人間として心から大切に、誠心誠意を持って対応することで、信頼関係を築く基礎を学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	1. コミュニケーションの重要性を理解する 2. コミュニケーション手段について理解する 3. コミュニケーション障害について理解する 4. コミュニケーション場면을体験する		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	オリエンテーション ・授業の目標と進め方、シラバス説明 等	
	2	コミュニケーションにおける現状と課題	
	3	コミュニケーションの重要性	
	4	コミュニケーション実践①（自己紹介）	
	5	コミュニケーションの種類	
	6	言語的コミュニケーション（音声言語）	
	7	言語的コミュニケーション（文字言語）	
	8	コミュニケーション障害の種類	
	9	コミュニケーション障害の理解（失語症を中心に）	
	10	非言語的コミュニケーション（表情）	
	11	非言語的コミュニケーション（ジェスチャー）	
	12	非言語的コミュニケーション（描画）	
	13	プレゼンテーションの仕方	
	14	コミュニケーション実践②（プレゼンテーション）	
15	コミュニケーション実践②（プレゼンテーション）		
教 科 書	必要に応じ資料等を配布する。		
事前事後の予習復習	事前に配布された講義資料を読んでおく。講義内容を復習する。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	内山靖・他 『コミュニケーション論・多職種連携論』 医歯薬出版		
成 績 評 価 方 法	筆記試験（50％）、プレゼンテーション（50％）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時（要予約）		

授 業 科 目 名	社会学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	1年前期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	玉里 恵美子 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	社会学とは、人と人が関わり合うことで形作られ変化していく社会現象を読み解こうとする学問である。具体的には、家族といったミクロ的枠組みから、会社、地域、国家などのマクロ的枠組みまでを、その変遷や課題について学ぶ。また、高知県や市町村の抱える過疎問題や高齢者福祉、地域福祉の問題について理解を深める。限界集落、集落再生、住民参加の町づくりなど、地域社会の実情を踏まえて、高齢者・障害者の社会参加への糸口を学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域社会に関する概念を理解することができる。</li> <li>2. 家族に関する概念を理解することができる。</li> <li>3. 集団や組織についての概念を理解することができる。</li> <li>4. 高知県の抱える地域課題について理解し、住民の社会参加について考察することができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	オリエンテーション/社会学とは何か	
	2	現代社会と人口動態	
	3	伝統的な地域社会	
	4	伝統的な家族	
	5	現代の地域社会と課題	
	6	現代の家族と課題	
	7	生活のとらえ方	
	8	社会的役割と社会的ジレンマ	
	9	社会的排除と社会的孤立	
	10	高知県の地域特性と課題	
	11	限界集落と集落再生	
	12	高齢者福祉と地域福祉	
	13	住民参加の町づくり	
	14	高齢者・障害者の社会参加	
15	本授業で学んだ理論や概念について理解を深め定着させる		
教 科 書	山西裕美・玉里恵美子編著『社会学と社会システム』学文社。 配布資料はファイルして持参すること。		
事前事後の予習復習	毎回、A4で1枚程度の課題を出す。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	授業時に紹介する		
成 績 評 価 方 法	小テスト1回(10%)、期末試験 (90%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	リーダーシップ論	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8
履 修 年 次	4年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	山本 双一（兼任）		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>リーダーおよびリーダーシップは、会社組織だけでなく、友人の集まり、家族など様々な場面でみられる。リーダーシップとは、ある特定の人物が、所属する組織や集団の目標達成に向けメンバーたちに影響を及ぼす力をいう。ただし、リーダーシップを発揮できるかどうかは、組織における他のメンバーがその人物をリーダーとして認めているかに依存している。</p> <p>本授業は、リーダーシップに関する様々な知識やリーダーシップを実践する上での知見を学ぶ。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<p>医療のなかの医学リハビリテーションにおけるチームとは何か、そのリーダーはどのような役割を背負うか。また将来、自身がチームリーダーになったとき、チームメンバーをどのように導くのか。チームリーダーとして必要な知識を学んだうえで、自己でシミュレーションしてみる機会とする。</p>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	チームとは、リーダーとは、チーム医療とは、を定義する。	
	2	臨床や臨地における様々なチームを列挙してみる。	
	3	チーム(メンバー)に必要な、身分と役割についての「法」を理解する。	
	4	医療にあつての、組織とチーム、それらの歴史を知る。	
	5	チームメンバーの人格向上と、ハラスメント(いじめ)を考える。	
	6	専門職業人としての、研鑽と学習の機会を知る。	
	7	リーダーシップ論から、チームリーダーの人格と技量を学ぶ。	
	8	チームメンバー間での心遣いと、チームの守り立てを考える。	
教 科 書	菅原勇基：社会人1年目の教科書。クロスメディア・パブリッシング		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	自己の考えと意識を確認してまとめる。		
履 修 の 条 件	4年次生で、臨床実習履修修了学生。		
参 考 文 献	必要に応じてプリント配布。		
成 績 評 価 方 法	レポート提出。		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業前後の時間帯。		

授 業 科 目 名	国際関係論	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15
履 修 年 次	4年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	先川 信一郎 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	世界政治のさまざまな要素について、叙述や、説明、理解、あるいは予測することなどを目的としている。国際関係の主要な出来事と学説について講義し、基礎的な事項を理解してもらうことを目指す。現在の国際政治の仕組み (そのあらましと形成過程)、 国際関係論の理論などの学説の理解、国際関係論の知見を用いて、現実世界の諸問題を分析できるようになることを到達目標とする。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本を軸に世界の主要ニュースを理解することができる。</li> <li>2. メディア・リテラシーのスキルを磨き、情報を分析・評価することができる。</li> <li>3. 人権・平和、民主主義の観点から国際関係を理解することができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	世界情勢と地政学の考え方	
	2	北朝鮮と国際社会の現状と課題	
	3	日本外交と国境問題について	
	4	アメリカ外交と歴史的な視点	
	5	アメリカ外交と安全保障	
	6	中国の近現代史と中国共産党	
	7	中国の習近平体制、三期目への課題	
	8	ロシアとユーラシアの歴史	
	9	ロシアのプーチン体制の野望	
	10	EU の誕生、その深化と拡大	
	11	NATO と東方拡大とウクライナ戦争	
	12	イスラム教の歴史的な視座	
	13	イスラム圏の苦悩	
	14	アフリカの展望とパワーゲーム	
15	宗教と民族、難民問題と各国事情		
教 科 書	特になし		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は、新聞やテレビ、ネットで報道される主要な国際ニュースや社説、コラムを読んで概要を理解しておく。復習は、講義の配布資料を参照し、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	池上彰『知らないで恥をかく世界の大大問題』1～13 角川新書 小泉悠『現代ロシアの軍事戦略』ちくま新書 ハワード・ジン『学校では教えてくれない本当のアメリカの歴史』あすなる書房 姜尚中『興亡の世界史 18 大日本・満州帝国の遺産』講談社 このほかの参考文献は、講義の中で提示します。		
成 績 評 価 方 法	最終レポート 80%、毎回の講義のショートコメント 20%。 最終レポート (3000 字程度、手書き) のテーマの選び方や書き方については、講義の中で説明します。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	チャットやメールで質問や相談を受け付けます		

授 業 科 目 名	地域課題研究 I	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8
履 修 年 次	2年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	片山 訓博、重島 晃史		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	研究の意義や目的を理解し、テーマの選択、調査研究の手順、文献検索、統計学を用いた分析方法、調査を実施するにあたっての倫理的配慮、量的研究や質的研究の手法、論文の構成や注意点、プレゼンテーションの方法についての基礎知識を学修する。本科目は「地域課題研究Ⅱ」に連動する科目でもあり、調査研究の基礎的手法や考え方の修得を目指すものである。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマの選択の仕方について説明できる。</li> <li>2. 研究の手法やデザインについて説明できる。</li> <li>3. 倫理的配慮について研究実施者が注意すべきことを説明できる。</li> <li>4. 必要な文献の検索手順が選択できる。</li> <li>5. 目的に応じた統計解析を選択できる。</li> <li>6. 論文の構成や注意点について説明できる。</li> <li>7. プレゼンテーションの方法について説明できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業のオリエンテーション、テーマの選択と決定 (PICO、PEMO)	
	2	文献検索	
	3	研究のデザイン① (量的研究および質的研究、コホート研究、症例対照研究など)	
	4	研究のデザイン② (介入研究、診断研究、システマティックレビュー、質問紙法など)	
	5	研究計画書、研究ノート・記録	
	6	倫理的配慮	
	7	データ処理と統計解析	
8	論文作成・学会発表		
教 科 書	川村孝『臨床研究の教科書』医学書院		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	必要に応じて授業終了時に次回講義に関する予習内容を提示する。復習では授業で実施した課題を再度振り返り実施する。		
履 修 の 条 件	特記事項なし		
参 考 文 献	内山靖、他・編『理学療法研究法第3版』医学書院、鎌倉雅彦、他・編著『質問紙法』北大路書房、木原雅子、他・訳『医学的研究のデザイン第4版』メディカル・サイエンス・インターナショナル		
成 績 評 価 方 法	授業態度 (10%)、課題 (20%)、定期試験 (70%)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時 (要予約)		

授業科目名	地域課題研究Ⅱ	授業形態	演習
単位数	1	回数	23回
履修年次	3年通年	必修・選択	必修
科目担当者	大倉 三洋・山崎 裕司・辻 博明・田頭 勝之・宮川 哲夫・武内 和弘・柳澤 健・濱田 和範・片山 訓博・重島 晃史・稲岡 忠勝・明崎 禎輝・石川 裕治・稲田 勤・足立 一・辻 美和・清岡 学・宮崎 登美子・吉村 知佐子・光内 梨佐・平松 真奈美・大塚 貴英・篠田 かおり・石元 美知子・有光 一樹・柏 智之		
授業の概要・目的	地域社会が抱える様々な課題の現状について、調査やフィールドワーク等を通して知り、可能であればその解決のための方策までを考える。各グループでの地域課題（テーマ）の設定、インターネットや資料等による対象となる地域の概要調査、地域での実地調査や関係者からの聞き取り調査、それらに基づく地域課題の分析と結果のまとめ、レポート作成を含む発表準備、プレゼンテーションなどを行う。これらの学修を通して地域の特徴を踏まえ、課題や魅力を発見できるような基本的な知識・技能を身につけ、それら全体を整理して説明することができる能力を養う。		
授業の到達目標	<p>地域課題研究Ⅱは、専攻を越えた学生がグループを組み、地域の課題を見つけ出し、社会で活躍するために必要な「課題解決力」を養う実践型の授業である。学生はあらかじめ設定したテーマについてグループに分かれ、地域における様々な課題を調べたり、それを解決するための方法を立案・実施・評価するために必要な知識・技術・態度を学。これらの研究活動を通して以下の能力を身につけることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他者の話を聞き正しく理解できる</li> <li>2. 専門的な文書を読み内容を正確に読み取ることができる</li> <li>3. 自分の考えを他者に説明し、内容の主旨を的確に伝えることができる</li> <li>4. 他者や自分の意見や考えを論理的にまとめることができる</li> <li>5. 課題やレポート作成を効率的かつ計画的に行うことができる</li> <li>6. 他者のグループの報告を聞き、その内容を評価し、問題点を指摘できる</li> <li>7. 関係者と良好な人間関係を築き、対人交流ができる</li> <li>8. 課題設定からまとめ、発表までの研究過程を互いに協力し実行できる</li> </ol>		
授業計画	回	内 容	
	1	オリエンテーション（地域課題研究の理解）	
	2	課題テーマ・調査対象を考える	
	3	課題テーマ・調査対象を考える	
	4	課題テーマ・調査研究計画・手法の検討	
	5	課題調査研究活動	
	6	課題調査研究活動	
	7	課題調査研究活動	
	8	課題調査研究活動	
	9	課題調査研究活動	
	10	課題調査研究活動	
	11	課題調査研究活動	
	12	課題調査研究活動	
	13	課題調査研究活動	
	14	課題調査研究活動	
	15	調査研究資料の集計・分析	
	16	調査研究資料の集計・分析	
	17	調査研究資料の集計・分析	
	18	研究発表内容の作成・準備	
	19	研究発表内容の作成・準備	
	20	研究発表内容の作成・準備	
	21	研究発表内容の作成・準備	
	22	研究発表内容の作成・準備	
23	研究成果発表		
教科書	授業資料は各教員が適宜配布する		
事前事後の予習復習	特になし		
履修の条件	地域における調査研究に適した服装・髪型などに配慮すること		
参考文献	特になし		
成績評価方法	活動参加態度（40%）、研究成果発表（30%）、レポート（30%）		
オフィスアワー	授業1回目のガイダンスで説明する		

授 業 科 目 名	生物学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	1年前期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	岡林 正幸 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	人間の身体の構造と機構を学修するにあたり、医療職に必要な高度の生物学的知識をより理解することが必要となる。生物の生命現象について、細胞レベルから、刺激と反応、および動物の行動についての仕組みまでを学修する。具体的には、細胞の構成と働き、膜電位、興奮と伝導、反射、本能的行動、細胞死などを学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命活動を細胞レベルより理解することができる。</li> <li>2. 人間の恒常性の維持にはホルモンや神経系が関与していることを理解することができる。</li> <li>3. 病気や障害について遺伝的要素が関与していることを理解することができる。</li> <li>4. 人間には様々な免疫が働いていることを理解することができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	生きているということはどういうことか	
	2	細胞のつくりと細胞説	
	3	細胞分裂	
	4	細胞や人体の化学成分	
	5	細胞および細胞膜のはたらきと膜電位	
	6	細胞の興奮	
	7	神経および神経細胞の特徴	
	8	脳のはたらきと興奮の伝達	
	9	エネルギーと代謝	
	10	内分泌と恒常性の維持	
	11	タンパク質の構造と特徴	
	12	遺伝子情報の構造と機能	
	13	遺伝子と突然変異	
	14	免疫について	
15	細胞の死・個体の死とは何か		
教 科 書	生物学入門(東京化学同人)		
事前事後の予習復習	高校で多くの学生さんは「生物基礎」を学んでいると思います。もう一度、生物基礎を見直しておくこと。		
履 修 の 条 件	特になし。		
参 考 文 献	やりなおし生物・化学(照林社)・生物のスーパー基礎(文英堂)		
成 績 評 価 方 法	定期試験 80%、レポートおよび授業態度 20%。 講義中の私語及びスマートフォン等の使用は厳禁します。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	数学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	三吉 史高 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	社会人として必要な数学の基礎的素養、および、数学の活用力を身につけることを基本とする。		
授 業 の 到 達 目 標	① 数や演算に関する基礎事項を理解し、必要な計算ができるようにする。 ② 「統計学」、「物理学」や専門科目を理解するための数学の基本を理解し、計算ができるようにする。 ③ 社会人として必要な論理的思考力・判断力を身につける。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	計算法則 (四則計算、無理数、文字式)	
	2	方程式 (1次方程式、2次方程式、連立方程式)	
	3	関数とグラフ (1次・2次関数)	
	4	不等式 (1次不等式、2次不等式)	
	5	比例、割合の計算	
	6	確率 (順列、組合せ、条件付確率)	
	7	図形 (三平方の定理)	
	8	図形 (三角比)	
教 科 書	大学生のための数学・理科基礎計算ドリル (樋口勝一著、晃洋出版)		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	配布資料について計算練習等の復習しておくこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	特になし		
成 績 評 価 方 法	試験 70%、平常点 30% (授業への参加姿勢、問題演習、レポート)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	物理学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	岡林 正幸 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	リハビリテーション技術の習得のためには、物理学的な物の見方や考え方が専門科目への基礎となる。この科目では、物体の運動と力学、電磁波の性質、電気、音と光の振動の性質などについてその原理や法則、基本的な用語に関して学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歩行時における重心移動の基礎を理解することができる。</li> <li>2. 各種リハビリにおいて、負担のない動作を理解することができる。</li> <li>3. 今後、各種のリハビリに関する補助的な器具や機器についての知識の基礎を理解することができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	物理の基礎・単位	
	2	速さと速度・力の合成と分解	
	3	仕事(熱を含む)と力学的エネルギー	
	4	力のつりあい、てこの原理と滑車	
	5	電気と電磁波	
	6	音と光の振動の性質	
	7	運動の法則と慣性	
	8	圧力(大気圧を含む)・水圧	
教 科 書	看護に必要なやりなおし数学・物理	時政 孝行著	照林社
事 前 事 後 の 予 習 復 習	高校までに学んだ理科に関する単位を確認しておくこと。 単位には様々な意味があります。		
履 修 の 条 件	特になし。		
参 考 文 献	橋元の物理をはじめからていねいに(東進ブックス) 物理一問一答(東進ブックス)		
成 績 評 価 方 法	定期試験 80%。レポート・授業態度等 20%。 私語やスマートフォン(携帯・ゲーム機等)の使用は厳禁とします。		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	統計学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15 回
履 修 年 次	1 年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	藤原 憲一郎 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	統計学の基本的な考え方と統計分析の基本的な手法を学ぶ。統計分析するために必要なデータの分布に関する知識を整理し、データが属しているグループの特性の推定、および、2つのグループ間の差を調べる検定について学修する。さらに、多変量解析の考え方を学び、多変量解析の中でも一般的な多変量回帰分析について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統計の基礎を学び、統計分析に必要な確率分布について理解する。</li> <li>2. 母集団の推定や2つのグループの検定に用いられる統計量を理解する。</li> <li>3. 標本のデータから Excel 関数を用い、統計量を求めることができる。</li> <li>4. 統計量を用い、母集団の特性の推定や2つのグループの差を検定できる。</li> <li>5. 多変量分析の概要を理解し、Excel の分析ツールを用い回帰分析ができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	講義の進め方、評価法を説明し、統計で用いられる基本用語と図を学ぶ	
	2	順列、組み合わせ、確率、確率分布について学ぶ	
	3	統計量と計算式、統計量を求める Excel 関数について学ぶ	
	4	母集団の正常範囲の推定、母集団の平均値の区間推定について学ぶ	
	5	検定と生ずる過誤、母平均と標本平均の検定について学ぶ	
	6	対応のある・対応のない2つの標本平均の検定について学ぶ	
	7	演習により母集団の推定、母集団の平均値の検定について理解を深める	
	8	母比率の範囲の推定、母比率と標本比率の検定について学ぶ	
	9	対応のない2つの標本比率の検定 (正規分布、 $2 \times 2$ 分割表) を学ぶ	
	10	フィッシャーの直接確率計算、対応のある2つの標本比率の検定を学ぶ	
	11	演習により比率の推定と検定について理解を深める	
	12	2変量の相関、相関係数の検定と推定について学ぶ	
	13	多変量分析の概要と単回帰分析、重回帰分析について学ぶ	
	14	演習により比率の推定、検定、単・重回帰分析の手法について学ぶ	
15	総合的な演習問題に取り組み、学んだ事項を整理し理解する		
教 科 書	正井・片山著『医学・保健学のためのやさしい統計学 (改訂第3版)』 金原出版 配布資料 (教科書、参考文献1を参考に編集)		
事前事後の予習復習	予習では、シラバスを参照し、教科書、資料を読み講義概要を理解しておく。 復習では、教科書、資料を参照し課題を解くことにより、講義内容を理解する。		
履 修 の 条 件	統計量、推定、検定に必要な数値は Excel で求めるので、Excel の基本操作を理解していることが望ましい。		
参 考 文 献	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 杉田 暉道、朽久保 修 共著『統計学入門』 医学書院</li> <li>2. 柳井 久江著『4Step エクセル統計第4版』 オーエム出版</li> </ol>		
成 績 評 価 方 法	課題30%、定期試験70%		
オ フ ィ ス ア ウ ー	講義時にメールアドレスをアナウンスし、可能な場合はメール対応とする。面談が必要な場合は、打ち合わせにより日時を設定する。		

授 業 科 目 名	情報処理演習 I	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15 回
履 修 年 次	1 年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	竹島 卓、高地 正音		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>情報化社会において、コンピュータの知識と操作技術の修得は、医療の現場でも必須となっている。本授業では、コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、情報機器を利用したコミュニケーションのとり方の幅を広げる。また、レポートやドキュメントの作成方法、情報の整理方法、情報検索方法等について学修する。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. データ管理や学修活動に必要な情報機器の利用ができる。</li> <li>2. レポートやドキュメントの作成ができる。</li> <li>3. 情報の共有と取り扱いについて理解する。</li> <li>4. 収集した情報を科学的に理解する。</li> <li>5. 情報検索の方法を知り、学修・研究活動に活用できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	データの管理、個人情報と管理、周辺機器の利用について	
	2	互換性とデータの拡張子について学ぶ	
	3	情報リテラシー（情報活用能力）	
	4	レポートの作成と手順 1	
	5	レポートの作成と手順 2（効果的な情報の表現技法）	
	6	グループでのレポートの作成と手順 1（ファイルの共有）	
	7	グループでのレポートの作成と手順 2（再利用）	
	8	グループでのレポートの作成と手順 3（効果的な情報の表現技法）	
	9	アンケート作成 演習	
	10	アンケート調査と集計 演習	
	11	アンケート処理と集計 演習	
	12	アンケート評価と表現 演習	
	13	文献検索システムの利用 1	
	14	文献検索システムの利用 2	
15	総合的演習		
教 科 書	noa 出版「学生のための Office スキル活用&情報モラル」		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は事前に配布する資料に従って授業前に調査しておく。復習は当日の授業で学修した内容に基づいて指定された課題を実施し指定期日までに提出する。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	noa 出版著作/制作「これだけは知っておこう!情報リテラシー」 noa 出版 2015		
成 績 評 価 方 法	課題 60%、小テスト 40%の結果を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	情報処理演習Ⅱ	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	竹島 卓、高地 正音		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>情報化社会において、コンピュータの知識と操作技術の修得は、医療の現場でも必須となっている。本授業では、コンピュータによる情報処理の仕組みを理解し、データ処理の基本と数値データ分析の基本的な方法を学ぶ。また、情報の適切な取り扱い方法を理解し、プレゼンテーションによる情報発信など、基礎知識を学ぶとともに、臨床や研究活動に活用できるよう学修する。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. データ処理の基本と数値データ分析法を理解する。</li> <li>2. データをグラフ化することでデータの特徴を効果的に可視化した資料を作成することができる。</li> <li>3. 統計ソフトやさまざまな分析方法を用いた分析方法を実践的に理解する。</li> <li>4. 各メディアの基本的な特性を理解した上で、その活用技術と効果的な情報の表現手法を身につける。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	集計と分析 1(関数の理解)	
	2	集計と分析 2(関数の理解)	
	3	集計と分析 3(関数の理解と組み合わせ)	
	4	グラフの作成 (分析 目的別表現)	
	5	集計と分析 (アンケート調査と集計)	
	6	データの分析	
	7	データの解析 (ピボットテーブルとクロス集計)	
	8	基本統計量とヒストグラム	
	9	正規母集団 正規性の検定	
	10	二群の差の検定 (t 検定)	
	11	プレゼンテーション能力の必要性 (種類・方法)	
	12	情報の収集	
	13	情報の収集と発信	
	14	マルチメディア作品の表現と評価 1	
15	マルチメディア作品の表現と評価 2		
教 科 書	noa 出版「学生のための Office スキル活用&情報モラル」		
事前事後の予習復習	予習は事前に配布する資料に従って授業前に調査しておく。復習は当日の授業で学修した内容に基づいて指定された課題を実施し指定期日までに提出する。		
履 修 の 条 件	情報処理演習Ⅰを修得していることが望ましい。		
参 考 文 献	noa 出版著作/制作「これだけは知っておこう!情報リテラシー」 noa 出版 2015		
成 績 評 価 方 法	課題 60%、小テスト 40%の結果を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	健康科学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	辻 博明		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	近年、生活水準の向上、余暇時間の増加に伴い健康づくり、体力づくりに対する社会的関心は大きな高まりをみせている。このような状況下でリハビリテーションの領域も治療から予防へと拡大してきており、地域住民の健康管理、健康指導に関わる機会も多くなってきている。健康の維持増進のためには運動・栄養・休養の三要素をバランスよく保つことが重要であるとされている。主に健康と運動についての理解を深めるとともに、体力測定を通して、健康や体力の知識を学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における健康問題と現代日本の健康施策について説明できる。</li> <li>2. 心身の調和が健康に重要であることを説明できる。</li> <li>3. 適切な栄養・食事の摂取が実践できる。</li> <li>4. 健康づくりのために必要な運動について説明できる。</li> <li>5. ストレスに対する知識と対処法を修得する。</li> <li>6. 健康を維持増進するためのスキルを修得し、実践できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	健康とは何か、QOLと健康、現代の健康問題、健康ブームとその背景	
	2	心の健康とは、心の健康の測定と評価、現代日本の健康施策	
	3	形態の意味、脂肪蓄積のメカニズムとその影響、適切な栄養・食事摂取	
	4	ストレス論、心身一如とボディーワーク、障害とは何か	
	5	健康づくりのための運動、運動強度と心臓血管系の応答、脈拍数と運動強度、有酸素性運動がもたらす効果	
	6	レクリエーション活動の恩恵、社会的健康と運動・スポーツ	
	7	体力とトレーニング、救急処置法、アダプテッド・スポーツ	
	8	健康・スポーツとライフスキル、ストレス対処、目標設定	
教 科 書	九州大学健康スポーツ科学研究会 編 『実習で学ぶ健康・運動・スポーツの科学 改訂版』 大修館書店		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は教科書の授業予定範囲から要点を抜き出し、ノートに箇条書きにする。 復習は授業で配布した資料と学んだことを確認しながらノートを整理する。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	必要に応じてプリントを配布する		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (80%)、レポート (20%) の結果を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	健康とスポーツ	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	1年前・後期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員 名	神家 一成（兼任）、矢野 宏光（兼任）、甲藤 彰男（兼任）		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	全人的な人間形成に必要な身体運動に関する科学的な知識と、筋・心肺機能についての特性を理解し、それぞれの機能の維持や向上を図るための基本的な知識を身につけ、各種のスポーツ実技を行う。加えてチームスポーツを通してコミュニケーション能力も養う。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 活動を通してスポーツの楽しさを知り、スポーツを通して交流を深めることができる。 2. 身体活動の重要性、スポーツの楽しさ、人間関係構築の大切さを考えることができる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	健康とスポーツについて	
	2	スポーツの種類とルール説明	
	3	スポーツ実践①	
	4	スポーツ実践②	
	5	スポーツ実践③	
	6	スポーツ実践④	
	7	スポーツ実践⑤	
	8	スポーツ実践⑥	
	9	スポーツ実践⑦	
	10	スポーツ実践⑧	
	11	スポーツ実践⑨	
	12	スポーツ実践⑩	
	13	スポーツ実践⑪	
	14	スポーツ実践⑫	
15	スポーツ実践⑬		
教 科 書	参考資料を適宜配布		
事前事後の予習復習	特になし		
履 修 の 条 件	運動実技に適した服装を準備すること		
参 考 文 献	『ニュースポーツ百科』 大修館書店		
成 績 評 価 方 法	活動参加態度 (70%)、レポート (30%)		
オ フ ィ ス ア フ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	英語 I	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15 回
履 修 年 次	1 年前・後期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員 名	玉井 健		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	異文化や、多様な価値観を理解する上で、重要なコミュニケーションの道具としての「英語」に慣れ親しみ、主体的、積極的に英語の学習に取り組み、広く世界を知る喜びを得ることを目標とする。高校までで修得した基礎英語を踏まえ、基本的な英文を読む能力と書く能力を学修する。英文読解能力を高めることで、英語文献を理解する基礎をつくる。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自身の英語力をふり返り問題点を考える。</li> <li>2. 英文の構成を考え、内容について批判的に理解する。</li> <li>3. 内容について自分の考えや思いを英語で表現する。</li> <li>4. 内容について自分の考えや思いを英語で共有する。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス 英語学習の振り返りと自己分析	
	2	リーディング:University education I(大学生活 I)	
	3	リーディング University education II (大学生活 II)	
	4	プレゼンテーション (準備) 発音練習	
	5	プレゼンテーション (本番)	
	6	リーディング : Human right I : Martin Luther King Jr. (人権 : M. L. キング)	
	7	リーディング : Human right II : Malcolm X-1 (人権 : マルコム X1)	
	8	リーディング : Human right III : Malcolm X-2 (人権 : マルコム X2)	
	9	リーディング : Human right IV : Jim Crow Law-1 (人権 : ジム・クロウ法 1)	
	10	リーディング : Human right IV : Jim Crow Law-II (人権 : ジム・クロウ法 2)	
	11	リーディング : Human right V : Synthesis (人権 : まとめ)	
	12	映画「グレート ディベーター」	
	13	ライティング I : Writing I 構想	
	14	ライティング II : Writing II 書直し、編集	
15	ライティング III : Writing III 発表		
教 科 書	教材プリント及びワークシートを配布する。		
事前事後の予習復習	教材とワークシートは事前に配布する。読解教材は事前に読んで意味を取り、ワークシートの問題について考え準備してくる。授業の初めに課題内容について小テストを行う。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	マルコム X 著 浜本武雄 訳 『完訳マルコムX自伝』(上・下) 中公文庫 上坂昇 『キング牧師とマルコムX』 講談社現代新書 ジェームス・M.バーダマン 著 水谷八也 翻訳 『黒人差別とアメリカ公民権運動 一名もなき人々の戦いの記録』 集英社新書 The Great Debaters (DVD) by Denzel Washington		
成 績 評 価 方 法	小テスト(30%)、プレゼンテーション(20%)、作文(10%)、 定期試験(40%)		
オ フィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	英語Ⅱ	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年前・後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	玉井 健		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	近年医療現場においては、外国人が対象となる機会が増えている。医療職として英語による情報を正確かつ効果的に入手し、理解し、英語の文章で自分の考えや事実が表現できるように基礎的な力を養って行く。特に、英語の音声聞き取り、情報内容が正確につかめるようリスニングについても学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療の現場で使用される英語情報の基礎的理解を深める。</li> <li>2. 医療現場において経験する可能性のある基礎的英語コミュニケーション力を涵養する。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	身体を表す言葉と薬の名前の学習・発音の基礎	
	2	病気と医療科目名・発音の基礎	
	3	風邪と一般的な症状の表現・コミュニケーション練習	
	4	おなかの病気に関わる表現・コミュニケーション練習	
	5	痛みを伴う病気や歯痛に関わる表現・コミュニケーション練習	
	6	けがの表現・コミュニケーション練習	
	7	診察とお見舞いに必要な表現・コミュニケーション練習	
8	歯医者との会話・コミュニケーション練習		
教 科 書	『病気になっても困らない英会話』尾崎哲夫著 南雲堂 他に必要な教材はプリントとして配布する。		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	小テスト形式で復習を行う。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	特になし		
成 績 評 価 方 法	プレゼンテーション・小テスト (40%)、定期テスト (60%)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	英会話	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年 前・後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	シヨーン バーゴイン (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	国際化が進む我が国において、多くの外国人が仕事や観光などで滞在するようになり、外国人との交流が日常になってきている。相手の考えを正確に理解できること、英語による会話で伝えたいことを正確に表現し、自分の考えを正確に相手に伝えられることを目標とする。日常生活において、幅広く外国人と交流できるように、英単語の理解、語彙力、外国の文化や社会の理解などを学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	Students will be able to use follow up questions (関連する質問) Students will be able to respond in English (あいづち) Students will be able to ask questions back (聞き返し)		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	Course orientation and conversation techniques	
	2	Conversation and activities about sports	
	3	Conversation and activities about food	
	4	Listening activities using ELLLO website	
	5	Conversation and activities about travel	
	6	Listening activities using ELLLO website	
	7	Preparation for assignment	
	8	Perform assignment	
教 科 書	All materials will be provided by the teacher		
事前事後の予習復習	Students will need to have completed high school English and show good communication skills.		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	All materials will be supplied by the teacher		
成 績 評 価 方 法	授業態度 30%, 課題 70%		
オ フィ ス ア ワ ー	After class		

授 業 科 目 名	中国語	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年次前・後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	前田 正也 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>隣国である中国とは、経済・文化・人事交流など、アジア圏の中でも交流の盛んな状況にある。中国語の初級文型を学び、実際にコミュニケーションができるよう、聞く、話す、書く、読むという四技能をロールプレイを通して効率的に学修する。具体的には、中国の音と文字に触れ、中国語式和訳や日常会話、音読、文法本文音読など、基礎的な発音、文法の習得を踏まえて、聞く、話す練習を繰り返し学修する。</p> <p>外国語学習の基本である4技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）バランスよく学び、簡単な中国語を理解し、話せるようにする。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国語と日本語の違いを理解することができる。</li> <li>2. 簡単な中国語の読み書きができる。</li> <li>3. 日常挨拶と簡単な中国語を話すことができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	中国語の語彙と文法1	
	2	中国語の語彙と文法2	
	3	第1課～第3課（人称・指示代名詞、疑問詞疑問文、副詞、所有）	
	4	第4課～第6課（量詞、形容詞、数字、日時、完了、助動詞、所在、幾つ）	
	5	第7課～第9課（前置詞、時間量、反復疑問、）	
	6	第10課～第12課（動作の態様、進行形、選択疑問、二重目的）	
	7	復習、絵教材を使用した会話1	
	8	復習、絵教材を使用した会話2	
教 科 書	《新版2訂版》 中国語はじめの一步 白水社		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は、シラバスの確認とテキストならびに配付資料を読んでおく。復習は、講義板書ならびに配付資料を参照して、要点をまとめ暗記する。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	特になし		
成 績 評 価 方 法	定期試験(100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	医学英語	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	回 数	8 回
履 修 年 次	2 年前期・後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	上羽 由香 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	医学英語の理解とその必要性は昨今のグローバル社会では通訳者、翻訳者だけではなく、幅広い分野で必要とされつつあり、とくに医療従事者の基礎知識として必要とされるものへと変化してきている。医学誌・ウェブサイトでの情報収集、論文の執筆、国際学会での発表などにおいて不可欠である医学英語について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生は英語を学ぶ必要性を考え、医学英語学習の理解を深める。</li> <li>2. 学生は医療に関連する語彙を構築し、その学習方法を習得する。</li> <li>3. 医学論文の検索方法など、専門職が必要とする情報収集の方法を習得する。</li> <li>4. 医学論文の成り立ち、構成を学ぶことで、基礎的な読解力を身につける。</li> <li>5. 学会発表やその後の討議、交流の場でのコミュニケーションに親しむ。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	医療従事者が医学英語を学ぶ必要性とその学習法について	
	2	語彙構築①～医療英単語の構成について～	
	3	語彙構築②～医療分野・部位別～	
	4	医学論文検索とその方法について	
	5	医学論文の構成とその読解①	
	6	医学論文の構成とその読解②	
	7	英語を用いたコミュニケーション/プレゼンテーション①	
	8	英語を用いたコミュニケーション/プレゼンテーション②	
教 科 書	藤枝 宏壽(編)『これだけは知っておきたい 医学英語の基本用語と表現(日本語)』第3版 メディカルビュー社 清水 雅子(著)『リハビリテーションの基礎英語』第3版 メディカルビュー社		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	語学の学習は、積極的な授業参加のみならず、日々の自主的な学習が不可欠である。授業前に、ノートや配布資料・教科書の予習・復習を最低30分すること。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	『アクセプトされる英語医学論文を書こう!』ネル・ケネディ著/メディカルビュー社 『PT・OT が書いたリハビリテーション英会話』三木 貴弘共著/メディカルビュー社		
成 績 評 価 方 法	提出物(予習・復習、授業ノート)50%(評価内訳:見やすく構成されているか、工夫がなされているか、予習や復習の自主的な学びがみられるか)、小テスト(3回)30%、参加態度20%		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業前後		

授 業 科 目 名	解剖学 I (総論・神経系)	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	高野 康夫、田口 尚弘 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	医療に携わる専門職に就く者として、人体の生体の正常な構造を正しく理解することは必須である。系統解剖学の立場から、中枢神経、末梢神経、感覚器について学修する。中枢神経系は脳と脊髄から構成され、外界からの情報を受感し、その情報を処理、統合して行動、情動、思考、記憶など高度な指令を出す重要な部分である。これらの形態と構造に関わる基礎的知識を修得する。末梢神経では、感覚器により得られた外界の情報を中枢神経に送り、中枢神経系からの出力情報を末梢効果器に伝える神経系について学習する。さらに運動神経系、感覚神経系、自律神経系の機能と形態との関連性について習得する。併せて解剖学用語などの医学用語を修得する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 解剖学の基本的な人体の形態と構造を理解することができる。</li> <li>2. 中枢神経系 (脳・脊髄) の構造・機能を理解する。</li> <li>3. 中枢神経系における神経路 (伝導路) を理解する。</li> <li>4. 末梢神経系 (脳神経・脊髄神経・自律神経) の基本構成やその走行、ならびにその傷害されやすい部位を理解することができる。</li> <li>5. 感覚器系 (外皮、視覚器、平衡聴覚器、嗅覚器、味覚器) の構造および構成を理解することができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	解剖学総論、組織学	
	2	神経系総論	
	3	大脳	
	4	脳幹・小脳	
	5	末梢神経 (脊髄神経)	
	6	末梢神経 (脳神経・自律神経)	
	7	感覚器系 (視覚器・嗅覚器・味覚器)	
8	感覚器系 (平衡聴覚器・外皮)		
教 科 書	(1) 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学」シリーズ監修 奈良勲、鎌倉矩子、編集 野村巖、最新版、医学書院 (2) 「プロメテウス解剖学コアアトラス」最新版、監訳 坂井建雄、医学書院		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	復習はその日に必ず済ませ、疑問点は参考書で調べて能動的に問題解決能力を養ってください。また予習を行い、予備知識を入れて講義に臨み、積極的に質問して専門知識をより吸収するようにして下さい。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	(1) 「プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖」第2版、2014、監訳 坂井建雄、河田光博、医学書院、(ISBN978-4-260-01441-0) (2) 「グレイ解剖学」原著第2版、2013、訳塩田浩平、瀬口春道、大谷浩、杉本哲夫、エルゼビア・ジャパン(株) (ISBN978-4-86034-773-4) (3) 「イラスト解剖学」第9版、2017、松村謙児、中外医学社 (ISBN978-4-498-00043-8)		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (60%)、小試験 (10%)、レポート (20%)、積極的な授業参加態度 (10%) の結果を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	解剖学Ⅱ (内臓・脈管系)	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	高野 康夫、田口 尚弘 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	内臓系と脈管系を中心に人体の正常構造について系統解剖学の立場から基本的な概念と知識の習得を目指す。臨床系専門科目に先駆けて、心臓血管系、リンパ系、消化器系、呼吸器系、泌尿生殖器系、内分泌系など多岐におよぶ学習範囲を系統立てて学修する。単なる名称の記憶にとどまらず、形態と機能との関わりを考え、医療に携わる者として基盤となる知識や論理性のある思考能力を身につける。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脈管系を構成する動脈・静脈と心臓の構造を理解できる。</li> <li>2. 体循環、肺循環、胎児循環を理解できる。</li> <li>3. 全身の動脈と静脈分布ならびにその分布相違を理解できる。</li> <li>4. リンパ系の構成を理解できる。</li> <li>5. 消化器系を構成する各器官の形態・構造や位置を理解できる。</li> <li>6. 呼吸器系を構成する各器官の形態・構造や位置を理解できる。</li> <li>7. 泌尿器系を構成する各器官の形態・構造や位置を理解できる。</li> <li>8. 生殖器系を構成する各器官の形態・構造や位置を理解できる。</li> <li>9. 内分泌系を構成する各器官の形態・構造や位置、分泌ホルモンを理解できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	脈管系Ⅰ (心臓)	
	2	脈管系Ⅱ (動脈・静脈・リンパ)	
	3	消化器系Ⅰ (口腔・咽頭・食道・胃・小腸)	
	4	消化器系Ⅱ (大腸・肝臓・胆嚢・膵臓)	
	5	呼吸器系	
	6	泌尿器系	
	7	生殖器系 (男性・女性)	
	8	内分泌系	
教 科 書	(1)「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学」シリーズ監修 奈良勲、鎌倉矩子、編集 野村嶺、最新版、医学書院 (2)「プロメテウス解剖学コアアトラス」最新版、監訳 坂井建雄、医学書院		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	復習はその日に必ず済ませ、疑問点は参考書で調べて能動的に問題解決能力を養ってください。また予習を行い、予備知識を入れて講義に臨み、積極的に質問して専門知識をより吸収するようにして下さい。		
履 修 の 条 件	特になし。		
参 考 文 献	(1)「プロメテウス解剖学アトラス：胸部/腹部・骨盤部」第2版、2015、監訳 坂井建雄、大谷修、医学書院、(ISBN978-4-01411-3) (2)「グレイ解剖学」原著第2版、2013、訳塩田浩平、瀬口春道、大谷浩、杉本哲夫、エルゼビア・ジャパン(株)(ISBN978-4-86034-773-4) (3)「イラスト解剖学」第9版、2017、松村譲児、中外医学社(ISBN978-4-498-00043-8)		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (60%)、小試験 (10%)、レポート(20%)、積極的な授業参加態度(10%)の結果を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	解剖学Ⅲ (骨格系)	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	高野 康夫、田口 尚弘 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>人体の基礎を構成し、運動器系の重要な器官である骨について分類・構造・発生などの総論と、それぞれの骨の部位や形態・特徴などを学修する。解剖学的用語を理解する模型を用いてそれが何骨で、特徴的な部位を指し、名称・付属するものを答えることができる。何骨と何骨が接し、何関節を構成しているかを理解する。関節の形態や動きによる分類ができる筋の解剖学的用語を理解する骨の基本的構造を知る。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総論的に骨の構造、発生・成長や連結を説明できる。</li> <li>2. 骨の構造・骨格の成り立ち、関節の構造・種類や補強構造物について説明できる。</li> <li>3. 頭蓋の構成・構造や特徴を説明できる。</li> <li>4. 脊柱および胸郭の構成・構造や特徴を説明できる。</li> <li>5. 人体の関節ならびにその運動と関連靭帯について説明できる。</li> <li>6. 上肢帯の骨と自由上肢の骨の構造と名称や特徴を説明できる。</li> <li>7. 上肢帯の骨の連結、自由上肢骨の連結とその運動、および関連靭帯を説明できる。</li> <li>8. 下肢帯の骨、自由下肢の骨の構造と名称や特徴を説明できる。</li> <li>9. 下肢帯の骨の連結、自由上肢骨の連結とその運動、およびこれら関連靭帯を説明できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	骨学総論、靭帯学総論	
	2	頭蓋・下顎骨およびその連結・靭帯	
	3	脊柱およびその連結・靭帯	
	4	胸郭・骨盤骨格およびその連結・靭帯	
	5	上肢の骨 (上肢帯・自由上肢の骨)	
	6	上肢の骨の連結・靭帯	
	7	下肢の骨 (下肢帯・骨盤・自由下肢の骨)	
教 科 書	(1) 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学」シリーズ監修 奈良勲、鎌倉矩子、編集 野村蟻、最新版、医学書院		
	(2) 「プロメテウス解剖学コアアトラス」最新版、監訳 坂井建雄、医学書院		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	<p>「解剖学Ⅲ」はリハビリ関連専門科目の中で基礎となる重要な科目です。内容的に難解で専門的な医学用語や膨大な学習知識を必要としますので、復習はその日に必ず済ませ、疑問点は参考書で調べて能動的に問題解決能力を養ってください。また予習を行い、予備知識を入れて講義に臨み、積極的に質問して、講義内容をより吸収するようにして下さい。</p>		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系」第2版、2011、監訳 坂井建雄、松村譲児、医学書院 (ISBN 978-4-260-01068-9)。</li> <li>(2) 「グレイ解剖学」原著第2版、2013、訳 塩田浩平、瀬口春道、大谷浩、杉本哲夫、エルゼビア・ジャパン (株) (ISBN978-4-86034-773-4)</li> <li>(3) 「イラスト解剖学」第9版、2017、松村譲児、中外医学社 (ISBN978-4-498-00043-8)</li> </ol>		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (60%)、小試験 (10%)、レポート (20%)、積極的な授業参加態度 (10%) の結果を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	解剖学Ⅳ (筋系)	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	高野 康夫、田口 尚弘 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	医療に携わる専門職に就く者として、人体の生体の正常な構造を正しく理解することは必須である。この科目では、筋ならびに筋を支配する神経についての構造と役割・特性について知り、人体の構造を立体的に捉え、関節と運動の仕組みについて学修する。具体的には、肩関節・肘関節、手関節、手指の関節、股関節、膝関節、足関節、体幹 (頸椎・胸椎・腰椎・仙椎) に関与する筋、神経について、名称とその概要について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 骨格筋の一般的な構造と機能を説明できる 2. 人体の主要な骨格筋の名称、構造 (起始・停止・走行)、支配神経、作用を理解する。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	筋学総論・頭頸部の筋	
	2	体幹前面の筋	
	3	体幹後面の筋	
	4	上肢帯・上肢の筋	
	5	前腕・手の筋	
	6	骨盤・殿部の筋	
	7	大腿・下肢の筋	
8	足の筋、肢・下肢の断層解剖		
教 科 書	(1)「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学」シリーズ監修 奈良勲、鎌倉矩子、編集 野村儀、最新版、医学書院 (2)「プロメテウス解剖学コアアトラス」最新版、監訳 坂井建雄、医学書院		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	「解剖学Ⅳ」はリハビリ関連専門科目の中で基礎となる重要な科目です。内容的に難解で専門的な医学用語や膨大な学習知識を必要としますので、復習はその日に必ず済ませ、疑問点は参考書で調べて能動的に問題解決能力を養ってください。また予習を行い、予備知識を入れて講義に臨み、積極的に質問して講義内容をより吸収するようにして下さい。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	(1)「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系」第2版、2011、監訳 坂井建雄、松村譲児、医学書院 (ISBN 978-4-260-01068-9), (2)「グレイ解剖学」原著第2版、2013、訳 塩田浩平、瀬口春道、大谷浩、杉本哲夫、エルゼビア・ジャパン (株) (ISBN978-4-86034-773-4) (3)「イラスト解剖学」第9版、2017、松村譲児、中外医学社 (ISBN978-4-498-00043-8)		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (60%)、小試験 (10%)、レポート (20%)、積極的な授業参加態度 (10%) の結果を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	生理学 I (動物性機能)	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	15 回
履 修 年 次	1 年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	椛 秀人 (兼任)、大迫 洋治 (兼任)、奥谷 文乃 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	人が環境に適応して活動する上で働く神経系の機能、すなわち動物的生理機能について、感覚機能、運動機能、高次脳機能などを通して学修する。主な学修内容としては「生理学の基礎」「神経・筋肉の基本的機能」「神経系の機能/概説 (自律神経系を含む)」「感覚機能」「運動機能」「神経系の高次機能」である。これらの学修を通して、人の感覚・運動機能や高次脳機能の神経メカニズムについて理解を深める。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経の興奮・伝導とシナプス伝達の機構を説明できる。</li> <li>2. 骨格筋細胞の興奮から収縮に至るまでの一連の過程を説明できる。</li> <li>3. 自律神経系の経路と働きを説明できる。</li> <li>4. 感覚受容器における生体電気信号への変換機構、感覚伝導路、感覚情報処理の特徴、感覚障害について説明できる。</li> <li>5. 運動の反射性調節、随意運動の制御系、運動中枢の障害について説明できる。</li> <li>6. 学習と記憶、情動、睡眠・覚醒の神経機構を概説できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	生理学の基礎	
	2	神経の基本的機能 (1)	
	3	神経の基本的機能 (2)	
	4	筋肉の基本的機能	
	5	神経系の機能/概説 (自律神経系を含む)	
	6	感覚機能 (1)	
	7	感覚機能 (2)	
	8	感覚機能 (3)	
	9	感覚機能 (4)	
	10	感覚機能 (5)	
	11	運動機能 (1)	
	12	運動機能 (2)	
	13	運動機能 (3)	
	14	神経系の高次機能 (1)	
15	神経系の高次機能 (2)		
教 科 書	貴邑 富久子、根来 英雄 著『シンプル生理学』改訂第7版 南工堂		
事前事後の予習復習	予習は、シラバスの確認とテキストならびに配付資料を読んでおく。復習は、講義板書、パワーポイント資料、配付資料等を参照して、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	本間研一 監修『標準生理学』第9版 医学書院 坂井 建雄、河原 克雅 編集『人体の正常構造と機能』第3版 日本医事新報社		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (100%)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	生理学Ⅱ (植物性機能)	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	梶 秀人 (兼任)、田中 健二郎 (兼任)、大塚 智子 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>人体の生命維持に関わる生理機能の仕組み、すなわち植物的生理機能について、細胞の働きから各臓器の機能を通して学修する。主な学修内容としては「細胞の生理機能」「内分泌・生殖・発生」「消化と吸収」「血液」「循環と呼吸」「腎臓」「代謝と体温、老化」である。これらの学修を通して、医療人として必要とされる生命活動やその維持機能に関して科学的視点から学習を行う。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各内分泌器官から分泌されるホルモンの産生・作用・分泌調節・分泌異常を説明できる。</li> <li>2. 生殖腺・脳の性分化、性周期発現の機序、精子形成の過程を説明できる。</li> <li>3. 栄養補給系の全体像を説明できる。</li> <li>4. 心筋細胞の電気現象、心臓の刺激伝導系、心電図のポイントを説明できる。</li> <li>5. 心拍出量・血圧の調節機序、毛細血管における物質交換の機序を説明できる。</li> <li>6. 血中酸素・二酸化炭素の運搬・処理機構、重炭酸緩衝系、呼吸の調節機構を説明できる。</li> <li>7. 腎尿管各部における再吸収・分泌機構と尿濃縮の機序を説明できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	細胞の生理機能、内部環境とホメオスタシス	
	2	内分泌 (1)	
	3	内分泌 (2)	
	4	内分泌 (3)	
	5	生殖・発生	
	6	消化と吸収 (1)	
	7	消化と吸収 (2)	
	8	消化と吸収 (3)	
	9	血液	
	10	循環と呼吸 (1)	
	11	循環と呼吸 (2)	
	12	循環と呼吸 (3)	
	13	腎臓 (1)	
	14	腎臓 (2)	
15	代謝と体温、老化		
教 科 書	貴邑 富久子、根来 英雄 著『シンプル生理学』改訂第7版 南江堂		
事前事後の予習復習	予習は、シラバスの確認とテキストならびに配付資料を読んでおく。復習は、講義板書、パワーポイント資料、配付資料等を参照して、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	本間研一 監修『標準生理学』第9版 医学書院 坂井 建雄、河原 克雅 編集『人体の正常構造と機能』第3版 日本医事新報社		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (100%)		
オ フィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	運動生理学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	大倉 三洋、辻 博明		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>運動生理学とは、身体運動によってヒトの生理機能にどのような変化が生じるのか、その現象と仕組みについて理解する学問である。解剖学や生理学を基礎として、運動時における身体機能の変化やトレーニングによる適応性について学習することで、医療現場や健康増進活動、スポーツ現場において必要とされる運動生理学の基礎知識を身につける。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動療法の基盤となる運動生理学の概要について修得する。</li> <li>2. 患者の体力、生活習慣病や介護予防の面から体力の概念、重要性について修得する。</li> <li>3. 筋機能（筋力、筋パワー、筋持久力）に関する運動生理学的知識を修得する。</li> <li>4. 運動と神経系（中枢神経、末梢神経）に関する運動生理学的知識を修得する。</li> <li>5. 運動と代謝に関する運動生理学知識を修得する。</li> <li>6. 運動と呼吸機能の関係について運動生理学面から理解を深める。</li> <li>7. 運動と循環機能の関係について運動生理学面から理解を深める。</li> <li>8. 各体力要素に対する運動処方理論を修得する。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	運動生理学と理学療法	
	2	運動と体力	
	3	運動と筋肉	
	4	運動と神経	
	5	運動と代謝	
	6	運動と呼吸	
	7	運動と循環	
8	運動処方理論		
教 科 書	石井喜八、宮下充正・他 『新訂 運動生理学概論』 大修館書店 配布資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は授業前に配布する資料中心に教科書と合わせて読んでおくこと。復習は配布資料と講義内容を参照にして要点をまとめること。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	石河利寛・他 『運動生理学』 建帛社 朝山正己・他 編 『イラスト 運動生理学』 東京教学社		
成 績 評 価 方 法	定期試験（100%）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	運動生理学実習	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	大倉 三洋、辻 博明、稲岡 忠勝、有光 一樹		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	運動を行うと、心拍数の増加、呼吸機能の亢進、また体温の上昇といった現象が見られるように、運動と器官系の機能は密接に関連している。運動生理学で学習した呼吸、循環、筋活動等の生理現象を実際に把握するため、運動中の人体の生理学的応答を測定する実習を行う。運動によって起こる身体機能の一時的変化や適応現象を観察し、データの収集、処理および考察をすすめる。具体的には、生理学のための弱電（呼吸数、心拍数、血圧、体温、皮膚温の測定）、運動時心拍数の測定、心電図の測定などである。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体生理現象の測定に関して、測定機器の作成方法あるいは使用方法や測定意義などを修得できる。</li> <li>2. 実験デザインの作成方法を修得する。</li> <li>3. 実習を通し、収集されたデータの処理及び解析方法を修得する。</li> <li>4. 解析されたデータについて、他験者も含めた変化に対して運動生理学的に考察ができる。</li> <li>5. 実験報告レポートの正しい作成方法を修得する。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス、筋力・筋持久力の測定 I	
	2	筋力・筋持久力の測定 II	
	3	筋電図の測定	
	4	筋電図の解析（積分筋電図）	
	5	運動生理学のための弱電 I（エレクトロゴニオメータ）	
	6	運動生理学のための弱電 II（ホイートストーンブリッジ）	
	7	エルゴメトリー I（呼吸代謝データの測定及び無酸素性代謝閾値の測定）①	
	8	エルゴメトリー I（呼吸代謝データの測定及び無酸素性代謝閾値の測定）②	
	9	エルゴメトリー II（全身持久性：PWC170 の測定など）①	
	10	エルゴメトリー II（全身持久性：PWC170 の測定など）②	
	11	エルゴメトリー III（心拍数、呼吸数、体温の測定）①	
	12	エルゴメトリー III（心拍数、呼吸数、体温の測定）②	
	13	心電図測定 I（安静時12誘導心電図の測定）	
	14	心電図測定 II（運動負荷時の心電図測定及び運動前-中-後の血圧変化）①	
15	心電図測定 II（運動負荷時の心電図測定及び運動前-中-後の血圧変化）②		
教 科 書	宮下充正、石井喜八・他 編著 『新訂運動生理学概論』 大修館書店		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習はオリエンテーション時に配布する実験デザインプリントを各実験前に熟読し、その項目に関する事前学習を配布プリント、教科書及び参考資料より学習してくる。復習は各課題に応じた収集資料、採点后に返却される各教員からのレポート添削をまとめ、見直すと共に1～5の目標が達成できるまで練習やレポート指導を受けること。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	中村隆一、齋藤宏・他 『基礎運動学』第6版補訂 医歯薬出版 真島英信・他 『人体生理の基礎』 杏林書院		
成 績 評 価 方 法	各課題における実験レポート（100%）		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	基礎運動学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	重島 晃史		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	人間が運動する場合、筋・骨格系のみならず人間の正常な身体運動の発生機序と、それに関わる身体構造と機能の関係を学習する。具体的には、運動の成り立ち、力学の基礎、人体の重心、支持基底面と重心線との関係、全身の重心と分節構造、角加速度と慣性モーメント姿勢とその制御などで、てこの種類と人体での作用の例、てこの力学的有利性、身体重心と安定性について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全身の主要な関節とその関節運動を説明できる。</li> <li>2. 運動の観察と分析の手法が理解できる。</li> <li>3. 身体運動における「てこ」とモーメントが理解できる。</li> <li>4. 身体の重心および安定性との関係が理解できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	オリエンテーション、運動学の概念と身体運動のとらえ方	
	2	運動学と運動力学	
	3	身体運動の面と軸	
	4	全身の主要な関節とその関節運動①	
	5	全身の主要な関節とその関節運動②	
	6	全身の主要な関節とその関節運動③	
	7	身体部位と運動の観察①	
	8	筋の作用と収縮様式①	
	9	筋の作用と収縮様式②	
	10	身体運動とてこの関係①	
	11	身体運動とてこの関係②	
	12	身体運動とてこの関係③	
	13	姿勢と安定性①	
	14	姿勢と安定性②	
15	身体動作の観察と分析		
教 科 書	中村隆一、他・著『基礎運動学第6版補訂』医歯薬出版株式会社 ヒントレ研究所 編 『PT・OT 基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編』改訂第2版 南江堂		
事前事後の予習復習	必要に応じて授業終了時に次回講義に関する予習内容を提示する。復習では授業で実施した課題を再度振り返り実施する。		
履 修 の 条 件	特記事項なし		
参 考 文 献	鎌倉矩子、他『PT・OT 学生のための運動学実習』三輪書店 藤澤宏幸、他『観察による運動・動作分析演習ノート』医歯薬出版株式会社 江原義弘、他『PT・OT・PO 身体運動の理解につなげる物理学』南江堂		
成 績 評 価 方 法	授業態度 (10%)、小テスト (40%)、定期試験 (50%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	運動機能学実習	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15 回
履 修 年 次	2 年前期	必 修 ・ 選 択	選択
担 当 教 員 名	相澤 徹、重島 晃史、有光 一樹		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	身体を構成する各関節について、正常な基本動作の関節運動メカニズムと動作特性について学修する。具体的には、関節運動の基礎、股関節、膝関節、足関節、脊椎、肩関節、肘関節の運動法則と運動のメカニズムについて学修する。本講義は、身体障害領域における評価・治療の基本となる知識を学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 身体における各関節の解剖学的構造や機能を再理解し、身体動作運動との関連について習得する。 2. 解剖学及び運動学で学んだ専門用語を適切に活用できるようになる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス・運動機能学概論 授業進行方法の説明、解剖学及び運動学における基礎用語、基礎知識の復習	
	2	股関節Ⅰ・解剖学的構造と特徴、運動に関わる筋	
	3	股関節Ⅱ・身体運動における関節の動きと特徴	
	4	膝関節Ⅰ・解剖学的構造と特徴、運動に関わる筋	
	5	膝関節Ⅱ・身体運動における関節の動きと特徴	
	6	足関節及び足部Ⅰ・解剖学的構造と特徴、運動に関わる筋	
	7	足関節及び足部Ⅱ・身体運動における関節の動きと特徴	
	8	肩甲帯・解剖学的構造と特徴、運動に関わる筋	
	9	肩甲帯及び肩関節・解剖学的構造と特徴、運動に関わる筋	
	10	肩甲帯及び肩関節・身体運動における関節の動きと特徴	
	11	肘関節・解剖学的構造と特徴、運動に関わる筋・身体運動時の関節の動きと特徴	
	12	手関節と手指Ⅰ・解剖学的構造と特徴、運動に関わる筋	
	13	手関節と手指Ⅱ・身体運動における関節の動きと特徴	
	14	脊椎Ⅰ・解剖学的構造と特徴、運動に関わる筋	
15	脊椎Ⅱ・身体運動における関節の動きと特徴		
教 科 書	渡辺正仁 『PT・OT・STのための解剖学』第4版 廣川書店 中村隆一、齋藤宏、長崎浩 『基礎運動学』第6版 医歯薬出版		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	単元毎に授業プリントを配布するので、教科書と併せて熟読し、予習しておくこと。授業後は骨モデルなどで詳細を復習すること。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	荻島秀男 監訳 『カバンディ関節の生理学 下肢 体幹 上肢』 医歯薬出版 井原秀俊 他訳 『関節・運動器の機能解剖 上肢・脊柱編 下肢編』 協同医書出版社		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (90%)、小テスト (10%)、ただしこの比率は若干変更する場合もある。		
オ フィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	理学療法運動学演習	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	山崎 裕司・柏 智之		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	人間が動作するには、動作に必要な関節可動域、筋収縮、重心位置と支持基底面の関係を適切に保つバランス、動作学習の要素が必要である。授業では、動作と関節可動域、筋収縮、バランス、動作学習の関係について学ぶ。そして、起居動作や歩行・階段動作の観察、分析から、これらの動作に必要な関節可動域、筋収縮、バランスが理解できるように学習していく。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動作中の関節可動域を見積もることができる。</li> <li>2. 動作中の筋活動が理解できる。</li> <li>3. 動作中の重心と支持基底面の関係が理解できる。</li> <li>4. 動作の獲得に必要な学習の働きが理解できる。</li> <li>5. 動作観察・分析からその動作に必要な関節可動域、筋活動、バランスが分析できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス、単関節運動中の関節可動域の見積もり	
	2	複合関節運動中の関節可動域の見積もり	
	3	動作中の関節可動域の見積もり①	
	4	動作中の関節可動域の見積もり②	
	5	単関節運動中の主動作筋の理解	
	6	主動作筋、拮抗筋、共同筋、固定筋、筋収縮様式の理解	
	7	動作中の主動作筋、筋収縮様式の見積もり①	
	8	動作中の主動作筋、筋収縮様式の見積もり②	
	9	動作中の重心位置と支持基底面の関係の理解、平衡機能とバランスの理解	
	10	支持基底面と視覚、前庭機能が立位バランスに与える影響の理解	
	11	運動学習の基本原則と基本手技	
	12	運動学習（車椅子のキャスター挙げ操作を題材として初めての動作の学習体験を実施）	
	13	動作観察練習（立ち上がり、起き上がり動作）動画の観察から動作中の関節可動域、筋活動、重心位置と支持基底面の変化を分析	
	14	動作観察練習（歩行1） ：動画の観察から歩行中の関節可動域変化、筋活動変化を分析	
15	動作観察練習（歩行2）動画の観察から歩行中の関節可動域変化、筋活動変化、重心位置と支持基底面の変化を分析		
教 科 書	ヒントレ研究所 編『PT・OT 基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編』 南江堂		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	授業終了時に次回の授業の予習内容を伝える。授業理解に欠かすことのできない、関節の運動方向、筋肉作用や関節可動域表現方法など基礎的知識の記憶を予習で行う。復習は、授業で行った練習課題をもう一度行う。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	山崎裕司・山本淳一 編 『リハビリテーション効果を最大限に引き出すコツ第2版』 三輪書店		
成 績 評 価 方 法	課題（10%）、小テスト（20%）、定期試験（70%）の結果を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	作業療法運動学演習	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	清水 一・石元美知子・有光 一樹		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	人が作業をする場合に必要となる運動制御と身体運動について、日常生活上の各種動作における運動学的分析について学修する。具体的には、運動神経回路の働きと各動作における運動コントロールを理解していく。また、日常生活の各種動作における手や上肢機能、姿勢、歩行などの移動について分析することで、身体障害領域における評価・治療の基本となる知識を学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人の動きを、解剖学と運動学に照合させ関節や筋肉の特性から特徴が説明できる。</li> <li>2. 人の動きを運動学の用語を用いて生体力学的に分析できる。</li> <li>3. 運動のタイプを神経系やエネルギー代謝・呼吸循環器系から説明できる。</li> <li>4. 姿勢・歩行を運動学的に分析して運動相(パターン)として説明することができる。</li> <li>5. 動作習熟の側面を運動速度、力、フォームから分析することができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	作業療法運動学演習授業概説と下肢帯および下肢の関節運動概説と演習	
	2	下肢帯と下肢の機能解剖演習	
	3	下肢帯および下肢の関節運動と演習と実習	
	4	上肢帯および上肢の関節運動概説と演習	
	5	上肢帯および上肢の関節運動(肩甲帯・肩関節)の演習と実習	
	6	上肢帯および上肢の関節運動(肘関節・前腕・手関節・指)の演習と実習	
	7	頭頸部・体幹の機能解剖演習	
	8	脊柱・体幹の関節運動の演習と実習	
	9	②EMGを用いた筋活動の分析(視覚、触覚、聴覚、二重課題反応時間)	
	10	③静止姿勢(重心(直接法と間接法)、アライメント、リーチ test)の分析	
	11	④姿勢と動作分析(記述による) 起き上がり、立ち上がり、把持様式…	
	12	⑤歩行分析(カメラあるいはスマホ動画による)	
	13	⑥呼吸と循環 運動負荷 6分間歩行 test、漸増シャトルウォーキング test	
	14	⑦運動学習分析(速度、筋力、エラー数、フォーム)の習熟特性	
15	総括と発表 ①から⑦班の成果発表 1班10分程度		
教 科 書	①理学療法・作業療法テキスト 運動学実習 中山書店 2016 ②PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート 第2版 医歯薬出版 2016		
事前事後の予習復習	各授業前日までに教科書の関係部分①ならびに②を精読してくる。7班の集団で学習するが各班に1回ずつ担当部分の講義を課すので講義の準備も		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	基礎運動学 第6版 医歯薬出版		
成 績 評 価 方 法	提出演習レポート11回分(80%)と発表担当①から⑦のうち1回分(30%)		
オ フィ ス ア ワ ー	火曜日午後		

授 業 科 目 名	人間発達学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	中野 良哉 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>生命が誕生するしくみと生まれるまでの各組織の発生、さらに乳幼児から小児期・少年期までの運動と認知機能および情意面の発達の違いやその特徴について学修する。これらの学修を通じて、人間が発達するために多くの支援や環境が必要であることの理解を深める。また、成人期・老年期そして死に至るまでの量的・質的变化(老化)の過程について、発達という観点から生理機能、運動機能および認知機能について考究し理解を深める。それぞれの時期に特徴的に出現する病気や障害について、人間のライフサイクルという視点に立って理解する。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の心身の発達に興味を持つことができる。</li> <li>2. 発達の基本的な知識や概念を理解し、説明できる。</li> <li>3. 発達の順序、発達課題を理解することができる</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	発達理論・発達の研究法	
	2	胎児期・新生児期の発達	
	3	乳児期の発達	
	4	幼児期の発達	
	5	児童期の発達	
	6	青年期の発達	
	7	成人期・中年期の発達	
8	高齢期の発達		
教 科 書	必要に応じて資料を配付する		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	<p>配布資料を事前に読んでくること。 授業の内容を復習し理解を深めること。</p>		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	適宜紹介する		
成 績 評 価 方 法	筆記試験を行い(100%)、総合評価する		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	医学概論	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	吾妻 美子 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	臨床医学におけるその基本的考え方と基礎を理解し、医療人としての見識を学修する。具体的には、医学及び医療の歴史、感染症とその対策、生命倫理移植医療、インフォームド・コンセントなど再生医療、生命倫理、病気の診断と治療、リハビリテーションの役割、予防医学、生活習慣病の原因と予防法、平均寿命と健康寿命、老化と死などについて学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代医療における基礎医学、臨床医学の各分野について理解することができる。</li> <li>2. 医学・医療の歴史と発展に貢献した人物について理解することができる。</li> <li>3. 移植医療、再生医療、ゲノム医療と生命倫理について考察することができる。</li> <li>4. 現代医療におけるリハビリテーションの役割について理解することができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	基礎医学と臨床医学、各医療職種とその果たす役割	
	2	医学及び医療の歴史	
	3	感染症（1）予防と消毒の方法	
	4	感染症（2）院内感染症とバイオハザード	
	5	平均寿命と健康寿命、老化と死	
	6	移植医療（臓器移植と骨髄移植）と生命倫理、インフォームド・コンセント	
	7	再生医療の基礎概念と生命倫理、現代および未来において果たす役割	
	8	ゲノム医療と生命倫理、ヒトの遺伝、がん遺伝子、遺伝カウンセリング	
教 科 書	日野原重明著『系統看護学講座 別巻 医学概論』医学書院 配布資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は、シラバスの確認とテキストをよく読み問題点を明らかにしておく。復習は、講義板書ならびに配付資料を参照して、要点をまとめノートを整理する。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	ステイーブ・パーカー著『医療の歴史』創元社 服部成介著『よくわかるゲノム医学』羊土社		
成 績 評 価 方 法	定期試験（90%）、レポート（10%）、		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時（要予約）		

授 業 科 目 名	病理学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	必須
科 目 担 当 者	吾妻 美子 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>病気の原因、発生機序の解明や病気の診断を確定するのを目的とする学問であり、疾病の原因、経過および結果など、疾病の成り立ちについて学修する。具体的には、病理学理論、各種疾病の病態の概要、代謝異常、退行性病変、進行性病変（増殖と修復）、循環障害、炎症と免疫、感染症、腫瘍、放射線障害、老化、先天的異常および各種疾患について学ぶ。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病理学の目的である病気の原因や発生機序を理解することができる。</li> <li>2. 医学、医療において病理診断が果たしている役割を理解することができる。</li> <li>3. 各種疾病の病態や臨床症状を学ぶことにより、患者の痛みや苦しみを理解することができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	病理学の概要と医療における病理診断の果たす役割。病気の原因	
	2	退行性病変（変性、萎縮、壊死 etc.）、進行性病変（肥大、化生 etc.）	
	3	代謝障害（蛋白質、アミノ酸、核酸、脂質、糖質、無機物質、色素）	
	4	循環障害（体液循環、局所の循環障害、全身循環障害）	
	5	炎症（原因、炎症細胞）、感染症（感染経路、病原微生物の種類と疾患）	
	6	免疫の概念、免疫不全、アレルギー、自己免疫疾患、移植	
	7	腫瘍（定義、原因、分類、形態、進展様式、発癌のメカニズム、治療法）	
	8	先天異常、奇形（遺伝性疾患、染色体異常症、奇形）	
教 科 書	梶原博毅監修、横井豊治、村雲芳樹編集『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学』医学書院、配布資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は、シラバスの確認とテキストをよく読み問題意識を涵養しておく。復習は、講義板書ならびに配付資料を参照して、要点をまとめノートの整理をする。		
履 修 の 条 件	特になし。		
参 考 文 献	大橋健一、谷澤徹著『系統看護学講座 専門基礎分野 病理学』医学書院		
成 績 評 価 方 法	定期試験（100%）		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時（要予約）		

授 業 科 目 名	内科学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	2年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	小野 歩 (兼任)・田中 肇 (兼任)・竹中 奈奈 (兼任)・石元 篤雄 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	内科学の概念、おもな症状、臨床検査、治療法、主要な内科疾患などを理解する。内科疾患から起こる障害に対するハビリテーションを実施する際の基礎知識をつけ、実践の場で役立てられることを目的とする。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内科の基本的な診察方法と検査方法について説明できるようになる。</li> <li>2. 内科の各疾患の症候と病態生理について説明できるようになる。</li> <li>3. 内科の各疾患の診断方法について説明できるようになる。</li> <li>4. 内科の各疾患の治療方法について説明できるようになる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	内科学総論、診療と治療の実際、治療 内科学の概念、内科臨床とリハビリテーション、臨床医学の実際、診断の進め方、臨床検査とデータの解析・治療、治療についての考え方の変化と新しい治療	
	2	循環器疾患総論① 心臓血管系の構造と働き、症候、身体診察、検査、高血圧	
	3	循環器疾患総論② 心臓血管系の構造と働き、症候、身体診察、検査、高血圧	
	4	循環器疾患各論① 心不全、虚血性心疾患、不整脈、弁膜症、心筋疾患、心膜疾患、先天性心疾患、大動脈疾患、末梢動脈疾患肺性心	
	5	循環器疾患各論② 心不全、虚血性心疾患、不整脈、弁膜症、心筋疾患、心膜疾患、先天性心疾患、大動脈疾患、末梢動脈疾患肺性心	
	6	呼吸器疾患総論 肺の構造と生理、症候と病態生理、診療、検査、呼吸器リハビリテーション、呼吸不全	
	7	呼吸器疾患各論 呼吸器感染症、慢性閉塞性肺疾患、びまん性汎細気管支炎、気管支喘息、拘束性肺疾患、腫瘍性肺疾患、胸膜疾患、異常呼吸	
	8	消化器疾患 消化管の解剖と生理、症候と病態生理、診断、口腔疾患、食道疾患、胃・十二指腸疾患、小腸・大腸疾患	
	9	肝・胆・膵疾患 肝・胆・膵の解剖と生理、症候と病態生理、検査、肝疾患、胆道疾患、膵疾患、腹膜疾患	
	10	血液・造血器疾患 血液の形態と生理、血液細胞の生成と分化、症候と病態生理、検査、赤血球系疾患、白血球系疾患、リンパ系疾患、異常蛋白血症、出血性疾患	
	11	腎・泌尿器疾患 腎の解剖と生理、症候と病態生理、検査、腎不全、糸球体疾患、尿管機能異常、腎硬化症、薬剤性腎障害、尿路疾患、腫瘍	
	12	代謝疾患 代謝調節、水・電解質代謝異常、糖尿病、高脂血症、肥満症、メタボリックシンドローム、痛風、骨粗鬆症	
	13	内分泌疾患 ホルモンの作用機序、内分泌腺の解剖生理、症候と病態、検査、下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患	
	14	膠原病・アレルギー性疾患・免疫不全 免疫総論、自己免疫性疾患（膠原病）、アレルギー疾患、免疫不全	
15	感染症 感染症総論、細菌感染症、ウイルス感染症、その他の感染症、寄生虫症		
教 科 書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版』医学書院		
事前事後の予習復習	予習として、授業予定の内容について教科書の該当部分を読み把握しておくこと。 復習として、授業中に強調した部分を中心に教科書を読み、身につけるべき知識の再確認を行うこと。		
履 修 の 条 件	内科学で理解しなければならない事項が多いため、プリントの内容をスライドで提示しながら講義を進める。講義内容が多いため、かなりの集中力を要する。		
参 考 文 献	コメディカルのための内科学 第3版 医/学出版社		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (100%)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業終了後に質問を受けつける。		

授 業 科 目 名	整形外科科学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	2年後期	必 修 ・ 選 択	選択
担 当 教 員 名	相澤 徹		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	運動器疾患の構造と機能を理解し、整形外科的診断、治療法を理解する。骨折、脱臼、および神経、関節、脊椎、上肢、下肢の外傷、先天異常、骨軟部腫瘍、感染症、骨系統疾患、筋疾患、各関節脊椎の慢性・変性疾患について解説し、そこから生じる障害について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	整形外科における運動器の形態・機能・病態生理と評価・検査・治療方法、および総論的主要疾患等について、リハビリテーションに必要な基礎的知識と概念を獲得する。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	整形外科の基礎科学、整形外科診断総論	
	2	整形外科とリハビリテーション医学、四肢切断と義肢	
	3	骨・関節・筋肉の感染症、リウマチとその類縁疾患	
	4	慢性関節疾患（退行性、代謝性）、四肢循環障害と阻血壊死性疾患	
	5	先天性骨系統疾患と先天異常症候群、代謝性骨疾患	
	6	骨腫瘍、軟部腫瘍、神経疾患、筋疾患	
	7	肩関節、肘関節の外傷	
	8	手関節および手指の外傷	
	9	頸椎、胸郭、腰椎の外傷	
	10	股関節、膝関節、足関節と足趾の外傷	
	11	軟部組織損傷	
	12	骨折・脱臼総論	
	13	骨折・脱臼（上肢、下肢）、脊椎・脊髄損傷	
	14	末梢神経損傷	
15	スポーツ傷害、救急災害		
教 科 書	松野丈夫、中村利孝 総編集 『標準整形外科学』第12版 医学書院		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は教科書の授業予定範囲を読んでおくこと。復習は講義内容を参照して要点をまとめること。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	特になし		
成 績 評 価 方 法	定期試験（100%）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	精神医学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	大原伸騎（兼任）、上村直人（兼任）、諸隈陽子（兼任）、大石りさ（兼任）、 長野敏宏（兼任）		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	精神医学で取り扱う疾患の領域について、正しい知識を身につけ精神疾患に対する理解を深めるとともに、精神障害の成因と分類、精神機能の障害と精神症状、感情欲動および意志自我とその障害などについて学修する。具体的には、統合失調症およびその関連障害、気分（感情）障害、精神作用物質による精神および行動の障害、神経症性障害、てんかん、生理的障害および身体的要因に関連した障害、成人のパーソナリティ・行動・性の障害、精神遅滞[知的障害]、心理的発達の障害、認知症とその特徴大脳皮質の変性疾患などである。また、精神障害の治療とリハビリテーション、精神科の保健医療と福祉、およびメンタルヘルスについても学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	精神医学の領域について、正しい知識を身につけ精神疾患に対する理解を深めるとともに、精神科作業療法の対象者に適切な対応ができるようになること。		
授 業 計 画	回	内 容	担 当
	1	精神医学とは	大原
	2	精神障害における症状	大原
	3	精神科面接法と診断への過程	大原
	4	症状性を含む器質性精神障害	諸隈
	5	精神作用物質使用による精神および行動の障害	大原
	6	統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	大原
	7	気分（感情）障害	大原
	8	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	大原
	9	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	大原
	10	成人のパーソナリティおよび行動の障害	大原
	11	児童・青年期の精神障害	大原
	12	高齢者と精神医学	大石
	13	各精神疾患の病態生理と薬物療法	上村
	14	精神科包括治療と作業療法	長野
15	地域社会と精神医療・保健・福祉	長野	
教 科 書	『学生のための精神医学』第3版、医歯薬出版、配布資料		
事前事後の予習復習	「作業療法評価学実習Ⅱ（精神・認知系）」の履修においても重要な科目であり、教科書を事前に読んで、予習をしておくこと。言葉の理解をできるようにすること。 講義後の復習として、「作業療法概論」「生活活動と障害」の履修内容を参考にして、疾患等をしっかりイメージしながら理解を深めるように学習すること。		
履 修 の 条 件	精神医学に関する各種新書を興味関心に応じて読むことが望ましい。		
参 考 文 献	『臨床につながる精神医学』医歯薬出版 『標準理学療法・作業療法 精神医学』第4版 医学書院		
成 績 評 価 方 法	定期試験100%		
オ フィ ス ア ウ ー	各担当の教員に相談の上随時対応可能。 対応可能かどうかを事前に授業前後にて確認することが望ましい。		

授 業 科 目 名	臨床神経学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期・後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	倉田 浩充 (兼任)・金子 恵子 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	神経内科で取り扱う疾患の基本的知識を理解し、それに伴う神経症状について学修する。具体的には、神経内科総論、神経解剖学、神経心理学、神経診察、神経学的検査 (MRI・核医学)、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、パーキンソン病、認知症、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、筋委縮性側索硬化症、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症、筋ジストロフィーなどである。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中枢神経系の解剖に応じた神経症状を理解する。</li> <li>2. 神経症状の評価方法を修得する。</li> <li>3. 中枢神経系の画像検査を理解する。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	神経学総論・神経学的評価Ⅰ	
	2	神経学的評価Ⅱ	
	3	神経解剖学・画像評価	
	4	脳卒中 閉塞性脳血管障害	
	5	脳卒中 出血性脳血管障害	
	6	脳卒中 評価・治療	
	7	頭部外傷	
	8	腫瘍性疾患	
	9	水頭症関連疾患・先天異常	
	10	感染症および炎症性疾患	
	11	神経変性疾患	
	12	神経筋疾患	
	13	認知症	
	14	脊髄脊椎疾患	
15	機能的神経徴候 (てんかん・疼痛・痙縮)		
教 科 書	配布資料		
事前事後の予習復習	神経に関する解剖学と生理学の復習をすること。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	医療情報科学研究所編 病気がみえる Vol.7 脳・神経		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	小児科学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	2年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	武市 知己 (兼任)・小倉 英郎 (兼任)・小谷 治子 (兼任)・三宅 典子 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	成長、発達段階にある小児の特性をふまえ、主にリハビリテーションに関連した小児疾患についての成因と症状などについて学修する。具体的には、小児科学概論、神経発達と乳幼児の行動、発達栄養と摂食、小児保健、小児の一時救命、新生児・未熟児疾患、先天異常と遺伝病、循環器疾患、感染症、消化器疾患、内分泌疾患、血液疾患、免疫・アレルギー疾患、膠原病、習癖、心身症、腎疾患、神経骨系統疾患、重症心身障害児などである。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児の神経発達の考え方を理解することができる。</li> <li>2. 小児疾患と小児リハビリテーションの関連を理解することができる。</li> <li>3. 小児リハビリテーションをそれぞれのライフステージに応じた、かつ包括的な医療として考えることができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	小児科学概論、発達概論	
	2	新生児、先天異常・遺伝	
	3	神経・筋・骨系統疾患	
	4	神経・筋・骨系統疾患	
	5	循環器、呼吸器、感染症	
	6	消化器、内分泌、血流、免疫アレルギー	
	7	心身症虐待、眼科、耳鼻科、重症心身障害児	
	8	重症心身障害児	
教 科 書	標準理学療法学・作業療法学「小児科」Ver. 5 医学書院 配布資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習はシラバスの確認とテキストならびに配布資料を読んでおく。 復習は講義内容、配布資料を参照して要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	正常発達 脳性まひ治療への応用 (初版) Jung Sun Hong 著 三輪書店 または 正常発達 (第2版) 脳性まひの治療アイデア Jung Sun Hong 著 三輪書店		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	リハビリテーション医学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	2年前期・後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	宮本 寛 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	リハビリテーション医学は実践的臨床医学の一つであり、各種の幅広い疾患と様々な障害に対して急性期より介入するものである。その介入手段は多岐にわたる。このためリハビリテーション医学の診断、検査、評価、治療の進め方と同時に、リハビリ医療は「急性期からリスクを管理しながら行う」ことの重要性を理解することを授業の目標とする。到達目標は、各疾患の評価とリハビリテーションの進め方の基本について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	急性期、回復期、生活期の各種疾患やそれにより生じる後遺障害に対するリハビリテーションの在り方や、臨床現場におけるリハビリテーションスタッフの役割や多職種との連携の仕方について理解する。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	リハビリテーションの臨床現場における多職種間の関係	
	2	急性期におけるリハビリテーションの在り方	
	3	回復期におけるリハビリテーションの在り方	
	4	生活期におけるリハビリテーションの在り方	
	5	運動麻痺の回復過程	
	6	高次脳機能障害	
	7	ICF	
	8	リハビリテーション医学概観	
教 科 書	目で見えるリハビリテーション医学 上田 敏 東京大学出版会		
事前事後の予習復習	自己判断に任せます。		
履 修 の 条 件	私語は絶対禁。座席指定なし。自主性を尊重。		
参 考 文 献			
成 績 評 価 方 法	筆記試験 (100%) 体調面・精神面の不調に対しては幅広く配慮します。講師または事務所に本人又は保護者等が口頭か書面又はその他の方法で相談してください。		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	臨床心理学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	竹村 朝海 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	病院の患者や施設などの入居者の心理を系統的に学び、各々のケースの心理状態を客観的に把握することで、患者や入居者の心理を理解するための知識を習得する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床心理学の基礎的な理論を理解することができる。</li> <li>2. どのような心理アセスメント法があるか説明できる。</li> <li>3. 心理療法の各理論、各技法を理解することができる。</li> <li>4. 援助関係を形成する技法について説明できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	臨床心理学の誕生と発展	
	2	臨床心理学の基礎理論と技法	
	3	発達とその障害	
	4	人格とその障害	
	5	アセスメント 1 アセスメントの手続き	
	6	アセスメント 2 検査法(発達検査)	
	7	アセスメント 3 検査法(性格検査)	
	8	アセスメント 4 検査法(知能検査)	
	9	介入のための理論 1	
	10	介入のための理論 2	
	11	介入のための理論 3	
	12	主な心理療法 1	
	13	主な心理療法 2	
	14	主な心理療法 3	
15	心理的援助の実際		
教 科 書	必要に応じて資料を配付する		
事前事後の予習復習	授業の内容を復習し理解を深めること		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	適宜紹介する		
成 績 評 価 方 法	筆記試験(70%)、態度 (30%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	耳鼻咽喉科学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	奥谷 文乃 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	ヒトをヒト以外の動物から区別する機能の一つに言語機能がある。ヒトの成長過程における言語機能の獲得は、聴覚による理解から始まり、つづいて発語 (喉頭における発声に基づく)、最後に文字言語の使用へと進められる。耳鼻咽喉科学は言語理解の最も重要な聴覚機能、音声言語機能の障害をきたす種々の疾患を扱う学問である。本科目においては、言語聴覚士として最低限必要とされる耳鼻咽喉科領域の疾患に関する診断や治療といった知識を身につけ、理解を深める。		
授 業 の 到 達 目 標	言語聴覚士として最低限必要とされる耳鼻咽喉科領域の疾患に関する診断や治療といった知識を身につけ、理解を深める。特に鼻・口腔・咽頭の疾患を重点的に扱う。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	鼻の解剖生理	
	2	鼻・副鼻腔疾患①	
	3	鼻・副鼻腔疾患②	
	4	鼻・副鼻腔疾患③	
	5	鼻・副鼻腔疾患④	
	6	口腔・咽頭の解剖生理	
	7	口腔・咽頭疾患①	
	8	口腔・咽頭疾患②	
	9	口腔・咽頭疾患③	
	10	口腔・咽頭疾患④	
	11	口腔・咽頭疾患⑤	
	12	頸部・顔面の解剖生理	
	13	頸部・顔面疾患①	
	14	頸部・顔面疾患②	
15	頸部・顔面疾患③		
教 科 書	病気がみえる vol.13 耳鼻咽喉科 メディックメディア社		
事前事後の予習復習	講義終了後必ず復習をし、次回の小テストに備えること		
履 修 の 条 件	板書が多いので、十分な筆記具を用意すること。質問など、積極的な態度が望まれる。		
参 考 文 献	「新耳鼻咽喉科学」 野村恭也著 南山堂		
成 績 評 価 方 法	試験 (筆記) 80% 小テスト 20%		
オ フィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	形成外科学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	秋山 謙三 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	生まれつき、あるいは病気や怪我で失われたり損なわれたりした身体の表面的異常を、主に手術という手段を用いて正常な形に近づける治療を行う医療分野について、主に口腔周辺の唇裂・口蓋裂を中心に、原因や治療法、また、言語聴覚士の役割について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	先天的疾患を持って生まれ乳幼児期より成人期まで社会生活を送るうえでの言語聴覚士さんの重要な役割を理解することができます。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	顎・顔面の発生と発育・構造について①	
	2	顎・顔面の発生と発育・構造について②	
	3	障害に対する歯科医学的治療法	
	4	手術療法・人工材料・再建による機能回復について①	
	5	手術療法・人工材料・再建による機能回復について②	
	6	手術療法・人工材料・再建による機能回復について③	
	7	手術療法・人工材料・再建による機能回復について④	
	8	手術療法・人工材料・再建による機能回復について⑤	
教 科 書	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学第2版 配布資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習			
履 修 の 条 件	なし		
参 考 文 献			
成 績 評 価 方 法	定期試験 (100%)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	臨床歯科医学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	秋山 謙三（兼任）		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	80歳までに自分の歯を20本残す8020運動のように、人の健康において、歯はとても重要なものである。歯科医学の基礎および臨床的な知識を学び口腔機能について理解を深めてもらう。口腔は消化器の一部であり、また、摂食、嚥下、発音に関する重要な器官である。口腔内だけでなく、顔面や頸部の発育や構造、機能、特性を十分に認識し、種々の疾患についての理解を深め、機能障害の診断や治療を学ぶことによって、口腔機能障害の予防と回復に役立てるようにする。		
授 業 の 到 達 目 標	口腔と言語・摂食・嚥下との関連についてと言語聴覚士さんの役割と必要性を理解することができます。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	歯・口腔・顎・顔面の構造と機能について①	
	2	歯・口腔・顎・顔面の構造と機能について②	
	3	歯・歯周組織疾患及び歯科医厚的処置について	
	4	口腔・顎・顔面の疾患について①	
	5	口腔・顎・顔面の疾患について②	
	6	口腔・顎・顔面の疾患について③	
	7	咀嚼・摂食・嚥下・構音障害について①	
	8	咀嚼・摂食・嚥下・構音障害について②	まとめ
教 科 書	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学第2版 配布資料		
事前事後の予習復習	教科書に目を通しておいて下さい。		
履 修 の 条 件	なし		
参 考 文 献	言語聴覚士に必要な歯科の知識 インテル出版		
成 績 評 価 方 法	定期試験（100%）		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時（要予約）		

授 業 科 目 名	画像診断学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	3年前期・後期	必 修 ・ 選 択	選択必修
科 目 担 当 者	伊東 賢二（兼任）		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	各種撮像法の基本原理と画像診断の理論について学修し、リハビリテーション専門職が扱う代表的疾患の画像に関する知識を学ぶ。具体的には、CT、MRI、超音波画像、単純写真などの正常画像を把握する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各種画像検査法の原理と特徴を理解する。</li> <li>2. 診療用画像の基礎知識を修得する。</li> <li>3. 各部位（臓器）におけるX線写真、CT画像、MR画像を理解する。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	画像診断機器・検査の原理と基礎（Ⅰ）	
	2	画像診断機器・検査の原理と基礎（Ⅱ）	
	3	胸部単純撮影・肺・縦隔の画像診断の基礎	
	4	中枢神経・頭頸部の画像診断	
	5	体幹部の画像診断（脊椎・脊髄）	
	6	体幹部の画像診断（腹部・骨盤・四肢）	
	7	血管造影検査・IVRの原理と基礎	
8	核医学検査の原理と基礎		
教 科 書	授業毎の講義資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	復習：配布資料を確認のこと		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	PT・OT 基礎から学ぶ画像の読み方（医歯薬出版） X線画像解剖ポケットアトラス（メディカルサイエンスインターナショナル） CT・MRI 画像解剖ポケットアトラス（メディカルサイエンスインターナショナル）		
成 績 評 価 方 法	試験（国家試験形式設問）		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業終了後、質問を受け付けます		

授 業 科 目 名	臨床栄養学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	3年前期・後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	渡邊 慶子 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	社会の変化は食生活を豊かにした一方、生活習慣病の増加など様々な問題を引き起こしている。食事は単に栄養素を摂取することだけでなく、心身の順調な発育・発達や成熟を促し、健康な生活を営むための基礎である。この科目では、栄養学の基本となるエネルギーや栄養素、食品の非栄養成分などを学修し、病気の原因や治療に関して理解を深める。		
授 業 の 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床におけるリハビリテーション栄養の意義と栄養の基礎について理解できる。</li> <li>・傷病者・要介護者への栄養ケアプロセスの手法が理解できる。</li> <li>・病態、疾患に対応した栄養療法が理解できる。</li> <li>・NST (栄養サポートチーム) について説明できる。</li> </ul>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	リハビリテーションにおける栄養の意義 NST (栄養サポートチーム) の実際 栄養ケアプロセス	
	2	栄養の基礎 ①栄養補給ルート ②エネルギー代謝 ③栄養素の役割	
	3	④運動時の栄養 ⑤栄養不良時の栄養 ⑥侵襲時の栄養 小テスト① 課題①	
	4	小テスト①フィードバック 課題①発表	
	5	主な病態の栄養療法 ①低栄養 ②摂食・嚥下障害	
	6	4. 主な病態の栄養療法 ②フレイル ④サルコペニア ⑤メタボリックシンドローム 小テスト② 課題②	
	7	主な疾患の栄養療法 ①脳卒中 ②がん ③脊椎損傷 ④大腿骨近位部骨折 小テスト②フィードバック 課題②フィードバック	
	8	主な疾患の栄養療法 ⑤慢性閉塞性肺疾患 ⑥慢性心不全 ⑦褥瘡 まとめ	
教 科 書	柏下淳、若林秀隆 編著、リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 第2版、医歯薬出版。		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習：テキストを事前に熟読し、疑問点、質問事項をまとめておくこと (1時間) 復習：テキスト、配布資料、ノート等で理解を深めること (3時間)		
履 修 の 条 件	病態生理の復習をしておくこと。		
参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡田晋吾 編著 キーワードでわかる臨床栄養 令和版 羊土社 2020年</li> <li>・イラスト 症例からみた臨床栄養学 第3版 福井富穂、他 著、東京教学社</li> </ul>		
成 績 評 価 方 法	試験40%、課題30% 小テスト20% 授業への取り組み10% 課題の内容などで習熟度を評価する (3点×10回 3点：重要点を十分理解している 2点：重要点の理解があいまいである 1点：項目の列挙にとどまっている)。小テストの結果について解説を配布してフィードバックする。		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業後または、メールにて質問を受け付ける。最初の授業でメールアドレスを伝える。		

授 業 科 目 名	臨床薬理学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	3年前期・後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	小野川 雅英 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	生体内における医薬品の標的である受容体や酵素といった様々な機能性分子と、化学物質である医薬品との相互作用を明らかにすることで医薬品の薬理作用機序を解明することができる。この科目では、薬理学の基本的な考え方を学修し、種々な薬物の薬理作用や有害事象についても学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	薬物を用いた疾病の治療と効果や副作用について理解し、薬物を投与した際の管理や観察における基本的な知識について習得する。 また、薬物によって起こりうる有害事象を理解し、理学療法・作業療法における注意点を説明できるようになる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	薬を理解するために必要な基礎知識①	
	2	薬を理解するために必要な基礎知識②	
	3	感染・炎症の制御と薬物療法	
	4	神経疾患の薬物療法	
	5	精神疾患の薬物療法	
	6	循環器系の薬物療法	
	7	疼痛の制御と薬物療法	
	8	注意すべき頻用される薬物	
教 科 書	リハベージック 薬理学・臨床薬理学		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	教科書の該当箇所を一読する、配布資料を確認する		
履 修 の 条 件			
参 考 文 献			
成 績 評 価 方 法	期末試験 100%		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後と、随時メールにて受け付ける		

授 業 科 目 名	救急管理実習	授 業 形 態	実験・実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年前期・後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	吉岡 邦展 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	医療職として、病気やけが、災害などの緊急時に、自分自身を守り、けが人や急病人を正しく救助し、医師や救急隊に引き継ぐことは重要な役割である。この科目では、救命手当・応急手当に関する知識と技術を学修し、心肺蘇生、AED の使用方法、気道異物除去などについて学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 不慮の事故や疾病に対して応急的に実施されるべき救急処置の技術や知識を習得する。</li> <li>2. 怪我及び体調不良、健康障害による急性期症状を理解する。</li> <li>3. 怪我及び体調不良、健康障害による急性期症状に対する対応を選択できる。</li> <li>4. 救命処置のうち、人工呼吸について必要な知識と技術を習得する。</li> <li>5. 救命処置のうち、胸骨圧迫について必要な知識と技術を習得する。</li> <li>6. 救命処置のうち、自動体外式除細動器 (AED) について必要な知識と技術を習得する。</li> <li>7. 受傷時及び体調不良時の応急処置のうち、適切な方法を選択し、対応できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス 救急法概論 1・急変・受傷時の急性期症状とその対応方法	
	2	救急法概論 2・心肺蘇生法 (CPR) の方法と適応、効果、AED の適応と使用方法、気道異物除去など	
	3	実技：手当の基本と一次救命処置 (BLS) 1	
	4	実技：一次救命処置 (BLS) 2	
	5	実技：一次救命処置 (BLS) 3 学習内容と実技のまとめと復習	
	6	実技：きずの手当 1	
	7	実技：きずの手当 2	
	8	実技：きずの手当 3	
	9	実技：骨折の手当 1	
	10	実技：骨折の手当 2 傷病者の搬送方法	
	11	実技：災害時の救護	
	12	実技：シミュレーション 1	
	13	実技：シミュレーション 2	
	14	実技：シミュレーション 3	
15	実技：シミュレーション 4		
教 科 書	配付資料、日本赤十字社救急法指導教本 (受講前に購入)		
事前事後の予習復習	事前に配付資料や指導教本に目を通しておくこと。実技は必ず復習をすること。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	『BLS プロバイダーマニュアル AHA ガイドライン 2015 準拠』アメリカ心臓病協会 出版		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (筆記 50%、実技 50%)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	リハビリテーション概論	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	小嶋 裕・大倉 三洋		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの理念・定義を正しく理解し、リハビリテーションの専門職としての基本的知識について学修する。</li> <li>・具体的には、リハビリテーションの対象と範囲、国際生活機能分類 (ICF)、リハビリテーションの流れ、リハビリテーションにおけるチームアプローチ (関連職)、関連する医療福祉制度、地域リハビリテーション活動などの概要を把握する。</li> </ul>		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションの理念と保健・福祉・医療との関わりを理解する。</li> <li>2. リハビリテーションにおける障害の捉え方を理解する。</li> <li>3. リハビリテーションの分野・過程を理解する。</li> <li>4. リハビリテーション関連職 (チームアプローチ) を理解す。</li> <li>5. 今日的に社会で求められているリハビリテーションの果たす役割を理解する。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業オリエンテーション、リハビリテーションの起源・定義・理念	
	2	ノーマライゼーション理念・自立生活運動、健康の定義	
	3	国際疾病分類、国際障害分類、国際生活機能分類 (ICF) (小テスト①)	
	4	障害 (者) の概念、障害受容	
	5	リハビリの領域 (分野)、リハビリ医療の流れ、医療職種に関わる諸問題 (1) (インフォームド・コンセント、医療安全、守秘義務 (小テスト②))	
	6	医療職種に関わる諸問題 (2) (チーム医療、EBM)、ADLの概念	
	7	QOLの概念、障害の捉え方、関連する医療・福祉制度 (小テスト③)	
8	関連する医療・福祉制度、地域リハビリ活動、リハビリ・ケア、総括 (小テスト) ④		
教 科 書	上好昭孝・他 編著 『医学生・コメディカルのための手引き書 リハビリテーション概論』永井書店、他資料配付		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前にシラバス内容を確認すること。</li> <li>・前もって授業内容のパワーポイント資料を配付する。</li> <li>・毎授業終了時に次回授業内容の概要を提示する。</li> <li>・小テストの実施、レポートの提出に留意する。</li> </ul>		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	参考書籍の一覧表を手渡すとともに、授業内で適宜に紹介または配布する。		
成 績 評 価 方 法	小テスト (4回, 20%)、レポート (1回, 10%)、定期試験 (70%) を総合評価する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	社会福祉概論	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	1年次 前期・後期	必 修 ・ 選 択	必須
科 目 担 当 者	矢吹 了一（兼任）		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	社会福祉は福祉を実現するための方法であり、理想と現実の間にある個々の生活における隔たりを解消・軽減するためには、社会的努力が求められる。社会福祉では、制度やサービスを役立つ形にするための援助を行う。これらの社会福祉に関する概要と、リハビリテーション専門職との協働等について学修する。具体的には、我が国の社会保障制度の概要と変遷、社会保障を取り巻く環境、社会福祉の基礎、公的扶助、などについてである。		
授 業 の 到 達 目 標	社会福祉（社会保障を含む）とは何か、最近の制度・施策（児童家庭福祉・障害者福祉・高齢者福祉等）に対する具体的内容を学ぶ。社会福祉関係職員と理学療法士・作業療法士・言語聴覚士との協同等についても考える。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	社会福祉の基礎① 社会福祉と社会保障を取り巻く近年の動向等（人口動態を含む）	
	2	社会福祉の基礎② 国・自治体の組織、社会福祉従事者・担い手	
	3	公的扶助① 生活保護をめぐる状況の変化、被保護人員等の動向等	
	4	公的扶助② 生活困窮者自立支援対策 子どもの貧困対策等	
	5	児童家庭福祉① 児童家庭福祉と次世代育成支援	
	6	児童家庭福祉② 少子化対策の展開、要保護児童対策、ひとり親家庭支援	
	7	障害者福祉① 障害者保健福祉施策について	
	8	障害者福祉② 障害者の福祉、障害児の福祉	
	9	障害者福祉③ 障害者に対する社会手当等、障害者の雇用と支援	
	10	介護と高齢者福祉等① 介護保険制度について	
	11	介護と高齢者福祉等② 高齢者の福祉と医療、高齢者の住まい対策	
	12	地域福祉等① 地域福祉の推進「地域共生社会」の実現に向けた取り組み、ひきこもり対策等、権利擁護・成年後見制度	
	13	地域福祉等② 社会福祉と権利擁護・成年後見制度、住宅確保要配慮者への居住支援、消費生活協同組合およびその他事業	
	14	まとめ① 2040年を見据えた社会保障・働き方改革の課題と将来推計等 福祉の動向と介護の動向等まとめ①	
15	まとめ② 上記まとめ②		
教 科 書	資料配布による。		
事 前 事 後 の 予 習	復習は講義板書ならびに配布資料を参照して、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	社会福祉の動向2022（中央法規） 社会保障入門2022（中央法規） 国民の福祉と介護の動向2021/2021（厚生労働統計協会） " 2022/2023（ " ）2029月発行予定		
成 績 評 価 方 法	定期試験（70%）授業態度（10%）出欠数（20%）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	地域包括ケア論	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	3年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	川上 理子 (兼任)・森下 幸子 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	高齢者や障害者が、地域において自らが望む生活を送るためには、さまざまな複合的な課題に対してアプローチを行うことが必要となる。生活の目標とそのための課題解決に至る道筋と方向を明らかにし、地域にある資源を活用し、総合的かつ効率的に課題解決を図っていくプロセスとアプローチについて学修する。具体的には、個別のニーズを明らかにするアセスメントから、ニーズに対するフォーマル・インフォーマルサービスの概要と、チームアプローチに必要な保健・医療・福祉の連携のあり方について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域包括ケアシステムの考え方、現状と課題、構築の実際を理解することができる</li> <li>2. 地域包括ケアシステムの展開におけるフォーマル・インフォーマルサービスの概要および多職種連携を理解することができる</li> <li>3. 地域で暮らす高齢者や障害者の生活ニーズと課題を理解し、ICFモデルに基づくアセスメントと課題解決方法を理解することができる。</li> <li>4. 理論と方法を活用し、具体的な事例の適用について考察することができる</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	担 当
	1	医療制度と介護保険制度	川上
	2	地域包括ケアシステムの考え方	川上
	3	地域包括ケアシステムの現状と課題	川上
	4	地域包括ケアシステム構築の実際	川上
	5	地域包括ケアシステムの展開 (1) サービスの概要	川上
	6	地域包括ケアシステムの展開 (2) 多職種連携	川上
	7	地域共生社会の考え方	川上
	8	地域で暮らす高齢者・障害者の生活ニーズと課題	森下
	9	ICFモデルに基づくアセスメント (1) 個別ニーズの抽出	森下
	10	ICFモデルに基づくアセスメント (2) 支援方針の検討	森下
	11	課題解決のためのケアマネジメント (1) 生活目標とサービス内容の検討	森下
	12	課題解決のためのケアマネジメント (2) サービスの選択と連携	森下
	13	生活志向的アプローチによる個別支援計画	森下
	14	事例演習	森下
15	事例演習	森下	
教 科 書	配布資料		
事前事後の予習復習	事前・事後学習については、授業計画にそって科目担当者より提示する		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	厚生 の 指 標 増 刊 国 民 衛 生 の 動 向 vol. 67 No. 9 2020/2021		
成 績 評 価 方 法	出席回数と定期試験を合わせて100%		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後、メールで (川上 kawakami@cc.u-kochi.ac.jp、森下 sachim@cc.u-kochi.ac.jp) 質問等を受け付けます。		

授 業 科 目 名	チーム連携論	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	4年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	川村 博文 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	医学的な視点のみならず、対象者の心理的・社会的な視点にも配慮した医療が求められる中でチーム医療は必須の手段である。より良いサービスを実践するための多職種との有機的な連携と協業について学修する。具体的には、専門職種間の有機的な連携と協業についての基礎知識や理論、連携のためのマネジメントの実際、多職種連携が果たす役割や機能について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. チーム連携、チーム医療、チームワークの意義と関わる用語等を理解できる。</li> <li>2. チーム連携の役割、歴史、目標・目的、理論を理解できる。</li> <li>3. 多職種の専門性、リーダーシップ、リーダー、有効なチーム連携を理解できる。</li> <li>4. 患者・家族・利用者を中心とした効果的なチーム連携を理解できる。</li> <li>5. 医療・保健・福祉のチーム連携による効果的な治療などを理解できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	オリエンテーション、チーム連携、チーム医療、チームワークの意義など	
	2	チーム連携の役割、歴史、目標・目的	
	3	チーム連携における多職種の専門性、リーダーシップ、リーダー、有効性	
	4	チーム連携での協調性・論理的発言・積極態度、役割の共通理解	
	5	患者・家族・利用者を中心とした効果的なチーム連携	
	6	多職種チームカンファレンスの意義・役割・コミュニケーション・進め方	
	7	多職種チーム連携の目標設定とアプローチ	
	8	チーム連携の総括・アンケートなど	
教 科 書	大嶋伸雄編著：はじめてのIP-連携を学びはじめる人のためのIP入門-（ラーニングシリーズ IP（インタープロフェッショナル）/保健・医療・福祉専門職の連携教育・実践）、共同医書出版社、2018年		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は、シラバスの確認、教科書の熟読。復習は、講義配布資料を参照・まとめる		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	柴崎智美ら編：保健・医療・福祉のための専門職連携教育プログラム：地域包括ケアを担うためのヒント、ミネルヴァ書房、2019年		
成 績 評 価 方 法	レポート課題 (100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	作業療法概論	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	清水 一		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	作業療法における作業の考え方や、対象となる疾患、対象者の理解などに関する、基本的知識や技術について学修する。具体的には、作業療法の目的と役割、ひとと作業の関係、対象者の概要、作業療法の仕事内容などであり、将来作業療法士として従事するための動機付けとなる基本的な内容について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法の目的と役割を理解することができる。</li> <li>2. ひとと作業の関係を理解することができる。</li> <li>3. 作業療法の対象者の概要を理解することができる。</li> <li>4. 作業療法士の仕事の内容を理解することができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	作業療法の定義および目的と役割	
	2	ひとと作業	
	3	作業療法の対象者の概要①	
	4	作業療法の対象者の概要②	
	5	作業療法の対象者の概要③	
	6	作業療法の実施手順①	
	7	作業療法の実施手順②	
8	作業療法士の仕事内容		
教 科 書	「作業療法学概論」改訂3版 メディカルビュー社		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習はシラバスと配付資料の確認をする。復習は板書ならびに配付資料の要点をまとめておく。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	長崎重信 監修 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト『作業療法学概論』 メディカルビュー社 岩崎テル子 編 標準作業療法学『作業療法概論』第2版 医学書院		
成 績 評 価 方 法	レポート (100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	火曜日午後		

授 業 科 目 名	生活活動と障害	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	1年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	平松真奈美、大塚 貴英、篠田かおり		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	生活の中で作業療法の対象となる人が、自身の望む生活活動ができるようになるための援助方法と基本的態度について学修する。具体的には、障害者自身の経験談や障害者の疑似体験を通して、様々な障害の特性を理解する。また、作業療法実施施設の見学を行い、生活活動と作業療法の位置づけについても学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 作業療法の対象者の生活活動における障害が理解できる。 2. 生活活動における障害と作業療法の役割が理解できる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	オリエンテーション、人の生活と生活活動障害	
	2	作業療法の対象となる方々の生活活動障害① 調査	
	3	作業療法の対象となる方々の生活活動障害② 調査	
	4	作業療法の対象となる方々の生活活動障害③ 調査	
	5	障害体験① 準備（計画）	
	6	障害体験② 体験	
	7	障害体験③ 体験	
	8	障害体験④ 体験	
	9	障害体験⑤ 体験	
	10	障害体験⑥ 体験後の意見交換	
	11	障害体験⑦ 発表	
	12	障害体験⑧ 発表	
	13	作業療法実施施設見学・体験① 準備	
	14	作業療法実施施設見学・体験② 見学・体験	
15	作業療法実施施設見学・体験③ 見学・体験後の意見交換		
教 科 書	配布資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は、シラバスの確認と配布資料を読んでおく。また、障害体験や施設見学前の準備として、対象となる障害の状態や作業療法の内容について調べておく。復習は、配布資料と授業内容をもとに要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	障害者自身の体験による著作、作業療法に関するテキストなど。		
成 績 評 価 方 法	レポート(70%)、発表(30%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	基礎作業学実習	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	23 回
履 修 年 次	1 年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	篠田かおり、大塚 貴英		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	作業が人の生活・健康・文化とどのように関係しているかを理解し、作業遂行における治療的意義と主観的意味について学修する。具体的には、作業の分類、作業遂行に関する身体機能的・精神機能的・発達学的・認知行動的見地からの分析、作業を实践するための作業の持つ特性や治療的効果について学ぶ。作業演習種目は、手工芸活動など趣味や余暇に関するものを中心に行い、体験した作業に対し基本的な分析を行うとともに、臨床応用を考える。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法における作業の概念と作業遂行の要因及び関係性を理解する。</li> <li>2. 理論に基づいて作業遂行の捉え方を説明できる。</li> <li>3. 治療として用いられる作業活動を理解するための基本理論について説明できる。</li> <li>4. 各作業の材料、道具、工程、基礎技法などの概要を説明できる。</li> <li>5. 指導を担当する作業活動について、作業計画を立案し、準備することができる。</li> <li>6. 作業活動に応じて、適切な指導を行うことができる。</li> <li>7. 作業分析を行い、作業活動の特性を説明することができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	作業の概念と作業遂行の構成要素	
	2	作業とライフサイクル調査①	
	3	作業とライフサイクル調査②	
	4	作業遂行に関する身体、精神機能的理解	
	5	作業遂行に関する認知行動、人間関係学、発達学的理解	
	6	作業遂行に関する包括的理解	
	7	作業の治療的応用：学習、教育、支援法・環境整備	
	8	一般的作業分析（チェックリストの記載方法）	
	9	作業指導・製作：ちぎり絵	
	10	一般的作業分析：ちぎり絵	
	11	作業指導・製作：編み物	
	12	一般的作業分析：編み物	
	13	作業指導・製作：刺し子	
	14	一般的作業分析：刺し子	
	15	作業指導・製作：マクラメ	
	16	一般的作業分析：マクラメ	
	17	作業指導・製作：エコクラフト	
	18	一般的作業分析：エコクラフト	
	19	作業指導・製作：七宝	
	20	一般的作業分析：七宝	
	21	作業指導・製作：織物①	
	22	作業指導・製作：織物②	
	23	一般的作業分析：織物	
教 科 書	日本作業療法士協会 監修 『基礎作業学』改訂第3版 協同医書出版 山根寛 『ひとと作業・作業活動』新版 三輪書店		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習：12～23 回、指導を担当する講義までに作業の道具、材料、工程、リスク管理などをあらかじめ把握しておくこと。 復習：製作の進行により自習が必要なことがある。 一般分析チェックリストのレポート作成。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	日本作業療法士協会 監修 『作業（その治療的応用）』 協同医書出版 古川宏 監修 『作業活動 実習マニュアル』 医歯薬出版株式会社		
成 績 評 価 方 法	レポート（100%）		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	応用作業学実習	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	23回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	篠田かおり、大塚 貴英		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	作業療法における治療活動として、木工などの作業活動の制作過程を学び、様々な道具の取り扱いと作業技術を修得するとともに、対象者へ指導できる技術も学修する。また、作業療法における治療活動の一つとして、作業分析を通じ治療場面への応用を考え、身体障害や精神障害など各疾患における問題点に対する治療的介入について応用的に活用できるように学ぶ。また、自助具の考案・作成も行う。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 日常生活活動を分析し、作業特徴が説明できる。 2. 木工、革細工、陶芸の作業技術および指導方法を習得できる。 3. 作業の治療的応用として、自助具を考案し作製できる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	日常生活活動①食事・整容	
	2	日常生活活動②清拭・更衣・トイレ	
	3	日常生活活動③移乗・移動	
	4	日常生活関連活動①掃除・洗濯	
	5	日常生活関連活動②買い物	
	6	日常生活関連活動③調理	
	7	木工（製図・木取り）	
	8	木工（切断）	
	9	木工（やすりかけ）	
	10	木工（仮組立）	
	11	木工（釘打ち）	
	12	木工（釘打ち・塗装）	
	13	革細工（基本技法）	
	14	革細工（刻印）	
	15	革細工（染色・仕立て）	
	16	陶芸（成形）	
	17	陶芸（削り）	
	18	陶芸（施釉）	
	19	陶芸（窯出し・仕上げ）	
	20	治療としての作業	
	21	作業活動時の自助具作製（製図）	
	22	作業活動時の自助具作製（製作）	
23	作業活動時の自助具作製（発表）		
教 科 書	山根寛 『ひとと作業・作業活動』新版 三輪書店		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習：7～19回、作業の道具、材料、工程、リスク管理などをあらかじめ把握しておくこと。 復習：製作の進行により自習が必要なことがある。 一般分析チェックリストのレポート作成。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	日本作業療法士協会 監修 『作業（その治療的応用）』 協同医書出版社 浅沼辰志、佐藤浩二 『基礎作業学実習ガイドー作業活動のポイントを学ぶー』 協同医書出版社		
成 績 評 価 方 法	定期試験(90%)、レポート(10%)。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	作業療法セミナー	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	辻 美和、平松真奈美、大塚貴英、篠田かおり、石元美知子、有光一樹、笹村 聡		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	作業療法の専門性に対する興味・関心を高めるために、基礎分野と専門分野の関連性について学修する。具体的には、文献検索・文献収集の方法を学習し、文献の内容が理解できるよう、文献抄読などを通して学習の基本的な方法について、グループで意見交換を行いながら進める。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献検索・文献収集の方法を習得することができる。</li> <li>2. 文献抄読を通して、調べ学習の意義や方法について、理解することができる。</li> <li>3. 作業療法に対して、興味・関心を深めることができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス 文献検索・文献収集の方法①	
	2	文献検索・文献収集の方法②	
	3	文献抄読とディスカッション 身体障害関連①	
	4	文献抄読とディスカッション 身体障害関連②	
	5	文献抄読とディスカッション 精神障害関連①	
	6	文献抄読とディスカッション 精神障害関連②	
	7	文献抄読とディスカッション 高次脳機能障害関連①	
	8	文献抄読とディスカッション 高次脳機能障害関連②	
	9	文献抄読とディスカッション 老年期障害関連①	
	10	文献抄読とディスカッション 老年期障害関連②	
	11	文献抄読とディスカッション 発達障害関連①	
	12	文献抄読とディスカッション 発達障害関連②	
	13	文献抄読とディスカッション その他作業療法に関連するもの①	
	14	文献抄読とディスカッション その他作業療法に関連するもの②	
15	文献抄読とディスカッション その他作業療法に関連するもの③		
教 科 書	配布資料		
事前事後の予習復習	<p>予習では、文献抄読で使用する文献を事前に読んでおき、ディスカッションができるよう、専門用語を調べるなど準備をしておくこと。</p> <p>復習では、文献を再度読み直して、内容を理解できるようになるために、自身の学習方法について考えること。</p>		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	特になし		
成 績 評 価 方 法	提出課題 (100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	作業療法管理学		授 業 形 態	講義
単 位 数	1		回 数	8
履 修 年 次	3年後期 (2020年度入学生対象) 4年前期 (2019年度入学生対象)		必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	平松真奈美、矢野 勇介 (兼任)			
授 業 の 概 要 ・ 目 的	作業療法士として働くための基本的な業務管理について学修する。具体的には、職業倫理について考えるとともに、作業療法士として必要な記録・報告の種類と記載内容、診療録や患者情報の取り扱い、感染症対策やリスクマネジメント、インシデント・アクシデント発生時の対処方法、対象者の安全など、作業療法部門の管理・運営に関する基礎知識について学ぶ。			
授 業 の 到 達 目 標	1. 作業療法士としての職業倫理について理解できる。 2. 作業療法部門の管理・運営について理解できる。 3. 作業療法におけるリスク管理について			
授 業 計 画	回	内 容		担 当
	1	作業療法の領域 諸制度と組織における役割		平松
	2	作業療法における業務管理① 記録・報告、情報の取り扱い		平松
	3	作業療法における業務管理② 人・物・経済・時間		平松
	4	作業療法における教育 臨床実習、生涯教育		平松
	5	作業療法士の職業倫理		平松
	6	作業療法におけるリスク管理① 感染対策		矢野
	7	作業療法におけるリスク管理② 医療安全		矢野
	8	訪問リハにおける作業療法の役割・リスク管理		矢野
教 科 書	配布資料			
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習：シラバスの確認と配布資料を読んでおくこと。 復習：講義板書ならびに配布資料を参照して要点をまとめる。			
履 修 の 条 件	特になし			
参 考 文 献	大庭潤平 編『作業療法管理学入門』 医歯薬出版株式会社			
成 績 評 価 方 法	レポート100%			
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業開始時に説明			

授 業 科 目 名	基礎作業療法評価学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	清水 一		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	作業療法を実施するにあたって、対象者が本人なりの生活をおくるために必要な解決すべき課題と、生活の目標を見い出すことが求められる。この過程が評価であり、この科目では、作業療法で用いる評価の意味、評価の対象、評価の手段などを中心に作業療法評価の基本的な考え方・枠組みについて学修する。具体的には、作業療法と国際生活機能分類（ICF）、作業療法評価項目、評価計画などである。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法過程に於ける評価の目的と手段を作業療法領域との関係で説明できる。</li> <li>2. 作業療法過程の期に適した評価選択とクライアントと協働する重要性を説明できる。</li> <li>3. 他の関連職種からの情報(医用画像、化学療法、臨床検査値、栄養、介護・福祉など)も評価過程に取り入れ、各種評定法を選択、実施、解釈、して介入計画に反映できる。</li> <li>4. 目標到達判定の方法を設定し、毎回の介入の結果を適切に記録報告できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	教授する内容と学生の行動目標の説明。作業療法領域と介入過程再確認。	
	2	作業療法評価過程概論と評価法(評定法)4種の再確認。	
	3	作業療法評価開始に必要な準備情報と医学情報からの情報収集について。	
	4	処方(指示箋)や依頼(身障、精障、発障、老障)と医学情報からの情報収集。	
	5	同上。医用画像、処方薬物、臨床検査値、その他職種からの情報収集	
	6	初回時面接の準備と面接による評価と情報の解釈。	
	7	スクリーニング評価法と結果の意味と今後の評価計画への反映	
	8	同上。作業療法領域とスクリーニング評価法と情報解釈のファイル作り。	
	9	行動観察による評価法とその解釈。初期評価としての評価計画立案。	
	10	初期評価のまとめと作業療法介入計画とカンファレンス(CF)での報告準備	
	11	CF後の詳細な評価計画と介入計画立案。標的目標設定と評価方法決定。	
	12	身障、老障、高次脳機能障の事例に基づく評価計画立案と評価結果のまとめ	
	13	同上	
	14	精障、発障の事例に基づく評価計画立案と評価結果のまとめ	
15	国際生活機能分類 ICF に沿って活動、参加、個人要因、環境要因、構造と機能の評価をまとめる		
教 科 書	道免和久(編集)リハビリテーション評価データブック 医学書院 長崎重信(監修)改定2版作業療法評価学 メジカルビュー社		
事前事後の予習復習	1講義時間に対して2倍の自習時間が常に必要な課題を課す。		
履 修 の 条 件	1年次に履修すべき職業専門科目の単位を総て取得済みである。		
参 考 文 献	岩谷・飛松(編集)障害と活動の測定・評価ハンドブック 南江堂 矢谷・福田(編集)作業療法実践の仕組み 改定2版 協同医書出版		
成 績 評 価 方 法	小テスト(授業中に実施)、課題レポート、課題発表を2:5:3の割合で重み付けをして実施する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	火曜日午後		

授 業 科 目 名	作業療法評価実習Ⅰ（身体系）	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	23回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	大塚 貴英、有光 一樹、笹村 聡		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	身体障害における評価の概念を広く理解し、各検査の意義や目的、方法について学修するとともに、その結果の解釈について理解する。具体的には、関節可動域検査、バイタルサイン、形態測定、筋緊張検査、片麻痺機能検査、感覚検査、反射・反応、腱反射、病的反射、協調性検査、徒手筋力検査などである。また、障害の視点としての国際生活機能分類（ICF）を用いた結果の統合と解釈についても学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体機能評価法における基本的考え方を理解できる。</li> <li>2. 適切な検査測定の実施技術を習得できる。</li> <li>3. 身体機能と基本動作・日常生活動作の関連について国際生活機能分類（ICF）を用いた統合と解釈が理解できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス、身体障害における評価の基本的考え方	
	2	バイタルサイン測定	
	3	形態計測	
	4	関節可動域検査①	
	5	関節可動域検査②	
	6	関節可動域検査③	
	7	関節可動域検査④	
	8	片麻痺機能検査①	
	9	片麻痺機能検査②	
	10	各種反射検査	
	11	協調性検査・脳神経検査など	
	12	感覚（知覚）機能検査①	
	13	感覚（知覚）機能検査②	
	14	筋力検査①	
	15	筋力検査②	
	16	筋力検査③	
	17	筋力検査④	
	18	筋力検査⑤	
	19	筋力検査⑥	
	20	バランス検査①	
	21	バランス検査②	
	22	各種検査測定結果とICFの統合解釈①	
23	各種検査測定結果とICFの統合解釈②		
教 科 書	津山直一 訳 『新・徒手筋力検査法』 協同医書出版 岩崎 テル子, 小川 恵子 他編集 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版 医学書院		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	教科書、参考文献の該当箇所を通読すること。実施に際する疑問点を抽出すること。理解を深め、より実践的な技術を習得するために、各種検査の技法と注意点を予習し、授業までに実施できるようにしておくこと。復習として各検査技法をリスク管理と、礼儀・接遇を踏まえた上で実施できるまで技術を高めること。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	岩崎テル子・他 『標準作業療法学専門分野 作業療法評価学』 医学書院 田崎義明・他 『ベッドサイドの神経の診かた』 南山堂 石川齋・他 『作業療法技術ガイド』 文光堂		
成 績 評 価 方 法	小テスト(実技40%)、定期試験(実技・60%)		
オ フ ィ ス ア フ タ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	作業療法評価実習Ⅱ（精神・認知系）	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	足立 一、辻 美和		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	精神障害における評価の概念を広く理解し、各検査の目的、方法について学修するとともに、その結果の解釈について理解する。具体的には、情報収集、観察、面接、作業面接、評価（検査）について、一連の流れと技法の実際である。ロールプレイを用いたインタビュー面接や、作業面接を用いた観察方法について学ぶ。また、作業遂行チェックリストやプロセスレコードを用いた観察の技法についても学ぶ。そして、各疾患における障害の視点としての国際生活機能分類（ICF）を用いた結果の統合と解釈についても学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害に対する作業療法を学び、実技・体験を通して基本的な評価技術を習得できる。</li> <li>2. 評価の目的と概容を知ることができる。</li> <li>3. 精神障害作業療法で用いる評価方法を実施することができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	精神科作業療法と精神科医療の実際	
	2	精神科作業療法の評価	
	3	精神科作業療法の評価技法① テストバッテリー	
	4	精神科作業療法の評価技法② テストバッテリー	
	5	精神科作業療法の評価技法③ 観察	
	6	精神科作業療法の評価技法④ 観察	
	7	精神科作業療法の評価技法⑤ 観察	
	8	精神科作業療法の評価技法⑥ 面接	
	9	精神科作業療法の評価技法⑦ 面接	
	10	事例（統合失調症）における評価・情報収集	
	11	事例（統合失調症）における作業療法評価と計画立案①	
	12	事例（統合失調症）における作業療法評価と計画立案②	
	13	事例（統合失調症）における評価・情報収集	
	14	事例（統合失調症）における作業療法評価と計画立案①	
15	事例（統合失調症）における作業療法評価と計画立案②		
教 科 書	日本作業療法士協会 監修 作業療法学全書第5巻作業治療学2 『精神障害』 共同医書出版 長崎重信 監修 『作業療法ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学』 第3版 メジカルビュー社		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	精神医学や心理学などの関連科目の予習・復習をしておくこと。		
履 修 の 条 件	細部への観察と全体概容を見る視点を持つ努力を怠らないこと。積極的に演習に参加をし、主体的に取り組むこと。		
参 考 文 献	長崎重信 監修 『作業療法ゴールド・マスター・テキスト改訂第2版 精神障害作業療法学』 メジカルビュー社		
成 績 評 価 方 法	定期試験(100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	作業療法評価実習Ⅲ（発達系）	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	2年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	篠田かおり、吉岡 和哉（兼任）		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	発達障害における評価の概念を広く理解し、身体的、精神的、心理的、社会的な側面からの各検査の目的、方法について学修するとともに、その結果の解釈について理解する。具体的には、脳性麻痺を中心とした障害児の評価と、感覚統合機能の評価についてであり、障害の視点としての国際生活機能分類（ICF）を用いた結果の統合と解釈についても学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達過程の身体・精神・心理・社会的な側面について説明することができる。</li> <li>2. 発達障害児に対する各種検査について、評価手技を習得することができる。</li> <li>3. 評価結果についてICFを用いて統合解釈できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	担 当
	1	発達障害に対する作業療法の理念と役割 評価の実践過程	篠田
	2	姿勢・運動機能の正常発達とその評価①	篠田
	3	姿勢・運動機能の正常発達とその評価②	篠田
	4	姿勢・運動機能の正常発達とその評価③	篠田
	5	視覚機能の正常発達とその評価	篠田
	6	上肢機能の正常発達とその評価①	篠田
	7	上肢機能の正常発達とその評価②	篠田
	8	活動・参加の正常発達とその評価①	篠田
	9	活動・参加の正常発達とその評価②	篠田
	10	国際生活機能分類（ICF）を用いた結果の統合と解釈①	篠田
	11	感覚統合機能の正常発達とその評価①	吉岡
	12	感覚統合機能の正常発達とその評価②	吉岡
	13	認知・社会機能の正常発達とその評価①	吉岡
	14	認知・社会機能の正常発達とその評価②	吉岡
15	国際生活機能分類（ICF）を用いた結果の統合と解釈②	吉岡	
教 科 書	日本作業療法士協会 監修 作業療法学全書第6巻作業治療学3『発達障害』 協同医書出版 岩崎テル子・他 標準作業療法学専門分野『作業療法評価学』 医学書院 石川齋・他 『図解 作業療法技術ガイド』 文光堂		
事前事後の予習復習	復習：各種評価技法が身につくよう、練習しておくこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	岩崎清隆『発達障害と作業療法』基礎編 三輪書店 岩崎清隆・岸本光夫『発達障害と作業療法』実践編 三輪書店 M.R. fiorentino『脳性麻痺の反射検査』 医歯薬出版		
成 績 評 価 方 法	定期試験(100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時（要予約）		

授 業 科 目 名	作業分析学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	清水 一		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	作業療法を実施するために必要な分析の理論と方法について学修する。具体的には、日常生活における各種作業活動の分析理論である人間作業モデル、カナダ作業遂行モデル、AMPSなどの考え方を学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法の実践における作業分析と活動分析の方法を説明できる。</li> <li>2. 活動分析と作業分析の相違点を評価項目と内容から比較出来る。</li> <li>3. 作業行動の対象者の個人因子と背景状況(文脈)との関係を見いだせる。</li> <li>4. OTの手段としての「作業」と目的としての「作業」の具体例を示せる。</li> <li>5. 活動分析の一般項目と作業分析の一般項目を列挙することが出来る。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	作業療法における活動と作業に関する用語に見られる混乱と用語の整理	
	2	分析に対する2つの視点	
	3	作業療法実践枠組み：作業療法の領域と作業療法の過程	
	4	作業療法の領域	
	5	「作業」をOT介入手段として用いる場合の活動の分析	
	6	同上	
	7	「活動」「作業」の要求、行動様式、個人因子、環境因子、行動技能	
	8	OT介入目的としての「作業」と作業行動理論の課題	
教 科 書	配布資料 (W&S Occupational therapy 2019 第13版邦訳) など		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	配布資料の精読と授業ノートの整理、1授業時間に対して2自習時間が必要な程度。前回の授業や予習や復習からの生じた質問点や疑問点をメモ書きして提出。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 山根寛、ひとと作業・作業活動 2015 三輪書店</li> <li>2. 作業学ゴールドマスターテキスト2 第2版 2015 マジカルビュー社</li> <li>3. 基礎作業学 第3版 2017 医学書院</li> </ol>		
成 績 評 価 方 法	課題レポートと小テストの平均点 各50%		
オ フ ィ ス ア ワ ー	火曜日午後		

授 業 科 目 名	作業分析演習	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15 回
履 修 年 次	2 年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	清水 一・篠田かおり・石元美知子		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	作業分析学にて学んだ考えに基づいて作業行動(performance 遂行)を分析するとともに、作業療法の対象者の身体機能や精神機能などを踏まえて、日常生活における様々な作業活動を治療や指導の手法として用いるために必要な計画の立案、指導方法の検討について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者の作業行動を分析の基本的考え方を説明しその基礎的方法を示せる。</li> <li>2. 作業課題とその活動分析に必要な基礎的な技能を示せる。</li> <li>3. 「作業」の観察可能な最小単位である Performance skills(行動技能)を運動、処理、社会交流の各技能から分析する基礎的な技能を発揮できる。</li> <li>4. 課題分析、活動分析、作業分析から基本的な OT 介入計画が立案できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	作業分析演習の授業展開とその教育目標と行動目標の説明	
	2	作業療法実践枠組みの復習と作業療法関連専門用語の整理	
	3	作業療法の概念構造と ICF 概念の相違点の確認演習	
	4	作業領域の行為(action)を自己と近隣者(他者)で確認して対比する	
	5	自己と他者の生活時間調査の結果の解釈	
	6	課題分析、活動分析 グループ課題	
	7	課題分析・活動分析と作業分析の違いの検討	
	8	分析結果の発表	
	9	作業分析 その観察可能な最小単位(運動技能・処理技能・社会交流技能)確認	
	10	任意の作業行動を標的とした作業分析実施	
	11	分析結果の発表	
	12	事例に対する作業分析と課題分析	
	13	分析結果の発表と作業療法の介入方法の検討	
	14	治療手段ならびに目的とする「作業」とそれに必要な心身機能と身体構造	
15	分析に基づく作業療法治療計画立案 報告書作成		
教 科 書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 配布資料 (W&amp;S Occupational therapy 2019 第13版邦訳) など</li> <li>2. 作業療法マニュアル 66 生活行為向上マネジメント 3版(日本作業療法士協会) 2018</li> <li>3. 図解 作業療法技術ガイド 第4版 文光堂</li> </ol>		
事前事後の予習復習	演習過程で提示された課題の履行とその報告書作成		
履 修 の 条 件	作業療法概論と作業分析学を履修済みのこと		
参 考 文 献	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Pedretti 身体障害の作業療法第6版(協同医書)</li> <li>2. 作業学コールドマスターテキスト2 第2版 2015 ジョナルビュー社</li> <li>3. 基礎作業学 第3版 2017 医学書院</li> </ol>		
成 績 評 価 方 法	課題レポートと授業内発表の評点の平均値		
オ フ ィ ス ア ワ ー	火曜日午後		

授 業 科 目 名	基礎作業療法治療学 I (身体系)	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15 回
履 修 年 次	2 年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	清水 一		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	身体障害に対する作業療法の体系と基礎技術、状態における治療原則及び作業療法への応用を学修する。具体的には、関節可動域障害、筋力低下、筋緊張異常、感覚障害、巧緻性障害、協調性障害、持久力低下、廃用症候群などに対する治療理論について学び、合わせてその技法について、リスク管理とともに学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体機能 OT の概要を ICF, 作業療法実践枠組み (OTPF) で説明できる。</li> <li>2. 身体機能 OT の治療法決定を臨床推論から説明できる。</li> <li>3. 身体機能 OT の治療理論を説明できる。</li> <li>4. 病期・実施場所に応じた介入の違いを説明できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	基礎作業療法治療学 I の授業概要とその教育目標と行動目標	
	2	身体機能 OT 学の枠組み	
	3	臨床推論と根拠に基づく実践とリスク管理	
	4	身体機能 OT 学の実践について	
	5	対象者とセラピストのためのボディーメカニクス	
	6	運動制御理論と運動学習	
	7	関節可動域の維持・拡大	
	8	筋力と持久力の維持・増強	
	9	筋緊張異常とその治療	
	10	不随意運動・協調運動障害とその治療	
	11	感覚・知覚再教育	
	12	廃用症候群とその対応	
	13	物理療法の基礎	
	14	内部疾患への OT 基礎	
15	悪性腫瘍への OT 基礎		
教 科 書	身体機能作業療法学 第3版 医学書院 図解 作業療法技術ガイド 第4版 文光堂		
事前事後の予習復習	授業で示す課題と事前教科書の精読		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Pedretti 身体障害の作業療法第6版(協同医書)</li> <li>2. 身体領域の作業療法第2版(中央法規)</li> <li>3. 作業療法技術ガイド 第3版(文光堂)</li> <li>4. 作業療法マニュアル66(日本作業療法士協会)</li> </ol>		
成 績 評 価 方 法	授業内の小テスト、課題レポート 各50%づつ		
オ フィ ス ア ワ ー	火曜日午後		

授 業 科 目 名	基礎作業療法治療学Ⅱ (精神・認知系)	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	2年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	辻 美和		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	精神障害に対する作業療法の体系と基礎技術、状態における治療原則及び作業療法への応用を学修する。具体的には、精神科作業療法の理念・目的と役割ならびに基本的視点、併せて精神保健医療福祉の動向を踏まえ、各疾患の回復状況に応じた症状と障害に対する作業療法について、リスク管理とともに学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害及び精神障害作業療法について説明できる。</li> <li>2. 精神障害作業療法の治療・支援構造と治療機序が説明できる。</li> <li>3. 精神医療・保健・福祉領域における作業療法を説明できる。</li> <li>4. 日本の精神保健福祉の現状について概略を説明できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	精神障害作業療法の理念	
	2	精神障害作業療法と作業・作業活動	
	3	精神障害作業療法の目的・役割	
	4	精神障害作業療法の手段・介入・効果	
	5	精神障害作業療法の治療・支援構造と治療機序①	
	6	精神障害作業療法の治療・支援構造と治療機序②	
	7	精神障害作業療法の治療・支援構造と治療機序③	
	8	精神障害作業療法の治療・支援構造と治療機序④	
	9	精神障害作業療法におけるリスク管理	
	10	精神障害作業療法の治療・援助の場：精神科作業療法	
	11	精神障害作業療法の治療・援助の場：外来作業療法	
	12	精神障害作業療法の治療・援助の場：デイ・ケアなど	
	13	精神障害作業療法の治療・援助の場：保健・福祉領域	
	14	精神障害作業療法の関連法規①	
15	精神障害作業療法の関連法規②		
教 科 書	日本作業療法士協会 監修 作業療法学全書第 5 巻作業治療学 2 『精神障害』 共同医書出版 長崎重信 監修 『作業療法ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学』 改訂第 3 版 メジカルビュー社 配布資料		
事前事後の予習復習	精神医学・作業療法評価技法Ⅱ（精神・認知系）などの関連科目の予習・復習をしておくこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	香山明美・他 『生活を支援する精神障害作業療法—急性期から地域実践まで—』 医歯薬出版 朝田 隆・他 『精神疾患の理解と精神科作業療法』 中央出版		
成 績 評 価 方 法	定期試験(100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	作業療法日常生活活動学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	大塚 貴英		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	日常生活で基本として行われる移動、更衣、食事、排泄などの代表的な動作（日常生活活動：ADL）を取り上げ、それらの動作の分析、評価方法と障害を有する患者のトランスファーや歩行補助器の使用など生活自立を目指した指導方法について学修する。また、生活の質についての基本的な考え方についても学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>日常生活活動（ADL）の分類が理解できる。</li> <li>日常生活活動（ADL）の正常動作分析ができる。</li> <li>日常生活活動（ADL）の評価方法が理解できる。</li> <li>生活の質の基本的な考え方が理解できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	日常生活活動（ADL）の分類	
	2	日常生活活動（ADL）の正常動作分析① 食事・排泄・整容	
	3	日常生活活動（ADL）の正常動作分析② 入浴・更衣	
	4	日常生活活動（ADL）の正常動作分析③ 寝返り・起き上がり	
	5	日常生活活動（ADL）の正常動作分析④ 移乗・移動	
	6	日常生活活動（ADL）の評価①	
	7	日常生活活動（ADL）の評価②	
	8	生活の質（ADL）の基本的考え方	
教 科 書	長崎重信 監修 作業療法学ゴールドマスターテキスト『日常生活活動学（ADL）』 メジカルビュー社		
事前事後の予習復習	予習は、シラバスの確認とテキストならびに配付資料を読んでおく。復習は、講義板書ならびに配付資料を参照して、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	木村哲彦 編 『新イラストによる安全な動作介助の手引き』第2版 医歯薬出版		
成 績 評 価 方 法	定期試験(100%)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	日常生活支援作業療法実習	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	2年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	大塚 貴英		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	作業療法の中でも主要な領域である日常生活活動（ADL）および日常生活関連活動（IADL）・その他生活全般について、その概念と作業療法士の役割、指導について学修する。具体的には、IADLの分類、動作分析とそれぞれの活動の持つ意義を理解し、疾患がADLとIADLに及ぼす具体的な影響について考え、作業療法における評価・計画立案・指導の一連の流れを学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法における計画立案の流れを理解できる。</li> <li>2. 作業療法における援助・指導の一連の流れを理解できる。</li> <li>3. IADLの正常動作分析から、作業療法における計画立案・指導の一連の流れを理解できる。</li> <li>4. 自立を促す基本動作の援助技法を身につけることができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	日常生活活動（ADL）における作業療法士の役割①	
	2	日常生活活動（ADL）における作業療法士の役割②	
	3	自立を促す基本動作の援助技法①〔姿勢の名称／寝返りと起き上がり〕	
	4	自立を促す基本動作の援助技法②〔移乗（ベッド・車椅子間）／車いす移動〕	
	5	自立を促す基本動作の援助技法③〔立ち上がり（イス・床）／応用歩行〕	
	6	食事の援助技法①	
	7	食事の援助技法②	
	8	排泄の援助技法①	
	9	排泄の援助技法②	
	10	入浴の援助技法	
	11	更衣の援助技法	
	12	整容の援助技法	
	13	炊事の正常動作分析と援助技法	
	14	洗濯の正常動作分析と援助技法	
15	掃除の正常動作分析と援助技法		
教 科 書	長崎重信 監修 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト『日常生活活動学（ADL）』 メジカルビュー社		
事前事後の予習復習	予習は、シラバスの確認とテキストならびに配付資料を読んでおく。復習は、講義板書ならびに配付資料を参照して、要点をまとめる。また、13から15回の授業に関しては、授業で学んだ技術練習を習得できるまで行うこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	木村哲彦 編 『新イラストによる安全な動作介助の手引き』第2版 医歯薬出版		
成 績 評 価 方 法	定期試験（筆記50％・実技50％）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	義肢・装具作業療法実習	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	2年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	濱田 和範・岩崎 洋・仲木 右京 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	切断と義肢の基礎的知識、また装具の基本的知識と対象疾患ならびに適応について学修する。具体的には、義手・義足、スプリントなどの装具の構造を理解し、チェックポイントを学ぶとともに、臨床でよく用いられる上肢・手指用のスプリントを作製する。併せて、義肢・装具の操作方法や日常生活への応用について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 義肢と切断、装具の基本的知識について理解できる。</li> <li>2. 義肢の物品名称および適応技術について理解できる。</li> <li>3. 機能解剖学に基づいた Hand Therapy の基礎について理解できる。</li> <li>4. Hand Therapy の対象疾患を理解できる。</li> <li>5. 臨床でよく用いられる上肢・手指用のスプリントを製作できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	担 当
	1	切断と義肢・装具の基礎的知識 (分類と適応疾患)	濱田・岩崎
	2	大腿義足の物品名称と適応技術・日常生活への応用	濱田・岩崎
	3	下腿義足の物品名称と適応技術・日常生活への応用	濱田・岩崎
	4	上腕義手の物品名称と適応技術	濱田・岩崎
	5	前腕義手の物品名称と適応技術	濱田・岩崎
	6	義手の操作方法と日常生活への応用	濱田・岩崎
	7	下肢装具の物品名称と適応技術・日常生活への応用	濱田・岩崎
	8	上肢装具の処方と対象疾患	仲木
	9	上肢装具の適応と作業療法場面における指導方法	仲木
	10	上肢保持用装具の適応技術	仲木
	11	スプリントの種類と適応①	仲木
	12	スプリントの種類と適応②	仲木
	13	スプリントの適合と作業療法プログラム	仲木
	14	スプリント製作① (Gauntlet Thumb Spica)	仲木
15	スプリント製作② (Thumb Hole Wrist Cock-up)	仲木	
教 科 書	大庭潤平・他 『義肢装具と作業療法—評価から実践まで—』 医歯薬出版 配付資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は、シラバスの確認とテキストならびに配付資料を読んでおく。復習は、講義板書ならびに配付資料を参照して、要点をまとめる。また、14・15回の授業に関しては、授業で学んだ適合技術の練習を習得できるまで行うこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	澤村誠志 『切断と義肢』第2版 医歯薬出版 矢崎潔 『手のスプリントのすべて』 三輪書店 石川齊・他 『図解 作業療法技術ガイド』第3版 文光堂		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	身体障害作業療法実習 I (中枢神経系)	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	23回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	清水 一 石元美知子、有光 一樹		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	身体障害領域の中でも、中枢神経疾患（脳血管障害・神経変性疾患など）に対する作業療法の治療理論、技法の基本的知識を学修する。具体的には、脳血管障害、失調症、パーキンソン病などの病態像と機能障害の関係、合併症、作業療法評価における国際生活機能分類（ICF）を用いた障害の捉え方、作業療法計画立案、急性期・回復期・維持期の作業療法、ADLアプローチまでを、事例を通して学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳血管障害による片麻痺について、主な臨床症状と障害について理解できる。</li> <li>2. 脳血管障害の評価の意義を理解して、適切に実施できる。</li> <li>3. 脳血管障害の急性期・回復期・維持期の作業療法の目的を理解できる。</li> <li>4. 作業療法を実施する上でのリスク管理について理解できる。</li> <li>5. 必要な装具・自助具・福祉用具・住環境整備について理解できる。</li> <li>6. 脳血管障害における地域連携について理解できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス・脳の解剖と病態像との関係	
	2	CT・MRI の診方の実際	
	3	脳の局在機能と機能障害の実際	
	4	脳血管障害による一次障害の実際	
	5	脳血管障害による二次障害の実際	
	6	作業療法評価①	
	7	作業療法評価②	
	8	作業療法評価③	
	9	作業療法目標・実施計画立案①	
	10	作業療法目標・実施計画立案②	
	11	急性期における作業療法①	
	12	急性期における作業療法②	
	13	急性期における作業療法③	
	14	回復期における作業療法	
	15	機能的回復のための治療・援助方法	
	16	ADL 能力獲得のための治療・援助方法	
	17	回復期作業療法におけるリスク管理方法	
	18	装具・自助具・福祉用具の適応	
	19	住環境整備方法	
	20	維持期における作業療法①	
	21	維持期における作業療法②	
	22	脳血管障害における地域連携方法①	
23	脳血管障害における地域連携方法②		
教 科 書	水尻強志、富山陽介 『脳卒中リハビリテーション』第3版 医歯薬出版 日本作業療法士協会 監修 作業療法全書第4巻作業治療学 I 『身体障害』 協同医書出版		
事前事後の予習復習	予習は、シラバスの確認と教科書を読んでおく。復習は講義板書ならびに配布資料を参照して、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	石川齋・他 『図解 作業療法技術ガイド』 文光堂 矢谷合子 監修 『標準作業療法学専門分野 作業療法評価学』 医学書院		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	火曜日午後		

授 業 科 目 名	身体障害作業療法実習Ⅱ (脊髄・運動器系)	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	23回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	大塚 貴英、石元美知子、佐藤 信治 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	身体障害領域の中でも、脊髄・運動器(骨・関節・筋疾患)系の障害に対する作業療法の治療理論、技法の基本的知識を学修する。具体的には、頸髄損傷、関節リウマチ、手の外科疾患などの病態像と機能障害の関係、合併症、作業療法評価における国際生活機能分類(ICF)を用いた障害の捉え方、作業療法計画立案、急性期・回復期・維持期の作業療法、ADLアプローチ、機能代償アプローチまでを事例を通して学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脊髄損傷によって生じる障害・合併症について理解できる。</li> <li>2. 脊髄損傷者へのADL訓練、装具・福祉用具などや社会参加への支援を身につけることができる。</li> <li>3. 関節リウマチの病因と病理、診断と予後、評価について理解できる。</li> <li>4. 関節リウマチへのADL訓練、装具・自助具の作成を身につけることができる。</li> <li>5. 手外科疾患の病態像と機能障害、Hand Therapyの目的について理解できる。</li> <li>6. 骨折を中心に、検査測定手技、治療のポイント、ADL訓練について身につけることができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	担 当
	1	脊髄損傷による運動・感覚・自律神経障害	石元
	2	脊髄損傷によって生じる合併症	石元
	3	脊髄損傷の運動学(代償動作)とADL基本動作	石元
	4	作業療法評価の方法	石元
	5	損傷レベル別、食事動作・整容動作の方法	石元
	6	損傷レベル別、更衣動作・排泄動作の方法	石元
	7	損傷レベル別、入浴動作・書字動作の方法	石元
	8	損傷レベル別、装具・自助具の作成	石元
	9	車椅子の適合と、住環境整備	石元
	10	事例を通してのICFによる問題点列挙とゴール設定	石元
	11	事例を通しての作業療法アプローチの作成	石元
	12	まとめ	石元
	13	関節リウマチの病因と病理、診断と予後	佐藤
	14	作業療法評価の方法①(X-Pの見方など)	佐藤
	15	作業療法評価の方法②(機能面・ADL面・家事動作など)	佐藤
	16	関節保護の仕方、住環境整備、自助具・装具作成	佐藤
	17	事例を通しての作業療法アプローチの作成  まとめ	佐藤
	18	骨折などの整形疾患による生活活動障害	大塚
	19	作業療法評価の方法①	大塚
	20	作業療法評価の方法②	大塚
	21	手外科疾患に対する作業療法①	大塚
	22	手外科疾患に対する作業療法②	大塚
23	高齢者の骨折に対する作業療法	大塚	
教 科 書	神奈川リハビリテーション病院脊髄損傷リハビリテーションマニュアル編集委員会・編 脊髄損傷リハビリテーションマニュアル第3版 医学書院 山口昇・他 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版 医学書院 石川齊・他 『図解 作業療法技術ガイド』第3版 文光堂 配布資料		
事前事後の予習復習	予習は、シラバスの確認と教科書を読んでおく。復習は講義板書ならびに配布資料を参照して、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	津山直一 監修 『頸髄損傷のリハビリテーション』 協同医書出版 佐々木智也・他 『リウマチ・痛み』第2版 医歯薬出版		
成 績 評 価 方 法	定期試験(100%)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時(要予約)		

授 業 科 目 名	身体障害作業療法実習Ⅲ(内部系)	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	金久 雅史(兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	代表的な内科系疾患について、対象となる臨床像を理解し、障害に対する作業療法の目的と役割ならびに基本的視点と評価技法、治療、指導、援助方法(ADL・IADL・リスク管理など)を学修する。具体的には、呼吸器疾患、循環器疾患(心大血管疾患)などについて、事例を通して学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内部障害に対するリハビリテーションについて理解できる。</li> <li>2. 呼吸器疾患による生活障害に対する作業療法を身につけることができる。</li> <li>3. 循環器疾患による生活障害に対する作業療法を身につけることができる。</li> <li>4. がんによる終末期の作業療法身につけることができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	呼吸器疾患の基礎知識と生活活動障害	
	2	呼吸器疾患による生活活動障害の評価①	
	3	呼吸器疾患による生活活動障害の評価②	
	4	呼吸器疾患に対するADL・IADL支援の実際	
	5	事例を通じた呼吸器疾患に対する作業療法の検討	
	6	循環器疾患(心大血管疾患)の基礎知識と生活活動障害	
	7	循環器疾患(心大血管疾患)による生活活動障害の評価①	
	8	循環器疾患(心大血管疾患)による生活活動障害の評価②	
	9	循環器疾患(心大血管疾患)に対するADL・IADL支援の実際	
	10	事例を通じた循環器疾患に対する作業療法の検討	
	11	がんの基礎知識と生活活動障害	
	12	がんによる生活活動障害の評価①	
	13	がんによる生活活動障害の評価②	
	14	がんの作業療法の実際	
15	事例を通じた終末期の作業療法の検討		
教 科 書	講義用レジュメを配布し、文献の紹介やその他必要な資料の配布は適宜行う。		
事前事後の予習復習	予習はシラバスの確認と講義範囲の参考文献を読んでおく。復習は講義ならびに配布資料を参照して、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	(社)日本作業療法士協会 『作業療法マニュアル』 44 心大血管疾患の作業療法 45 呼吸器疾患の作業療法① 46 呼吸器疾患の作業療法② 47 がんの作業療法① 48 がんの作業療法②		
成 績 評 価 方 法	授業態度(授業後の実施記録 40%)、定期試験(60%)を基準に総合的に評価する。		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	精神障害作業療法実習 I	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15 回
履 修 年 次	3 年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	足立 一、辻 美和		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	精神障害における作業療法の実際について、回復状況に応じた作業療法、地域生活・就労支援、リスクマネジメント、評価・手順・治療について学修する。具体的には、統合失調症、気分感情障害、アルコール依存症、人格障害、摂食障害、てんかん、神経症性障害などの各疾患について、事例を通して学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害に対する評価から治療に至る作業療法の流れを説明できる。</li> <li>2. 回復過程に応じた作業療法士の役割を説明できる。</li> <li>3. 疾病と障害、回復段階に応じた評価・作業療法計画とその実施遂行について考察し意見を述べるができる。</li> <li>4. 主な精神疾患に対する作業療法の概略を説明できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	回復状況に応じたリハビリテーションと作業療法アプローチ①	
	2	回復状況に応じたリハビリテーションと作業療法アプローチ②	
	3	統合失調症にともなう障害と作業療法アプローチ	
	4	気分感情障害にともなう障害と作業療法アプローチ	
	5	アルコール依存症にともなう障害と作業療法アプローチ	
	6	人格障害にともなう障害と作業療法アプローチ	
	7	摂食障害にともなう障害と作業療法アプローチ	
	8	てんかんにともなう障害と作業療法アプローチ	
	9	神経症性障害にともなう障害と作業療法アプローチ	
	10	退院支援と作業療法アプローチ	
	11	地域生活支援と作業療法アプローチ①	
	12	地域生活支援と作業療法アプローチ②	
	13	就労支援と作業療法アプローチ	
	14	訪問による支援と作業療法アプローチ	
15	作業療法におけるリスクマネジメント		
教 科 書	日本作業療法士協会 監修 作業療法学全書第 5 巻作業治療学 2 『精神障害』 共同医書出版 長崎重信 監修 『作業療法ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学』 第 3 版 メジカルビュー社		
事前事後の予習復習	精神医学等関連科目の復習をしておくこと。		
履 修 の 条 件	グループ演習は主体的に取り組むこと。		
参 考 文 献	長崎重信 監修『作業療法ゴールドマスターテキスト改訂第 2 版 精神障害作業療法学』 メジカルビュー社 朝田隆・他 『精神疾患の理解と精神科作業療法』 中央出版		
成 績 評 価 方 法	定期試験(100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	精神障害作業療法実習Ⅱ	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	足立 一、辻 美和		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>関連理論に基づいて、精神障害における実際の作業療法の流れについて学修する。具体的には、作業療法において用いられる面接技法、レクリエーション活動、創作活動などの各種活動について、オリエンテーション、計画・立案、準備、実行、振り返りまでの一連の流れを、患者対応を含めて学修する。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害で行われる各種技法についてその目的や方法を理解し、実施することができる。</li> <li>2. 集団を利用した治療援助とその適用について説明できる。</li> <li>3. 精神障害領域における評価や治療技法について演習を通じて学び、作業療法の一連の流れを実施することができる。</li> <li>4. 精神障害作業療法プログラムを立案し、実施とリーダー体験ができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	精神科作業療法における生活技能訓練①	
	2	精神科作業療法における生活技能訓練②	
	3	精神科作業療法における認知行動療法①	
	4	精神科作業療法における認知行動療法②	
	5	精神科作業療法におけるレクリエーション療法	
	6	レクリエーション計画立案	
	7	レクリエーション実行準備	
	8	レクリエーション実行①	
	9	レクリエーション実行②	
	10	レクリエーション実行③	
	11	精神科作業療法治療技法①	スポーツ
	12	精神科作業療法治療技法②	スポーツ
	13	精神科作業療法治療技法③	創作活動
	14	精神科作業療法治療技法④	創作活動
15	精神科作業療法治療技法⑤	創作活動	
教 科 書	<p>日本作業療法士協会 監修 作業療法学全書第5巻作業治療学2 『精神障害』 共同医書出版  長崎重信 監修 『作業療法ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学』 第3版 メジカルビュー社</p>		
事前事後の予習復習	精神障害作業療法技法Ⅰなど関連科目の復習をしておくこと。		
履 修 の 条 件	グループ演習は主体的に取り組むこと。		
参 考 文 献	<p>山根寛 『ひとと集団・場』 三輪書店  山根寛 『ひとと作業・作業活動』 新版 三輪書店  長崎重信 監修 作業療法ゴールドマスターテキスト改訂第2版『精神障害作業療法学』 メジカルビュー社</p>		
成 績 評 価 方 法	定期試験(100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	老年期障害作業療法実習 I	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15 回
履 修 年 次	3 年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	平松真奈美		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	老年期障害に対する作業療法の目的と役割ならびに基本的視点について、老年期特有の生活課題と生活活動障害に対する作業療法の内容について学修する。具体的には、老化と高齢者の状態、高齢社会の現状と課題、老年期障害の対象の特徴としての寝たきり高齢者、認知症高齢者、生活不活発病などの生活活動障害に対して、リスクマネジメントも併せて評価・計画・治療・支援について理解するとともに、事例を通して学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期障害の特徴を理解できる。</li> <li>2. 老年期作業療法の目的と役割、基本的視点を理解できる。</li> <li>3. 老年期作業療法の評価を理解できる。</li> <li>4. 老年期作業療法の計画・治療・支援を理解できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	老化と高齢者の特徴・高齢社会の現状と課題	
	2	高齢者におけるリスク管理、老年期作業療法の考え方	
	3	生活不活発病の生活活動障害と作業療法①	
	4	生活不活発病の生活活動障害と作業療法②	
	5	寝たきり高齢者の生活活動障害と作業療法	
	6	認知症高齢者の生活活動障害と作業療法①	
	7	認知症高齢者の生活活動障害と作業療法②	
	8	骨・関節疾患の生活活動障害と作業療法	
	9	嚥下障害の生活活動障害と作業療法	
	10	排泄障害の生活活動障害と作業療法	
	11	老年期作業療法における評価の実際①	
	12	老年期作業療法における評価の実際②	
	13	老年期作業療法における計画の実際①	
	14	老年期作業療法における計画の実際②	
15	老年期作業療法における計画の実際③		
教 科 書	浅海奈津美、守口恭子 『老年期の作業療法』第2版増補版 三輪書店		
事前事後の予習復習	予習は、シラバスの確認とテキストならびに配付資料を読んでおく。復習は、講義板書ならびに配付資料を参照して、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	守口恭子 『高齢期における認知症のある人への作業療法』 三輪書店 真野行生 『高齢者の転倒とその対策』 医歯薬出版株式会社 長崎重信 監修 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト9『地域作業療法学・老年期作業療法学』 メジカルビュー社		
成績評価方法	定期試験(100%)		
オフィスアワー	授業終了後		

授 業 科 目 名	老年期障害作業療法実習Ⅱ	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	辻 美和、平松真奈美		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	老年期障害に対する作業療法の評価・計画・治療・支援とその実際について学修する。具体的には、寝たきり高齢者、認知症高齢者、生活不活発病、加齢に伴う各種疾患における障害に対する治療・支援方法である介助方法や居住環境の整備、レクリエーションや創作活動などの余暇活動について学び、事例に対する計画立案を行う。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 老年期の障害に対する治療・支援方法について理解できる。 2. 事例に基づいた作業療法計画立案ができる。 3. 事例に基づいた効果的な作業療法を検討し、実践的な知識・技術を身に付けることができる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	寝たきり高齢者における作業療法アプローチ①	
	2	寝たきり高齢者における作業療法アプローチ②	
	3	寝たきり高齢者における作業療法アプローチ③	
	4	認知症高齢者における作業療法アプローチ①	
	5	認知症高齢者における作業療法アプローチ②	
	6	認知症高齢者における作業療法アプローチ③	
	7	生活不活発病などにおける作業療法アプローチ①	
	8	生活不活発病などにおける作業療法アプローチ②	
	9	レクリエーション・創作活動の工夫①	
	10	レクリエーション・創作活動の工夫①	
	11	事例に対する作業療法計画立案①	
	12	事例に対する作業療法計画立案②	
	13	事例に対する作業療法計画立案③	
	14	事例に対する作業療法計画立案④	
15	事例に対する作業療法計画立案⑤		
教 科 書	浅海奈津美、守口恭子 『老年期の作業療法』第2版増補版 三輪書店		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は、シラバスの確認とテキストならびに配付資料を読んでおく。復習は、講義板書ならびに配付資料を参照して、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	守口恭子 『高齢期における認知症のある人への作業療法』 三輪書店 真野行生 『高齢者の転倒とその対策』 医歯薬出版株式会社 長崎重信 監修 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト9『地域作業療法学・老年期作業療法学』 メジカルビュー社		
成 績 評 価 方 法	定期試験（100%）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	発達障害作業療法実習	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	篠田かおり、吉岡 和哉 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	発達障害に対する作業療法の理念・目的と役割ならびに基本的視点と、医療・保健・福祉・教育の動向を踏まえ、各疾患における症状と障害に対する作業療法の治療理論と実践内容について学修する。具体的には、姿勢・運動機能、上肢機能、視覚機能、知的機能、心理社会的側面などの治療・援助であり、脳性麻痺などの重症心身障害、知的障害、学習障害、注意欠陥多動障害、広汎性発達障害などの発達障害について、事例を通して疾患別に学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達障害児の症状について説明することができる。</li> <li>2. 発達障害児に対する評価を適切に選択し、国際生活機能分類(ICF)を用いて、結果を統合解釈することができる。</li> <li>3. ICFに基づき治療目標を設定し、治療の計画立案・実施ができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	担 当
	1	発達障害に対する作業療法の理念と役割	篠田
	2	脳性麻痺に対する作業療法①	篠田
	3	脳性麻痺に対する作業療法②	篠田
	4	脳性麻痺に対する作業療法③	篠田
	5	重症心身障害に対する作業療法①	篠田
	6	重症心身障害に対する作業療法②	篠田
	7	重症心身障害に対する作業療法③	篠田
	8	神経筋疾患に対する作業療法①	篠田
	9	神経筋疾患に対する作業療法②	篠田
	10	神経筋疾患に対する作業療法③	篠田
	11	精神発達遅滞に対する作業療法	吉岡
	12	広汎性発達障害に対する作業療法①	吉岡
	13	広汎性発達障害に対する作業療法②	吉岡
	14	学習障害に対する作業療法	吉岡
15	注意欠陥多動障害に対する作業療法	吉岡	
教 科 書	日本作業療法士協会 監修作業療法学全書第6巻作業治療学3『発達障害』 協同医書出版 古川修・他 『図解 作業療法技術ガイド』 文光堂		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	疾患の特徴について教科書、図書の文献などを参考に学習し、理解しておく。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	岩崎清隆 『発達障害と作業療法』基礎編 三輪書店 岩崎清隆、岸本光夫 『発達障害と作業療法』実践編 三輪書店 M. R. fiorentino 『脳性麻痺の反射検査』 医歯薬出版 高橋智宏 監訳 『機能的姿勢—運動スキルの発達』 協同医書出版 富田昌夫 監訳 『パーセプション』 シュプリンガー・フェアラーク東京 紀伊克昌 監訳 『視覚機能の発達障害』 医歯薬出版 大木孝子、中村勇 共訳 『写真で見る乳児の運動発達』 協同医書出版 今川忠男 『発達障害の新しい療育』 三輪書店 日本作業療法士協会 監修 『作業療法マニュアル障害児のための生活学習具』 落合美子 編 新体系看護学36『リハビリテーション看護』 メディカルフレンド社		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	高次脳機能障害作業療法実習	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	辻 美和、石元美知子、筒井 裕介（兼任）		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	高次脳機能障害に対する作業療法についての基本的知識を学修する。具体的には、脳損傷や脳変性疾患による失行症、失認症、注意障害、記憶障害、遂行機能障害、前頭葉性運動障害などに対する検査・治療・支援方法（機能回復練習、生活技能の学習、役割の再獲得への支援など）について、事例を通して学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高次神経障害の神経基盤を理解できる。</li> <li>2. 高次脳機能障害の種類とその症状について理解できる。</li> <li>3. 高次脳機能障害の検査方法を身につけることができる。</li> <li>4. 作業療法治療・支援方法を身につけることができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	担 当
	1	高次神経障害の神経基盤	筒井
	2	高次脳機能障害の種類とその症状①	筒井
	3	高次脳機能障害の種類とその症状②	筒井
	4	高次脳機能障害の種類とその症状③	筒井
	5	高次脳機能障害の種類とその症状④	筒井
	6	高次脳機能障害検査①	石元・辻
	7	高次脳機能障害検査②	石元・辻
	8	高次脳機能障害検査③	石元・辻
	9	高次脳機能障害検査④	石元・辻
	10	高次脳機能障害検査⑤	石元・辻
	11	高次脳機能障害検査⑥	石元・辻
	12	作業療法治療・支援方法①	石元・辻
	13	作業療法治療・支援方法②	石元・辻
	14	作業療法治療・支援方法③	石元・辻
15	作業療法治療・支援方法④	石元・辻	
教 科 書	『作業療法学ゴールド・マスター・テキスト』（高次脳機能障害作業療法学） 第3版 メジカルビュー社		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は、シラバスの確認と教科書を読んでおく。復習は講義板書ならびに配布資料を参照して、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	石合純夫 『高次脳機能障害学』第2版 医歯薬出版		
成 績 評 価 方 法	定期試験（100%）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時（要予約）		

授 業 科 目 名	臨床作業療法技法実習 I (PBL)	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	辻 美和、篠田かおり、有光 一樹、笹村 聡		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	作業療法士としての基本的態度を身につけるとともに、作業療法の対象者への接し方について学修する。礼儀正しい態度や言葉遣いを習得するとともに、治療者として必要なコミュニケーション能力についての知識をもとに、実習を中心とした技術学習を行う。具体的には、コミュニケーションの実際として、聞き取りやすい発音と話し方、身だしなみと態度・表情、報告・連絡・相談など、臨床場面を想定した技能について実習を行う。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者との円滑なコミュニケーションスキルを身につけることができる。</li> <li>2. コミュニケーションスキルにおける自己評価を確立することができる。</li> <li>3. 自己のコミュニケーションスキルを身につけることができる。</li> <li>4. 臨床場面でのコミュニケーションスキルを身につけることができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス、作業療法士に求められるコミュニケーションスキル	
	2	コミュニケーションスキルにおける自己評価・他者評価（初期）	
	3	コミュニケーション（話し方・聞き方）①	
	4	コミュニケーション（話し方・聞き方）②	
	5	コミュニケーション（話し方・聞き方）③	
	6	コミュニケーションスキル（身だしなみ・態度など）①	
	7	コミュニケーションスキル（身だしなみ・態度など）②	
	8	コミュニケーションスキル（身だしなみ・態度など）③	
	9	模擬対象者とのコミュニケーション①	
	10	模擬対象者とのコミュニケーション②	
	11	模擬対象者とのコミュニケーション③	
	12	模擬指導者とのコミュニケーション①	
	13	模擬指導者とのコミュニケーション②	
	14	模擬指導者とのコミュニケーション③	
15	コミュニケーションスキルにおける自己評価・他者評価（最終）		
教 科 書	配布資料		
事前事後の予習復習	予習は配布資料を読んでおく。復習は、講義内容について所感を含めて要点をまとめておく。要点をまとめたものは、デイリーノートとして提出する。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	澤俊二、鈴木孝治 編 『コミュニケーションスキルの磨き方』 医歯薬出版		
成 績 評 価 方 法	1. 課題実施時の報告内容、2. デイリーノートの提出状況、3. レポート、以上 3項目を総合的に判断する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	臨床作業療法技法実習Ⅱ (PBL)	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	辻 美和、篠田かおり、有光 一樹、笹村 聡		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>作業療法の対象領域（身体障害・精神障害など）における提示された事例の基本情報をもとに、疾患や障害の特徴、評価項目などを調べ、実際に評価の手順を計画するまでの過程について学修する。具体的には、提示された事例の映像などの資料をもとに、作業療法評価に関する以下の内容を行う。情報収集・面接・観察・検査測定の内容と方法について、事例に必要な評価項目を選定し、実施方法の確認、選定した評価項目が実施できるように実施手順を計画、対象者に説明できるようにオリエンテーションの準備、事例の模擬患者に対して評価を実践、事例の評価結果をもとに国際生活機能分類（ICF）を用いて全体像を把握し、優先順位をつけた解決すべき課題の列挙を行うまでの技能について実習を行う。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者への評価の重要性について理解できる。</li> <li>2. 評価における面接、観察、測定スキルを身につけることができる。</li> <li>3. 得られた情報をICFにまとめる力を身につけることができる。</li> <li>4. ゴール設定の知識を身につけることができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス、事例1の提示	
	2	事例1に対する評価計画の立案	
	3	事例1の評価①	
	4	事例1の評価②	
	5	事例1の評価③	
	6	事例1の評価結果をもとにしたICFの作成	
	7	事例1の評価の不足項目の再評価	
	8	事例1のゴール設定検討、フィードバック	
	9	事例2の提示、事例2に対する評価計画の立案	
	10	事例2の評価①	
	11	事例2の評価②	
	12	事例2の評価③	
	13	事例2の評価結果をもとにしたICFの作成	
	14	事例2の評価の不足項目の再評価	
15	事例2のゴール設定検討、フィードバック		
教 科 書	配布資料		
事前事後の予習復習	予習は、予め実施しようとする評価の準備を行い、練習実施した上で授業に臨む。復習は、得られた情報をケースノートにまとめ、考察した上で提出する。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	宮前珠子、新宮尚人 『作業療法がわかるPBLチュートリアルStep by Step』 医学書院		
成 績 評 価 方 法	1. 課題実施時の報告内容、2. デイリーノートの提出状況、3. レポート、以上3項目を総合的に判断する。		
オ フィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	地域作業療法学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	2年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	平松真奈美		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	地域リハビリテーションの理念と定義を踏まえ、障害者・高齢者の地域生活における現状と課題について理解し、地域における生活障害への支援方法について学修する。具体的には、地域包括ケアシステム関連、介護保険法や障害者総合支援法などの制度に見られる地域リハビリテーションの概要と今後の展望、作業療法から見た生活障害の評価の要点、ケアマネジメント、在宅生活を支えるサービスの実際について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域リハビリテーションの考え方を理解することができる。</li> <li>2. 地域支援サービスにおける作業療法士の役割を理解することができる。</li> <li>3. 地域支援サービスの内容と作業療法について理解することができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	地域リハビリテーションの考え方	
	2	障害者・高齢者の地域生活における現状と課題	
	3	地域における生活障害	
	4	生活障害の評価	
	5	介護保険法のサービスと作業療法の役割①	
	6	介護保険法のサービスと作業療法の役割②	
	7	障害者総合支援法のサービスと作業療法の役割①	
	8	障害者総合支援法のサービスと作業療法の役割②	
	9	地域包括ケアシステムと作業療法の役割①	
	10	地域包括ケアシステムと作業療法の役割②	
	11	ケアマネジメント①	
	12	ケアマネジメント②	
	13	居宅サービスの内容と作業療法① 訪問	
	14	居宅サービスの内容と作業療法② 通所	
15	入所サービスの内容と作業療法		
教 科 書	大田仁史 編著 『地域リハビリテーション論』 Ver. 6 三輪書店 配布資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は、シラバスの確認とテキストならびに配付資料を読んでおく。復習は、講義板書ならびに配付資料を参照して、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	長崎重信 監修 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト『地域作業療法学』 メジカルビュー社 藤原茂 『生活を活発にする介護予防リハビリテーション』 青海社		
成 績 評 価 方 法	定期試験(100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	地域作業療法学演習	授 業 形 態	演習	
単 位 数	1	回 数	15回	
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	必修	
科 目 担 当 者	平松真奈美			
授 業 の 概 要 ・ 目 的	地域リハビリテーションにおける作業療法の理念と役割を踏まえ、対象者の生活課題に対する基本的視点、評価・計画・支援の実際について学修する。具体的には、障害者とその家族が望む地域における活動と参加ができるよう、訪問や通所における作業療法の実践について、事例を通して学ぶ。			
授 業 の 到 達 目 標	1. 地域における作業療法の対象者の生活課題について、理解することができる。 2. 訪問や通所における作業療法について、理解することができる。			
授 業 計 画	回	内 容		
	1	地域における生活課題の基本的視点		
	2	生活障害の予防		
	3	訪問における作業療法の評価・計画・支援		
	4	訪問における作業療法（事例検討・グループワーク）		
	5	訪問における作業療法（事例検討・グループワーク）		
	6	事例検討発表準備		
	7	事例検討発表		
	8	通所における作業療法の評価・計画・支援		
	9	通所における作業療法（事例検討・グループワーク）		
	10	通所における作業療法（事例検討・グループワーク）		
	11	事例検討発表準備		
	12	事例検討発表		
	13	地域支援事業における作業療法の実際	(ゲストスピーカー)	
	14	地域支援事業における作業療法の実際	(ゲストスピーカー)	
15	地域支援事業における作業療法の実際	(ゲストスピーカー)		
教 科 書	配布資料 参考文献にしてある「地域作業療法学」で使用したテキスト・配布資料は、授業時に持参すること。			
事前事後の予習復習	予習：授業ごとに次回の予習内容を伝えるので準備をしておくこと。 復習：授業内容を振り返り、要点をノートにまとめておくこと。			
履 修 の 条 件	特になし			
参 考 文 献	大田仁史 編著 『地域リハビリテーション論』Ver. 三輪書店 長崎重信 監修 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト『地域作業療法学』 メジカルビュー社 「地域作業療法学」授業配布資料			
成 績 評 価 方 法	レポート 50% 発表 50%			
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時（要予約）			

授 業 科 目 名	生活環境支援作業療法実習	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	大塚 貴英、笹岡 和泉（兼任）		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	地域リハビリテーションを支える生活環境支援について学修する。具体的には、作業療法士として必要となる家屋調査の考え方と実際、他職種との連携について、居住環境としてバリアフリー・ユニバーサルデザインの基本、住宅改修の目的ならびに環境調整前後の様子を事例を通して学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法士として必要となる福祉機器選択のポイントと注意点を理解できる。</li> <li>2. 作業療法士として必要となる家屋調査の考え方について理解できる。</li> <li>3. バリアフリー・ユニバーサルデザインの基本について理解できる。</li> <li>4. 住宅改修の目的ならびに住宅改修案の作成について理解できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	担 当
	1	生活環境の考え方 (バリアフリー・ユニバーサルデザインの基本)	笹岡
	2	住宅改修の目的と建物構造から考える注意点	笹岡
	3	住宅改修前後の状況、事例1による具体的改修目的の検討	笹岡
	4	住宅改修前後の状況、事例2による具体的改修目的の検討	笹岡
	5	家屋調査のポイントと注意点・他職種連携	大塚
	6	家屋調査における家屋内外の計測手法	大塚
	7	福祉機器選択のポイントと注意点	大塚
	8	模擬症例による福祉機器選択の検討(ベッド周辺機器)①	大塚
	9	模擬症例による福祉機器選択の検討(ベッド周辺機器)②	大塚
	10	模擬症例による住宅改修案の作成(トイレ)①	大塚
	11	模擬症例による住宅改修案の作成(トイレ)②	大塚
	12	模擬症例による住宅改修案の作成(トイレ)③	大塚
	13	模擬症例による自宅改修案の作成①	大塚
	14	模擬症例による自宅改修案の作成②	大塚
15	模擬症例による自宅改修案の作成③	大塚	
教 科 書	配付資料		
事前事後の予習復習	予習は、シラバスの確認とテキストならびに配付資料を読んでおく。復習は、講義板書ならびに配付資料を参照して、要点をまとめる。また、9回目の講義までに自宅の家屋調査を行いレポートにまとめておく。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	野村歡、橋本美芽 『住環境整備論』 三輪書店		
成 績 評 価 方 法	定期試験(100%)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時(要予約)		

授 業 科 目 名	機能代償支援作業療法実習	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	有光 一樹、土居 道康（兼任）、篠森 丞（兼任）		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	リハビリテーションの代償的アプローチとして活用する補装具、日常生活用具、自助具、福祉機器などの種類と適用方法について学修する。具体的には、自助具・福祉機器と作業療法士の役割、起居・移乗・移動、ADLに関する自助具・福祉機器の適応、シーティングである。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自助具・福祉機器について理解できる。</li> <li>2. 自助具・福祉機器における作業療法士の役割を理解できる。</li> <li>3. ADL、IADLにおける自助具・福祉機器の知識を身につけることができる。</li> <li>4. シーティングがもたらすADL能力の効果を理解できる。</li> <li>5. シーティングスキルを身につけることができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	自助具・福祉機器と作業療法士の役割	土居
	2	起居動作・床上動作に対する自助具・福祉機器の適応	土居
	3	移動動作に対する自助具・福祉機器の適応	土居
	4	姿勢保持に対する自助具・福祉機器の適応	土居
	5	食事動作に対する自助具・福祉機器の適応	土居
	6	整容動作に対する自助具・福祉機器の適応	土居
	7	更衣動作に対する自助具・福祉機器の適応	土居
	8	移乗動作に対する自助具・福祉機器の適応	篠森
	9	排泄動作に対する自助具・福祉機器の適応	篠森
	10	入浴動作に対する自助具・福祉機器の適応	篠森
	11	シーティングの目的	有光
	12	シーティングの評価	有光
	13	シーティングに対する自助具・福祉機器の適応	有光
	14	シーティングの実践①	有光
15	シーティングの実践②	有光	
教 科 書	(財)テクノエイド協会 『自助具ハンドブック』 寺山久美子、大喜多潤 『テクニカルエイド』 三輪書店 日本作業療法士協会 監修 作業療法技術学 2『福祉用具の使い方・住環境整備』 共同医書出版 配布資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は、配布資料を一読してくる。復習は、講義内容について要点をまとめておく。使用した自助具や福祉機器について、その道具の特徴をまとめておく。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	日本リハビリテーション工学協会 SIG 姿勢保持 編 『小児から高齢者までの姿勢保持』 医学書院 廣瀬秀行、清宮清美 『障害者のシーティング』 三輪書店		
成 績 評 価 方 法	定期試験(100%)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時（要予約）		

授 業 科 目 名	就労支援作業療法演習	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	足立 一、石元美知子		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	職業リハビリテーションの目的と意義を理解し、当該分野における作業療法士の役割および職業リハビリテーションに関する基本的知識と技術を学修する。具体的には、作業療法の役割、職業前評価、職業評価（各種ワークサンプル、職業適性検査など）、作業療法の内容について、事例を通して学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職業リハビリテーションに関する制度及び関係機関の役割と連携を理解できる。</li> <li>2. 事例を通して、職業評価の意義を理解し適切に実施できる。</li> <li>3. 事例を通して、作業療法計画の立案とアプローチが実施できる。</li> <li>4. 事例を通して、障害のある方の様々な就労の仕方を理解できる。</li> <li>5. 事例を通して、障害のある方の様々な就労支援の現状を理解できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	担 当
	1	職業リハビリテーションに関する制度及び関係機関の役割	石元
	2	職業適応援助者（ジョブコーチ）の支援	石元
	3	就労生活評価	石元
	4	職業評価（職業適性検査）	石元
	5	職業評価（ワークサンプル）	石元
	6	身体障害・高次脳機能障害事例への就労支援	石元
	7	事例を通してのワークサンプルの作成	石元
	8	事例を通しての作業療法アプローチと関係機関連携の作成	石元
	9	就労支援の歴史（知的・精神障害を中心に）	足立
	10	IPS(Individual Placement and Support:個別職業紹介とサポート)	足立
	11	特例子会社における就労支援	足立
	12	高等特別支援学校における職業訓練	足立
	13	在宅障害者におけるテレワーク支援	足立
	14	認知症の就労支援	足立
15	障害者が働くということ（一般就労と福祉的就労）	足立	
教 科 書			
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は、シラバスの確認と配布資料を読んでおく。復習は講義板書並びに配布資料を参照して、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	松為信雄，菊池恵美子 編集：職業リハビリテーション学 キャリア発達と社会参加に向けた就労支援体系 改訂第2版 協同医書出版		
成 績 評 価 方 法	課題レポートと授業内発表の評点の平均点		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	生活活動マネジメント	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	平松真奈美		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	生活活動におけるマネジメントは、高齢者の地域生活における本人のしたい生活活動の行為に行動計画の焦点が当たるよう設計されている。この科目では、プロセスに沿って、生活活動の行為の障害に対する支援策について、事例を通して学修する。具体的には、各プロセスにおいて使用するシートを用いて、事例の状況についての情報を整理し、本人の望む生活活動の行為の向上に必要な練習・支援・調整について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 対象者の活動や参加に焦点を当てたアセスメント方法を使用し、情報の整理ができる。 2. 生活活動の行為の向上に必要なアプローチについて、理解することができる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	作業と生活行為、生活行為の捉え方	
	2	生活行為の障害とその要因	
	3	生活行為向上マネジメント (MTDLP) のプロセス	
	4	インテークの方法とシートの記入方法	
	5	アセスメントの方法とシートの記入方法	
	6	プラン立案の方法とシートの記入方法	
	7	申し送り表の記入方法と使い方	
	8	多職種との連携	
	9	生活行為向上マネジメント (MTDLP) 模擬事例演習	
	10	生活行為向上マネジメント (MTDLP) 模擬事例演習	
	11	生活行為向上マネジメント (MTDLP) 模擬事例演習	
	12	生活行為向上マネジメント (MTDLP) 模擬事例演習	
	13	生活行為向上マネジメント (MTDLP) 模擬事例演習	
	14	生活行為向上マネジメント (MTDLP) 模擬事例演習	
15	生活行為向上マネジメント (MTDLP) 模擬事例演習		
教 科 書	(一社) 日本作業療法士協会 『作業療法マニュアル66 生活行為向上マネジメント 改訂第3版』		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習：授業ごとに次回の予習内容を伝えるので準備をしておくこと。 復習：授業内容を振り返り、要点をノートにまとめておくこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	(一社) 日本作業療法士協会 『事例で学ぶ 生活行為向上マネジメント 第2版』		
成 績 評 価 方 法	レポート 100%		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	地域支援 I (余暇活動)	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8
履 修 年 次	3年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	大塚 貴英・篠田かおり		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	障害の有無や年代にかかわらず、自分の好む活動を楽しむことは、生き甲斐にもつながり、生活の質を考えた場合には重要な意味を持つ。この科目では、地域において行われている様々な余暇活動の特徴について学修するとともに、障害者・児や高齢者が地域で取り組めるようにするための方法についても学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 余暇の特徴について説明することができる。</li> <li>2. 余暇に関する評価を実践できる。</li> <li>3. 余暇に関する、地域における課題や支援方法について考察ができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	余暇とは	
	2	余暇の評価①	
	3	余暇の評価②	
	4	余暇の課題と支援方法 (屋外活動) ①	
	5	余暇の課題と支援方法 (屋外活動) ②	
	6	余暇の課題と支援方法 (屋外活動) ③	
	7	余暇の課題と支援方法 (屋内活動) ①	
	8	余暇の課題と支援方法 (屋内活動) ②	
教 科 書	配布資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	これまでに学修した基礎的な作業学や評価学など、関連科目と配布する資料の復習・予習を実施すること		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	山根寛 『ひとと作業・作業活動』新版 三輪書店 岩崎テル子, 小川恵子 他編集 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版 医学書院 長崎重信(監修) 作業療法評価学 改訂第2版 メジカルビュー社		
成 績 評 価 方 法	レポート100%		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	地域支援Ⅱ（認知症）	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	3年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	辻 美和、平松真奈美		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	認知症の方々とその家族が地域で安心して生活するためには、地域の人々が認知症に対する正しい知識を持つとともに、自分なりにできる簡単なことから援助を行うことが重要である。この科目では、認知症の方々とその家族の生活を支援するために必要な知識を学修し、相互扶助・協力・連携、ネットワークなど、地域でできる支援方法について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 認知症の方々とその家族の困りごとを理解することができる。 2. 認知症の地域支援における作業療法士の役割を理解することができる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	認知症のある人が生活で困っていること	
	2	認知症のある人の家族が生活で困っていること	
	3	認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）	
	4	認知症初期集中支援等の地域支援	
	5	若年性認知症の地域支援	
	6	認知症の地域支援における作業療法士の役割1	
	7	認知症の地域支援における作業療法士の役割2	
	8	認知症の地域支援における作業療法士の役割3	
教 科 書	配布資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は、シラバスの確認と配布資料を読んでおく。 復習は、講義板書ならびに配布資料を参照して、要点をノートにまとめる。		
履 修 の 条 件	「地域作業療法学」および「老年期障害作業療法実習Ⅰ」のテキストと授業資料の認知症に関する部分を復習するとともに、授業時には持参すること。		
参 考 文 献	厚生労働省 『認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）～認知症高齢者等に優しい地域づくりに向けて～』※ダウンロード可能 公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会 『認知症高齢者とそのご家族を地域で支えるために』※ダウンロード可能 社会福祉法人認知症介護研究・研修大府センター 『若年性認知症支援ガイドブック～相談を受ける人が知っておきたいこと～』※ダウンロード可能 （一社）日本作業療法士協会 『作業療法マニュアル62 認知症の人と家族に対する作業療法』 （一社）日本作業療法士協会 『作業療法マニュアル59 認知症初期集中支援 作業療法士の役割と視点』		
成 績 評 価 方 法	レポート 100%		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時（要予約）		

授 業 科 目 名	作業療法臨床実習 I	授 業 形 態	実習【臨】
単 位 数	2	回 数	2 週間
履 修 年 次	2 年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	足立 一、辻 美和、平松真奈美、大塚 貴英、篠田かおり、石元美知子、有光 一樹、笹村 聡、西野 愛		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	臨床の場における作業療法の実際について学修するため、作業療法の提供の場である病院および施設において行う。医療専門職として基本となる病院や施設の仕組みと、各部門間の役割と作業療法士の業務について学ぶ。具体的には、病院や施設等における作業療法の実際と対象者の概要について学ぶとともに、併せて医療専門職としての基本的態度を身につけられるよう、指導者や関係スタッフ、対象者とのコミュニケーションを体験する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院や施設の役割及び機能について知ることができる。</li> <li>2. 作業療法士の実際の業務を知ることができる。</li> <li>3. 作業療法の対象者の概要について知ることができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	<b>内 容</b>		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内における事前準備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションにて、臨床実習の目的や心得、リスク管理などについて説明する。</li> <li>・臨床実習の目的に合わせて、事前学習を行う。</li> </ul> </li> <li>2. 臨床実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・期間は1週間を2回とし、2施設で実習を行う。</li> <li>・臨床実習指導者の指示に従い、指導者の助言を受けながら学修する。</li> <li>・指導者や関係スタッフ、対象者とのコミュニケーションを行う。</li> <li>・実習ノートの記載。</li> </ul> </li> <li>3. 学内における事後学修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生をグループに分けて、経験した実習内容について報告会を行う。</li> <li>・各グループに専任教員を配置して、適宜助言・指導を行う。</li> </ul> </li> </ol> <p>※通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習をこの科目で行う学生については、下記の通りとする。</p> <p>2施設のうち1施設において、通所又は訪問に関する見学実習を1週間行う。</p> <p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通所又は訪問リハビリテーションの役割や機能について知ることができる。</li> <li>・通所又は訪問リハビリテーションにおける作業療法士の実際の業務を知ることができる。</li> <li>・通所又は訪問リハビリテーションにおける作業療法の対象者の概要について知ることができる。</li> </ul>		
教 科 書	配布資料		
事前事後の予習復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に作業療法臨床実習 I の手引きをよく読み、作業療法の概要や対象者の概要について調べておく。また、「臨床作業療法技法 I (PBL)」の復習をしておくこと。</li> <li>・事後には臨床実習の学修内容について振り返り、自己の課題について取り組む。</li> </ul>		
履 修 の 条 件	「臨床作業療法技法 I (PBL)」を受講していること。		
参 考 文 献	特になし		
成 績 評 価 方 法	<p>全日程の5分の4以上の出席とする。</p> <p>①臨床実習指導者による成績評価、②臨床実習中の記録・提出物、③臨床実習終了後の報告会での報告内容、④学内における専任教員の指導による改善状況、以上の4項目より臨床実習委員会にて総合的に判断する。</p>		
オ フィ ス ア ワ ー	オリエンテーション時に説明する。		

授 業 科 目 名	作業療法臨床実習Ⅱ	授 業 形 態	実習【臨】
単 位 数	6	回 数	6 週間
履 修 年 次	3 年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	足立 一、辻 美和、平松真奈美、大塚 貴英、篠田かおり、石元美知子、有光 一樹、笹村 聡、西野 愛		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	作業療法士としての基本的態度を身につけるとともに、作業療法の評価を実際に学修するため、作業療法の提供の場である病院および施設において行う。具体的には、臨床場面において対象者の評価として、情報収集、検査・測定、観察、結果の統合と解釈、解決すべき課題の列挙を体験する。また、実施した内容を適切に記録・報告することを体験する。学内での事後学修として、作業療法プログラムの立案について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法及び作業療法士の組織における役割を理解することができる。</li> <li>2. 対象者への適切な対応ならびにリスク管理を行うことができる。</li> <li>3. 作業療法評価計画の立案、評価の準備と実施ができる。</li> <li>4. 作業療法評価結果の解釈と作業療法の目標設定ができる。</li> <li>5. 作業療法評価内容の報告と記録ができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	<p style="text-align: center;"><b>内 容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内における事前準備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションにて、臨床実習の目的や心得、リスク管理などについて説明する。</li> <li>・臨床実習の目的に合わせて、事前学習を行う。</li> </ul> </li> <li>2. 臨床実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・期間は3週間を2回とし、2施設で実習を行う。</li> <li>・臨床実習指導者の指示に従い、指導者の助言を受けながら、対象者の作業療法評価を行う。</li> <li>・実施した内容についての記録および報告を行う。</li> <li>・実習ノートに記載する。</li> </ul> </li> <li>3. 学内における事後学修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告会用の症例サマリーを作成する。</li> <li>・学生をグループに分けて経験した症例について報告会を行う。</li> <li>・学生主体でディスカッションを実施し、専任教員を配置して適宜、修正・助言・指導を行う。</li> <li>・知識・技術などの不足や誤った認識等があった場合には、その改善ができるように課題を提示する等、専任教員が指導を行う。</li> </ul> </li> </ol> <p>※通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習をこの科目で行う学生については、下記の通りとする。</p> <p>2施設のうち1施設において、通所又は訪問に関する見学実習を、1週間行う。</p> <p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通所又は訪問リハビリテーションの役割や機能について知ることができる。</li> <li>・通所又は訪問リハビリテーションにおける作業療法士の実際の業務を知ることができる。</li> <li>・通所又は訪問リハビリテーションにおける作業療法の対象者の概要について知ることができる。</li> </ul>		
教 科 書	配布資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に作業療法臨床実習Ⅱの手引きをよく読み、授業にて学修した作業療法評価についての知識と技術を習得しておく。また、「臨床作業療法技法Ⅱ（PBL）」の復習をしておくこと。</li> <li>・事後には臨床実習の学修内容について振り返り、自己の課題について取り組む。</li> </ul>		
履 修 の 条 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「臨床作業療法技法Ⅱ（PBL）」を受講していること。</li> <li>・2年次末までに修得しなければならない全ての科目を修得済みであること。</li> </ul>		
参 考 文 献	特になし		
成 績 評 価 方 法	<p>全日程の5分の4以上の出席とする。</p> <p>①臨床実習指導者による成績評価、②臨床実習中の記録・提出物及び症例サマリー、③臨床実習終了後の報告会での報告内容、④学内における専任教員の指導による改善状況、⑤臨床実習終了後の臨床実習Ⅱ判定試験（筆記ならびに実技・口頭試験）、以上の5項目より臨床実習委員会にて総合的に判断する。</p>		
オ フ ィ ス ア ワ ー	オリエンテーション時に説明する。		

授 業 科 目 名	作業療法臨床実習Ⅲ	授 業 形 態	実習【臨】
単 位 数	16	回 数	16 週間
履 修 年 次	4 年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	足立 一、辻 美和、平松真奈美、大塚 貴英、篠田かおり、石元美知子、有光 一樹、笹村 聡、西野 愛		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	作業療法士としての基本的態度を身につけるとともに、作業療法の評価から治療・援助に至る一連の流れについて学修するため、作業療法の提供の場である病院および施設において行う。具体的には、臨床場面において対象者の評価として、情報収集、検査・測定、観察、結果の統合と解釈、解決すべき課題の列挙、作業療法プログラムの立案、作業療法プログラムの実施までを体験する。また、実施した内容を適切に記録・報告すること、他職種とのリハビリテーションのチームアプローチを体験する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法及び作業療法士の組織における役割を理解することができる。</li> <li>2. 対象者への適切な対応ならびにリスク管理を行うことができる。</li> <li>3. 作業療法評価計画の立案、評価の準備と実施ができる。</li> <li>4. 作業療法評価結果の解釈と作業療法の目標設定ができる。</li> <li>5. 作業療法治療計画の立案と実施ができる。</li> <li>6. 評価内容ならびに治療内容の報告と記録ができる。</li> <li>7. 作業療法士としての管理・運営業務を理解できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	<b>内 容</b>		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内における事前準備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションにて、臨床実習の目的や心得、リスク管理などについて説明する。</li> <li>・臨床実習の目的に合わせて、事前学習を行う。</li> </ul> </li> <li>2. 臨床実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・期間は8週間を2回とし、2施設で実習を行う。</li> <li>・臨床実習指導者の指示に従い、指導者の助言を受けながら、対象者の作業療法評価、作業療法治療の計画立案と実施を行う。</li> <li>・実施した内容についての記録および報告を行う。</li> <li>・実習ノートに記載する。</li> <li>・管理・運営業務について学修する。</li> </ul> </li> <li>3. 学内における事後学修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告会用の症例サマリーを作成する。</li> <li>・学生をグループに分けて経験した症例について報告会を行う。</li> <li>・学生主体でディスカッションを実施し、専任教員を配置して適宜、修正・助言・指導を行う。</li> <li>・知識・技術などの不足や誤った認識等があった場合には、その改善ができるように課題を提示する等、専任教員が指導を行う。</li> </ul> </li> </ol>		
教 科 書	配布資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に作業療法臨床実習Ⅲの手引きをよく読み、授業にて学修した作業療法評価ならびに治療・援助についての知識と技術を習得しておく。また、作業療法臨床実習Ⅱの学修内容の復習をしておくこと。</li> <li>・事後には臨床実習の学修内容について振り返り、自己の課題について取り組む。</li> </ul>		
履 修 の 条 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次末までに修得しなければならない全ての科目を修得済みであること。</li> <li>・履修前（4月）に実施する「客観的臨床能力試験（OSCE）」に合格していること。</li> </ul>		
参 考 文 献	特になし		
成 績 評 価 方 法	<p>全日程の5分の4以上の出席とする。</p> <p>①臨床実習指導者による成績評価、②臨床実習中の記録・提出物及び症例サマリー、③臨床実習終了後の報告会での報告内容、④学内における専任教員の指導による改善状況、⑤臨床実習終了後の臨床実習Ⅲ判定試験（筆記ならびに実技・口頭試験）、以上の5項目より臨床実習委員会にて総合的に判断する。</p>		
オ フ ィ ス ア ウ ー	オリエンテーション時に説明する。		

授 業 科 目 名	土佐地域資源論	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	1年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	宇都宮 千穂 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	高知という地域に目を向けて、地域が持つ豊かな文化や産業等の地域資源を知り、地域が抱える諸問題の探求を行うための基盤となる知識について学修する。具体的には、高知の様々な文化や産業、近年盛んである観光と地域振興等の実際について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 高知県の自然や文化に興味を持つことができる。</li> <li>2 地域づくり活動を知り、その背景にある地域課題を理解することができる。</li> <li>3 地域課題の解決方法を考えることができる。</li> <li>4 自らの住む地域に興味を持つことができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	オリエンテーション/地域の資源をどうとらえるか	
	2	高知の地域資源を考える (1)	
	3	高知の地域資源を考える (2)	
	4	高知の地域資源を考える (3)	
	5	高知の地域資源を考える (4)	
	6	フィールドワーク (日曜市・その他)	
	7	フィールドワーク (日曜市・その他)	
	8	フィールドワーク (日曜市・その他)	
	9	フィールドワーク (日曜市・その他)	
	10	フィールドワーク (日曜市・その他)	
	11	高知の地域資源の生かし方を考える (1)	
	12	高知の地域資源の生かし方を考える (2)	
	13	高知の地域資源の生かし方を考える (3)	
	14	高知の地域資源の生かし方を考える (4)	
15	まとめ		
教 科 書	なし		
事前事後の予習復習	① 指定した資料を用いて予習する。②新聞・テレビ・ネットなどの記事を読む。		
履 修 の 条 件	なし		
参 考 文 献	高知県立大学編集 (2019) 『大学的高知ガイド』昭和堂		
成 績 評 価 方 法	提出課題、フィールドワーク参加、発表会参加 詳細は講義でお知らせします。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	社会的企業論	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	中野 良治 (兼任)、田上 純一 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	一般就労でも福祉就労でもない第三の雇用の場である社会的企業について学修する。具体的には、障害者を含めた多様な人々が働くことができる協働型システムである社会的企業の社会的な目的、社会的背景を知り、社会的企業の役割、位置付け、特色及び日本における実態について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会的企業についての概観を理解することができる。</li> <li>2. 社会的企業における実習を通じ、組織運営や経営方法について理解することができる。</li> <li>3. グループワークを通じ、社会的企業の可能性について考察し、新たな起業モデルを発案することができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	社会的企業の概要① (中野)	
	2	社会的企業の概要② (中野)	
	3	社会的企業の概要③ (田上)	
	4	社会的企業の概要④ (田上)	
	5	社会的企業の事例① (中野)	
	6	社会的企業の事例② (中野)	
	7	社会的企業における実習① (田上)	
	8	社会的企業における実習② (田上)	
	9	社会的企業における実習③ (田上)	
	10	社会的企業における実習④ (中野)	
	11	社会的企業における実習⑤振り返り (中野)	
	12	グループワーク① (田上)	
	13	グループワーク② (田上)	
	14	グループワーク③ (中野)	
15	グループワーク④ (中野)		
教 科 書	配布資料		
事前事後の予習復習	予習は配布資料を読んでおく。復讐は、配布資料を参照して、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	C. ボルザガ/J. ドゥフルニ『社会的企業』日本経済評論社		
成 績 評 価 方 法	レポート (100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	ロボット技術活用論	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	坊岡 正之 (兼任)・江里口 優 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	急速な高齢化が進むなか、高齢者や障害者の日常生活を工学面から支援する「福祉工学」が注目を集めている。これは、失われたり衰えたりした感覚や手足、脳の機能を、機械で補助・代行する工学分野である。人間の機能を助ける工学技術の基礎的な知識を学修するとともに、ロボット等の様々な機器を生活場面における介護や自立支援に活用する方法について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉工学技術の基礎を理解することができる。</li> <li>2. 多くの支援機器(ロボット等)の特徴を理解することができる。</li> <li>3. 作業療法士として支援機器(ロボット等)を活用することができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	担 当
	1	福祉用具と介護ロボット	坊岡
	2	ロボット	江里口
	3	入力 (センサー) と人間の感覚	江里口
	4	出力 (制御)	江里口
	5	移乗支援 (1)	坊岡
	6	移乗支援 (2)	坊岡
	7	環境制御装置 (ECS)	坊岡
	8	移動支援 (1)	江里口
	9	移動支援 (2)	江里口
	10	排泄支援 (1)	坊岡
	11	排泄支援 (2)	坊岡
	12	見守り支援	坊岡
	13	コミュニケーション支援	坊岡
	14	入浴支援	坊岡
15	業務支援	坊岡	
教 科 書	特になし		
事前事後の予習復習	予習は、シラバスを確認し準備を行う。復習は講義時に配布した資料を参照し、要点をまとめておく。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	特になし		
成 績 評 価 方 法	毎回の講義後に配布するコミュニケーションカードの内容(40%)と講義終了後のレポート(60%)で評価する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義開始前		

授 業 科 目 名	地域生活とサービス	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	中本 雅彦 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	社会福祉サービスを必要とする個人・家族の自立を、地域社会の場において可能とするための、生活基盤形成に必要なサービスの開発や組織化活動について学修する。具体的には、在宅福祉サービス、環境改善サービス（物的・制度的施策を含む生活・居住条件の改善整備）などについて学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉サービスを必要とする個人・家族・地域の特性を理解し、自立生活に向けての多様なニーズを把握することができる。</li> <li>2. 自立生活に活用できる既存の社会資源（社会福祉・医療サービス等）を理解し、新たに必要とする社会資源の創造の取り組みを知る。</li> <li>3. 個人・家族・地域のニーズに基づく作業療法士（チーム活動含む）としての支援計画を立案することができる。（支援に必要な新たなサービス開発を含む）</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	地域福祉の実際 地域共生社会の実現と自立に向けて1 （地域福祉・地域医療・地域リハビリテーション・多機関多職種協働）	
	2	地域福祉の実際 地域共生社会の実現と自立に向けて2 （地域福祉・地域医療・地域リハビリテーション・多機関多職種協働）	
	3	地域福祉の実際 地域共生社会の実現と自立に向けて3 （地域福祉・地域医療・地域リハビリテーション・多機関多職種協働）	
	4	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題1	
	5	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題2	
	6	地域共生社会の実現に向けた包括支援体制1	
	7	地域共生社会の実現に向けた包括支援体制2	
	8	地域福祉ガバナンスと他機関協働1	
	9	地域福祉ガバナンスと他機関協働2	
	10	地域福祉の基本的な考え方1	
	11	地域福祉の基本的な考え方2	
	12	コミュニティソーシャルワーク1	
	13	コミュニティソーシャルワーク2	
	14	災害支援体制と福祉計画	
15	福祉行政システム		
教 科 書	「地域福祉と包括的支援体制」（最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座6 中央法規）・随時配布資料あり		
事前事後の予習復習	予習は事前のテキスト読み込み。 復習はテキスト、配布資料等を参考に要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	随時提示		
成 績 評 価 方 法	期末試験（100%）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後メモ又はメールにて受付 次回授業にて報告		

授 業 科 目 名	精神障害者の援助とネットワーク	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	2年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	鈴木 孝典 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	現在の精神障害者に対する支援の基本的考え方と、精神科リハビリテーションの概念、支援モデルを理解した上で、相談援助の過程と、対象者との援助関係について学修する。具体的には、精神障害者の生活実態やニーズを踏まえ、精神障害者の地域生活支援に必要な、相談支援、居住支援、就労支援、権利擁護のシステム形成について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害者が地域社会で生きていくために必要な日常生活支援システムを理解することができる。</li> <li>2. 精神障害者の生活実態と支援システムを理解することができる。</li> <li>3. 精神障害者の人権と権利擁護システムを理解することができる。</li> <li>4. 居住支援及び就労支援と雇用の実態を理解することができる。</li> <li>5. 行政における相談援助システムと精神保健福祉士の役割を理解することができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	障害概念と精神保健福祉との関連①：ICFからの検討	
	2	障害概念と精神保健福祉との関連②：関連法令からの検討	
	3	精神障害者とその家族の現状及び生活実態①：統計データからの検討	
	4	精神障害者とその家族の現状及び生活実態②：事例からの検討	
	5	精神障害者の生活と人権①：「障害者の権利に関する条約」からの検討	
	6	精神障害者の生活と人権②：自己決定支援に係る事例からの考察	
	7	精神障害者の生活支援システム：IPWの視座からの考察	
	8	精神障害者の居住支援に係るニーズと支援課題	
	9	精神障害者の居住支援に係る支援システム	
	10	精神障害者の就労支援に係るニーズと支援課題	
	11	精神障害者の就労支援に係る支援システム	
	12	地域における相談支援システムの現状と課題	
	13	地域における相談支援の展開①：地域相談支援の実践的理解	
	14	地域における相談支援の展開②：計画相談支援の実践的理解	
15	精神障害者の生活支援システムの展望		
教 科 書	新・精神保健福祉士養成講座7 精神障害者の生活支援システム (第3版)：中央法規出版 (2018年)		
事前事後の予習復習	・授業での学びに関するリアクションペーパー・教科書による予習		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	授業ごとに提示する。		
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み姿勢とリアクションペーパーの記載内容：30%</li> <li>・期末試験 (ペーパーテスト)：70%</li> </ul>		
オ フ ィ ス ア ワ ー	リアクションペーパーの「要望等」の欄に記載すること。次回の授業時に対応する。		

授 業 科 目 名	障害者の社会環境と制度	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	遠山 真世 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	障害者を取り巻く社会情勢は厳しく、人権と尊厳を守るための福祉的支援は、様々な生活課題を解決するために重要である。この科目では、障害者の生活実態と福祉ニーズ、障害者福祉に関する法律や制度、支援に関わる機関や専門職の役割、支援におけるネットワーク等、障害者の在宅生活支援の実際について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「障害」のとらえ方や障害者福祉の考え方について理解することができる。</li> <li>2. 障害者福祉にかかわる法律や制度について理解することができる</li> <li>3. 障害者の生活支援にかかわる専門職の役割や連携を理解することができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	「障害」の定義・とらえ方	
	2	障害者の生活実態・社会環境	
	3	障害者福祉の理念	
	4	障害者福祉の歴史的展開	
	5	障害者基本法と障害種別に対応した法律①	
	6	障害者基本法と障害種別に対応した法律①	
	7	障害者総合支援法にもとづく障害福祉サービス①	
	8	障害者総合支援法にもとづく障害福祉サービス②	
	9	障害者福祉の関連分野①	
	10	障害者福祉の関連分野②	
	11	障害者福祉の専門職と連携①	
	12	障害者福祉の専門職と連携②	
	13	障害分野におけるソーシャルワーク	
	14	事例から考える障害者支援①	
15	事例から考える障害者支援②		
教 科 書	山下幸子・竹端寛ほか著『新・基礎からの社会福祉4 障害者福祉 第3版』ミネルヴァ書房、2020年		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は、シラバスの確認とテキストを読んでおく。 復習は、講義の配布資料や説明をもとに要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	適宜、授業時に紹介する。		
成 績 評 価 方 法	出席 20%、小テスト 20%、レポート 20%、期末試験 40%		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業前後、もしくはメールにて受け付ける。		

授 業 科 目 名	地域防災論	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	大村 誠 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	近年の度重なる地震や台風・豪雨等の災害は甚大な被害をもたらしており、高知では南海トラフ地震や大型台風の襲来に備える必要がある。人の命と生活を守るためには、これらの災害と防災の基礎を知ることが重要である。この科目では、地震や台風・豪雨等に伴う災害の特徴とその実際、災害への備え、災害時の人間の心理や災害時要援護者対応等について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 自然災害の発生機構を理解できる。 2. 災害に直面した人間の反応を理解できる。 3. とくに高知の近未来の災害に向き合う専門職と生活者の備えを実践できる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	はじめに、高知での災害（遠くの火山も）、課題（災害時要援護者対応ほか）	
	2	耐震化・家具固定・津波避難、1階と2階、避難所生活、経済的支援	
	3	近未来の日本の地震、気象災害の激化（台風、豪雨、豪雪、竜巻・雷）	
	4	危機に直面した人間心理「心の畏」	
	5	地震と断層、地形の特徴、地震の揺れの長さ（継続時間）と津波	
	6	緊急地震速報、緊急地震速報の高知県での活用	
	7	南海トラフ地震と緊急地震速報、南海トラフ地震臨時情報	
	8	地震に強い家（耐震基準と耐震等級）、マンションなど高層建築	
	9	地震火災、津波火災、都市での火災、その対策	
	10	長周期地震動、建物と地盤、地盤液状化、地盤災害、	
	11	津波と津波避難（1）	
	12	津波避難（2：東日本大震災、つぎの南海トラフ地震）	
	13	土砂災害、集中豪雨、線状降水帯	
	14	台風、高潮、大雨・洪水警戒レベル、水・土砂からの避難	
15	住民・専門職としての備え、まとめ (受講生の理解・関心により各回内容を若干変更する)		
教 科 書	資料を配布する。		
事前事後の予習復習	ほぼ毎回、小課題を課す。それが、予習・復習となる。		
履 修 の 条 件	災害の経験者など、災害映像の使用に配慮を要する受講生は、必ず相談すること。		
参 考 文 献	必要に応じて紹介する。		
成 績 評 価 方 法	小課題 (30%)、期末レポート (70%)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	講義終了の後 または メール omura@cc.u-kochi.ac.jp		

授 業 科 目 名	更生保護制度論	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	加藤 誠之(兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	犯罪をした者の社会復帰における自立更生を支援し、再犯を予防するための更生保護制度について学修する。具体的には、更生保護の意義や更生保護制度の概要、更生保護施設の役割、犯罪の実態と更生保護の実際、円滑な自立と社会復帰のための指導や援助、更生保護における関連機関との連携等について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	犯罪者の刑事責任に応じた応報刑を執行する成人矯正と、犯罪者に援助を提供して改善更生を促す更生保護との関係を理解する。また、応報刑を執行する場としての刑務所で、理学療法士・作業療法士の果たし得る役割を理解する。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	*教科書第1章「更生保護の概要」第1節「刑事司法のなかの更生保護」	
	2	*教科書第1章第2節「仮釈放等」及び第3節「保護観察」	
	3	*教科書第1章第4節「生活環境の調整」及び第5節「更生緊急保護」	
	4	*教科書第1章第6節「更生保護における犯罪被害者等施策」及び第7節「恩赦」	
	5	*教科書第1章第8節「犯罪予防活動」 *教科書第2章「更生保護制度の担い手」第1節「保護観察官」	
	6	*教科書第2章第2節「保護司」及び第3節「更生保護施設」	
	7	*教科書第2章第4節「民間協力者」 *教科書第3章「更生保護制度における関係機関・団体との連携」第1節「裁判所とのかかわり」	
	8	*教科書第3章第2節「検察庁とのかかわり」及び第3節「矯正施設とのかかわり」	
	9	*教科書第3章第4節「児童相談所とのかかわり」及び第5節「公共職業安定所・自治体等とのかかわり」	
	10	*教科書第3章第6節「民間団体とのかかわり」 *教科書第4章「医療観察制度の概要」第1節「医療観察法に基づく処遇制度の創設」	
	11	*教科書第4章第2節「生活環境の調査」及び第3節「生活環境の調整」	
	12	*教科書第4章第4節「地域社会における処遇」及び第5節「関係機関等との連携」	
	13	*教科書第5章「更生保護制度の実際と今後の展望」第1節「保護観察官の業務の実際」及び第2節「社会復帰調整官の業務の実際」	
	14	*教科書第5章第3節「更生保護の今後の展望」	
15	*ゲストスピーチ(予定)		
教 科 書	中央法規『更生保護制度』第4版(新・社会福祉士養成講座)及び配布資料。		
事前事後の予習復習	特にありません。		
履 修 の 条 件	特にありません。		
参 考 文 献	講義中に必要に応じて指示します。		
成 績 評 価 方 法	最終レポート(100%)課題図書は後日指示します。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	非常勤につき特に設定しません。		

授 業 科 目 名	特別支援教育論	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	石山 貴章 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	障害のある幼児・児童・生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、幼児・児童・生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う特別支援教育について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生が障害のある幼児・児童・生徒の教育的ニーズを理解する。</li> <li>2. 学生が障害のある幼児・児童・生徒に対する指導及び支援について理解する。</li> <li>3. 学生が障害のある幼児・児童・生徒の関係者と連携する方法について思考する。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	オリエンテーション・特別支援教育の歴史	
	2	特別支援教育の基本 (障害者権利条約・合理的配慮・ユニバーサルデザイン)	
	3	視覚障害の理解と支援	
	4	聴覚障害の理解と支援	
	5	知的障害の理解と支援	
	6	肢体不自由の理解と支援	
	7	病弱・身体虚弱の理解と支援	
	8	特別支援学級・通級による指導の実際	
	9	ASD (自閉症スペクトラム症) の理解と支援	
	10	ADHD (注意欠陥多動症) の理解と支援	
	11	SLD (限局性学習症)・DCD (発達性協調運動症) の理解と支援	
	12	心理発達アセスメント (WISC-IV/田中ビネー)	
	13	特別支援教育コーディネーターの役割・連携支援体制の構築	
	14	障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の理解と支援	
	15	キャリア教育・就労支援の実際・まとめ	
教 科 書	「新しい特別支援教育のかたち—インクルーシブ教育の実現に向けて—」 吉利宗久ら 培風館 ISBN : 978-4-563-05249-2		
事前事後の予習復習	予習はシラバスの確認と教科書の該当箇所を読んでおくこと。復習は、講義の内容並びに配布資料を参照して、要点を理解すること。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	「特別支援学校学習指導要領解説編 総則 (幼稚部・小学部・中学部) (文部科学省平成30年3月)		
成 績 評 価 方 法	講義への参画状況評価 (30%)、毎回の小レポート評価 (30%)、最終試験評価 (40%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	連絡先 高知県立大学永国寺キャンパス (研究室 A528) 電話 : 088-821-7186 (石山研究室直通) E-mail : ishiyama_takaaki@cc.u-kochi.ac.jp		

授 業 科 目 名	対人援助技術論	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	西内 章 (兼任)・西梅 幸治 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	より良い援助者として成長するためには、指導する者と指導を受ける者との関係間におけるスーパービジョンによる教育方法が重要となる。また、保健・医療・福祉領域においてより質の高い援助を提供するためには、様々な他職種、専門職種間で、それぞれの持つ視点や知識、情報、また、専門技術などを相談・協議、あるいは指導を受けるといったコンサルテーションが重要となる。この科目では、対人援助職として資質の向上を目指し、必要な知識や技術について理解するとともに、そのプロセスについて学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対人援助にかかわる基礎知識について説明することができる。</li> <li>2. 対人援助技術にかかわる特性や機能について説明することができる。</li> <li>3. 事例をもとに対人援助技術の実際について体験し、考察することができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	担 当
	1	対人援助とコミュニケーション	西梅
	2	チームアプローチ	西内
	3	多職種連携とカンファレンス	西内
	4	スーパービジョンの定義と特性	西梅
	5	コンサルテーションの定義と特性	西内
	6	スーパービジョンの基本的機能①	西梅
	7	スーパービジョンの基本的機能②	西梅
	8	コンサルテーションの基本的機能①	西内
	9	コンサルテーションの基本的機能②	西内
	10	事例をとおしたスーパービジョンの実際①	西梅
	11	事例をとおしたスーパービジョンの実際②	西梅
	12	事例をとおしたコンサルテーションの実際①	西内
	13	事例をとおしたコンサルテーションの実際②	西内
	14	スーパービジョンの今日的動向	西梅
15	コンサルテーションの今日的動向	西内	
教 科 書	必要があれば授業時に紹介する。		
事前事後の予習復習	予習は、シラバスの確認と配付資料を読んでおく。復習は、配付資料を参照して、要点を整理する。		
履 修 の 条 件	特になし。		
参 考 文 献	福山和女ほか編著 (2018)『保健・医療・福祉専門職のためのスーパービジョン—支援の質を高める手法の理論と実際—』ミネルヴァ書房。		
成 績 評 価 方 法	講義後のフィードバック (50%)、授業後課題とディスカッションへの取り組み (50%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義時のフィードバック用紙に記入する。口答なら授業前後に対応する。		

授 業 科 目 名	作業療法地域支援実習	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	4年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	足立 一、辻 美和、平松真奈美、大塚 貴英、篠田かおり、石元美知子、有光 一樹、笹村 聡、西野 愛		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	地域コミュニティは、人間性を回復して、自律型の地域社会をつくる基盤であり、地域包括ケアシステムにおいて、この地域コミュニティは重要な位置づけとなっている。高齢者や障害者・障害児が住み慣れた地域で望む生活ができるように援助するためには、地域社会の状況を知ることが基本である。様々な地域に出向いて住民との交流を行うとともに、支援サービスの実際について見学し、地域連携に繋がる基本的知識を学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 地域住民と交流することができる。 2. 地域における支援サービスの実際を知ることができる。 3. 地域連携について理解することができる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス、地域支援事業などの概要	
	2	地域における支援サービスに関する調査① 準備	
	3	地域における支援サービスに関する調査② 準備	
	4	支援サービス体験①	
	5	支援サービス体験②	
	6	支援サービス体験③	
	7	支援サービス体験④	
	8	支援サービス体験⑤	
	9	支援サービス体験⑥	
	10	支援サービス体験⑦	
	11	支援サービス体験⑧	
	12	調査・体験のまとめ①	
	13	調査・体験のまとめ②	
	14	発表①	
15	発表②		
教 科 書	配付資料		
事前事後の予習復習	予習は、シラバスの確認と配付資料を読んでおく。復習は、配付資料と実習内容を振り返り、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	3年前期までの支援サービスに関する授業科目のテキスト・配付資料など		
成 績 評 価 方 法	授業態度(各授業後の実施記録)、調査計画、プレゼンテーションにより総合的に判断する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業1回目のガイダンスで説明する。		

授 業 科 目 名	応用作業療法学演習	授 業 形 態	演習
単 位 数	2	回 数	30回
履 修 年 次	4年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	辻 美和、平松真奈美、大塚 貴英、篠田かおり、石元美知子、有光 一樹、 笹村 聡、西野 愛		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	作業療法の対象となる身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害・地域などの領域について、疾患・障害の状態の理解から、評価・計画立案、実施の際の留意点に至るまで、一連の流れについて、基本的事項から事例検討までを学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 作業療法の対象となる疾患と障害の状態が理解できる。 2. 作業療法の対象となる疾患と障害に対する評価・計画立案が理解できる。 3. 作業療法の対象となる疾患と障害に対する治療・援助が理解できる。 4. 作業療法を実施する際の留意点が理解できる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	身体障害① 脳血管障害	
	2	身体障害② 脳血管障害	
	3	身体障害③ 脳血管障害	
	4	身体障害④ 神経変性・筋障害	
	5	身体障害⑤ 神経変性・筋障害	
	6	身体障害⑥ 内部障害	
	7	身体障害⑦ 内部障害	
	8	身体障害⑧ 脊髄障害	
	9	身体障害⑨ 脊髄障害	
	10	身体障害⑩ 運動器障害	
	11	身体障害⑪ 運動器障害	
	12	精神障害① 統合失調症およびその関連障害	
	13	精神障害② 統合失調症およびその関連障害	
	14	精神障害③ 気分（感情）障害	
	15	精神障害④ 気分（感情）障害	
	16	精神障害⑤ 神経症性障害	
	17	精神障害⑥ 神経症性障害	
	18	精神障害⑦ 生理的障害および身体的要因に関連した障害	
	19	精神障害⑧ 精神作用物質による精神および行動の障害	
	20	精神障害⑨ てんかん、他	
	21	発達障害① 身体機能の障害	
	22	発達障害② 身体機能の障害	
	23	発達障害③ 身体機能の障害	
	24	発達障害④ 精神機能の障害	
	25	発達障害⑤ 精神機能の障害	
	26	老年期障害① 廃用症候群	
	27	老年期障害② 認知症	
	28	老年期障害③ 認知症	
	29	地域① 障害者	
	30	地域② 高齢者	
教 科 書	臨床医学科目・作業療法専門科目のテキスト、配布資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習はシラバスを確認して、該当する内容について読んでおくこと。復習は、授業内容の要点をまとめておくこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	国家試験対策用の関連書籍		
成 績 評 価 方 法	定期試験(100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業1回目のガイダンスで説明する。		

授 業 科 目 名	作業療法総合演習 I	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15 回
履 修 年 次	4 年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	篠田かおり		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	将来作業療法士になる者として、コンピュータを用いた福祉機器の活用は、障害者の地域生活におけるコミュニケーションや社会参加に必要不可欠な支援技術である。学修の総まとめとして、コンピュータを用いた福祉機器を活用した障害者の生活支援のあり方とその援助技法について、障害者自身の状態と介護者の状況や生活環境などを考慮した機器の選定や操作方法、スイッチの適合、機器の固定など環境調整について、事例を通して学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータを用いた福祉機器の活用について理解することができる。</li> <li>2. 対象者の地域生活に必要なとなる適合する機器を選定することができる。</li> <li>3. 対象者の地域生活における環境調整の必要性について理解することができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス、コンピュータを用いた福祉機器の例	
	2	入力装置	
	3	入力装置 グループ討議①	
	4	入力装置 グループ討議②	
	5	意志伝達装置	
	6	意志伝達装置 グループ討議①	
	7	意志伝達装置 グループ討議②	
	8	事例検討 調査①	
	9	事例検討 調査②	
	10	事例検討 グループ討議①	
	11	事例検討 グループ討議②	
	12	事例検討 グループ討議③	
	13	事例検討 グループ討議④	
	14	事例検討 レジюме作成	
15	事例検討 発表		
教 科 書	配布資料		
事前事後の予習復習	臨床神経学、整形外科学、小児科学、機能代償支援作業療法技法の教科書・配布資料を熟読し、内容を理解しておくこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	臨床神経学、整形外科学、小児科学、機能代償支援作業療法技法の教科書・配布資料		
成 績 評 価 方 法	レポート (100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業1回目のガイダンスで説明する。		

授 業 科 目 名	作業療法総合演習Ⅱ	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	4年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	足立 一、石元美知子		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	将来作業療法士になる者として、障害者の地域生活支援は必要不可欠な支援技術である。学修の総まとめとして、障害者総合支援法のサービスにおける作業療法の立場から見た支援の実際について学修する。通所や入所サービスなどの施設見学や利用者との関わりなどを通して、作業療法士として必要であるアセスメント能力と、障害者の日中の活動の場における課題解決の視点と技法を、事例を通して学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 地域における日中の活動支援に対するアセスメントについて理解することができる。 2. 地域における日中の活動支援に対する課題解決の視点と技法を理解することができる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス、障害者総合支援法におけるサービス	
	2	通所施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査① 準備	
	3	通所施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査② 準備	
	4	通所施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査③ 実施	
	5	通所施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査④ 実施	
	6	通所施設サービス利用者の日中の活動の場における課題の整理①	
	7	通所施設サービス利用者の日中の活動の場における課題の整理②	
	8	入所施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査① 準備	
	9	入所施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査② 準備	
	10	入所施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査③ 実施	
	11	入所施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査④ 実施	
	12	入所施設サービス利用者の日中の活動の場における課題の整理①	
	13	入所施設サービス利用者の日中の活動の場における課題の整理②	
	14	事例に対する具体的な支援方法の検討①	
15	事例に対する具体的な支援方法の検討②		
教 科 書	配付資料、地域作業療法学Ⅰ・Ⅱと就労支援作業療法技法のテキスト		
事前事後の予習復習	予習は、シラバスの確認と配付資料、テキストの関連内容部分を読んでおく。復習は、配付資料と授業内容を振り返り、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	地域リハビリテーションおよび障害者福祉の関連著書		
成 績 評 価 方 法	レポート (100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業1回目のガイダンスで説明する。		

授 業 科 目 名	作業療法総合演習Ⅲ	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	4年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	辻 美和、平松真奈美、有光 一樹		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	将来作業療法士になる者として、高齢者の地域生活支援は必要不可欠な支援技術である。学修の総まとめとして、地域包括ケアシステムにおける作業療法の立場からみた支援の実際について学修する。通所施設・介護予防事業施設などの見学や利用者との関わりなどを通して、高齢者の生活不活発発病の背景や、チームアプローチによる解決手法を知り、作業療法士として必要であるアセスメント能力と、生活の場における課題解決の視点と技法を、事例を通して学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 地域包括ケアシステムにおける作業療法士としてのアセスメント能力について理解することができる。 2. 地域生活の場における課題解決の視点と技法について理解することができる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス、地域包括ケアシステムにおけるサービス	
	2	通所施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査① 準備	
	3	通所施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査② 準備	
	4	通所施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査③ 実施	
	5	通所施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査④ 実施	
	6	通所施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査⑤ 実施	
	7	生活の場における課題の整理①	
	8	生活の場における課題の整理②	
	9	生活の場における課題の整理③	
	10	生活の場における課題の解決に向けた支援方法の検討①	
	11	生活の場における課題の解決に向けた支援方法の検討②	
	12	生活の場における課題の解決に向けた支援方法の検討③	
	13	事例に対する具体的な支援方法の検討①	
	14	事例に対する具体的な支援方法の検討②	
15	事例に対する具体的な支援方法の検討③		
教 科 書	配付資料、地域作業療法学Ⅰ・Ⅱのテキスト		
事前事後の予習復習	予習は、シラバスの確認と配付資料、テキストの関連内容部分を読んでおく。復習は、配付資料と授業内容を振り返り、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	地域リハビリテーションの関連著書		
成 績 評 価 方 法	レポート (100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業1回目のガイダンスで説明する。		